



Osaka SDGs ビジョン

～大阪がめざす「SDGs 先進都市」の姿～

令和2年3月版

大阪府 政策企画部 企画室



目次

◆Osaka SDGs ビジョン	… 1
1. ビジョンの策定意義	… 3
2. 基本的な考え方	… 4
3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方	… 6
4. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」	… 12
5. SDGs 先進都市をめざして	… 12
参考 SDGs に関して	… 13
用語解説	… 16
◆参考資料集	… 17
1. Osaka SDGs ビジョン策定に係る有識者ワーキンググループ	… 19
2. SDGs の 17 ゴールの到達点分析	… 21
(1) 「SDGs17 ゴールの到達点」について	… 22
(2) 個別ゴール毎の検証	… 26
3. アンケート調査	… 60
(1) 一般府民向け調査	… 61
①概要、②18歳～29歳、③30歳以上	
(2) 若者（学生）向け調査	… 74
①大学別の傾向【大学 A】、②大学別の傾向【大学 B】	
③大学別の傾向【大学 C】、④大学別の傾向【大学 D】	
(3) 企業向け調査	… 90
◆終わりに	… 93



◆Osaka SDGs ビジョン◆



1. ビジョンの策定意義

- Osaka SDGs ビジョンは、2025年大阪・関西万博の開催都市として、**世界の先頭に立ってSDGsの達成に貢献する「SDGs先進都市」を実現するため**、大阪がめざすSDGs先進都市の姿を明確にし、府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーと共有することで、**オール大阪でSDGsの新たな取組みの創出を図っていくこと**を目的に策定。
- **本ビジョンを指針に、大阪のあらゆるステークホルダーが、SDGsの17ゴールや169のターゲットの達成に向け一緒になって取組み、SDGs社会を実現していくことは、大阪が、未来に向かって持続的に成長し、府民一人ひとりが「豊かさ」や「安全・安心」を実感できる社会へと発展するための基盤づくりにつながるもの。**
- 2025年に開催される大阪・関西万博のテーマである「**いのち輝く未来社会のデザイン**」は、**SDGsが達成された社会**をめざすもの。大阪では、**万博を「SDGs社会を具現化し世界とともに未来をつくる」絶好の機会として本ビジョンを推進**。2025年に向け、SDGs先進都市としての基盤を整えながら、**万博のレガシーとして「SDGs先進都市」を実現。2030年のSDGsの達成に貢献していく。**

2. 基本的な考え方

(1) SDGsの推進に向けた基本的な考え方

- SDGsの推進は、府や市町村、府民、企業など、あらゆるステークホルダーが自律的に取り組むことに大きな意味がある。
- 一人ひとりが「誰一人取り残さない」、「大胆に変革する」という国際合意の視点を重視し、常に野心的な目標を掲げながら、17のSDGsを意識し、考え、行動しなければならない。大阪では、こうした考えのもとに、みんなで一緒に「SDGs先進都市」の実現をめざしていく。

【取組みの視点】

- ① より生き生きとした生活をめざし、強みを伸ばしていく
- ② “いのち”や暮らしの基盤を確立するため、弱みを克服していく
- ③ 大阪の強みや歴史、文化などを活かして取組み、世界をリードしていく
- ④ 次の世代によりよい大阪を引き継ぐため、社会システムや価値観の大きな変革を図っていく

2. 基本的な考え方

(2) 府の役割

- ① 府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーにSDGsを広く知っていただく
⇒ SDGsの更なる浸透を図り、これまでにSDGsになじみのなかった新たなステークホルダーの掘り起こしや具体的な行動につなげる
- ② 様々なステークホルダーの取組みをSDGs実現に向けて相互につなぎ合わせていく
⇒ 関西SDGsプラットフォームや国関連機関、経済界、金融機関などと連携し、それぞれのネットワークを活かしながら、ステークホルダー間のマッチングと新たな取組みの創出を図る
- ③ 府自らもステークホルダーの一員として、SDGsに貢献する
⇒ 庁内各部署の主体的な取組みの更なる充実・強化を図り、SDGsとして取り組むからこそできる施策を幅広く展開していく
- ④ ハード・ソフト両面から「SDGsを具現化した都市づくりを進める
⇒ 大阪の持続的成長や、府民の豊かさ、安全・安心の実現に向け、SDGsの理念に沿った社会システムや価値観の変革を進める

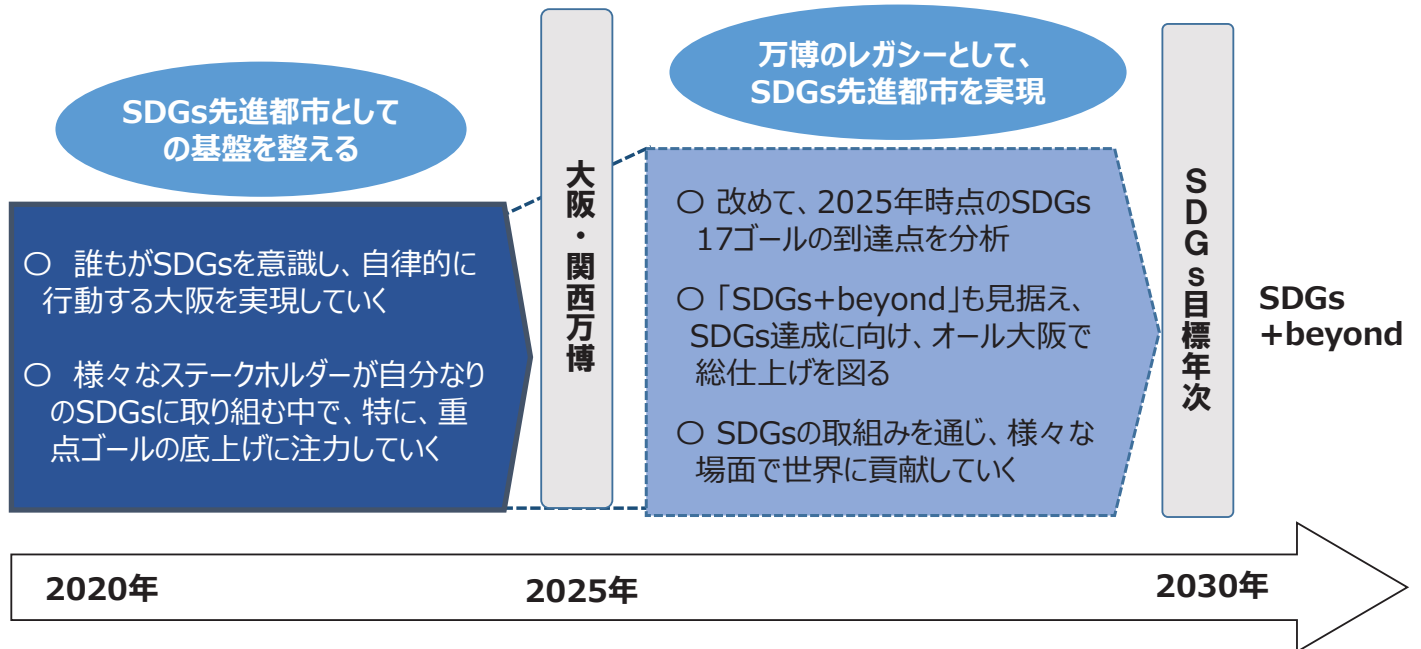
(3) 目標年次

- 本ビジョンの目標年次は、2015年の国連持続可能な開発サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の目標年次である2030年とする。

2. 基本的な考え方

(4) 取組工程

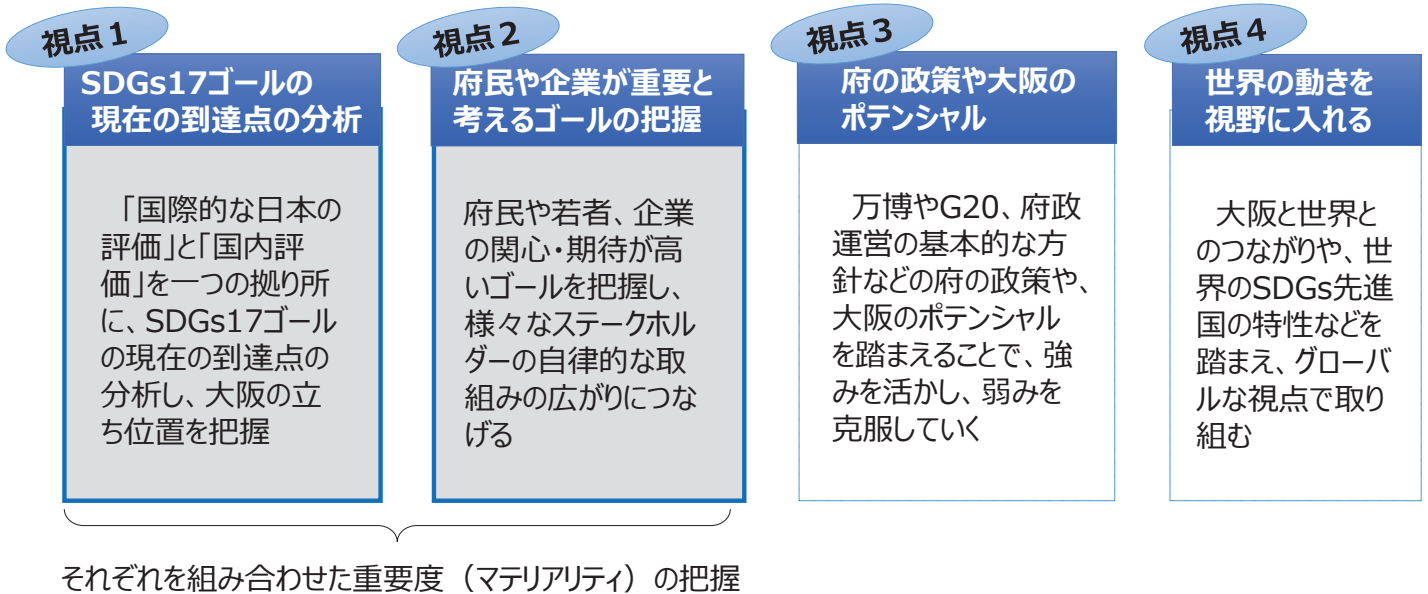
- 万博に向け、「SDGs先進都市」としての基盤を整え、2030年のSDGs目標年次に向けた総仕上げを図る中で、万博のレガシーとして「SDGs先進都市」を実現する。



3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(1) 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

- 2025年大阪・関西万博に向け、健康や福祉、農業、環境、エネルギー、人権、ジェンダーなど、17のSDGs全てを俯瞰しながら、特に、次の4つの視点から絞り込んだ「重点ゴール」に注力していく。

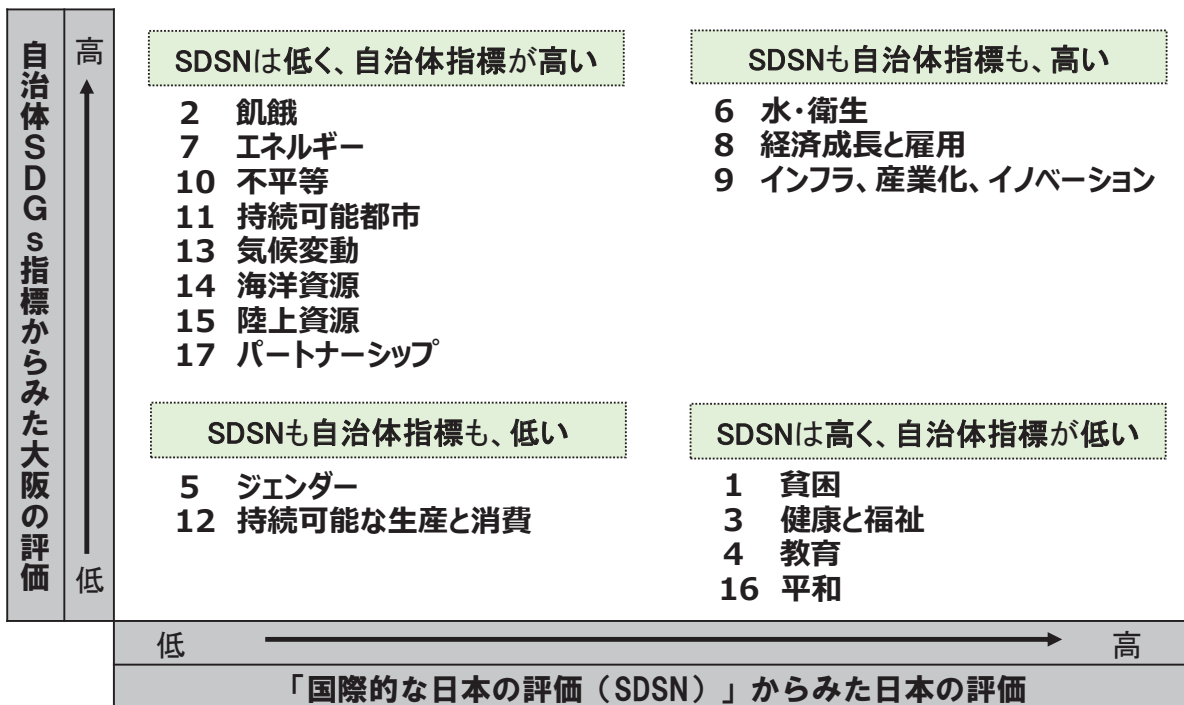


3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(2) SDGs17ゴールの現在の到達点の分析 【① 個別ゴールの4分類整理】

視点1

- 公表されている「国際的な日本の評価（SDSN）」と「国内評価（自治体SDGs指標）」を一つの拠り所に、SDGs17ゴールの現在の到達点を4つに分類して分析。



3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(3) SDGs17ゴールの現在の到達点の分析 【② 4分類の分析】

視点1

<p>■ 「SDSNも自治体指標も、高い」ゴール 6 水・衛生、 8 経済成長と雇用 9 インフラ・産業化・イノベーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大阪の強みを活かすことができるゴール。他のゴールの課題の克服や、先進事例の発信することなど、国際貢献につなげることができる。
<p>■ 「SDSNは高く、自治体指標が低い」ゴール 1 貧困、 3 健康と福祉 4 教育、 16 平和</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「1 貧困」では相対的貧困率や生活保護の割合、また、「3 健康と福祉」では癌などの死亡率や結核・HIVなどの感染者数、「4 教育」では小中学生の平均正答率、「16 平和」では人口10万人当たりの刑法犯認知件数や児童虐待相談対応件数など、府民のいのちや暮らし、次世代の育成に関わる国内の個別指標が相対的に低い評価となっており改善が必要。
<p>■ 「SDSNは低く、自治体指標が高い」ゴール 2 飢餓、 7 エネルギー 10 不平等、 11 持続可能都市 13 気候変動、 14 海洋資源 15 陸上資源、 17 パートナースhip</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「11 持続可能都市」は、まちづくりや災害対応、都市魅力や文化の創造、飢餓、エネルギー、不平等、気候変動、パートナーシップなど、他の全てのゴールを包摂する自治体にとっての重要なゴール。 天然資源の保護に関わる「14 海洋資源」、「15 陸上資源」は、水産業産出額や森林面積割合など、産業構造や地理的要件により大阪において大きく評価を高くしていくことは難しい状況。一方で、廃プラスチックの削減やリサイクルの促進など環境負荷抑止の観点から「12 生産と消費」に集約して取り組むことができる。 「2 飢餓」、「7 エネルギー」、「10 不平等」、「13 気候変動」、「17 パートナースhip」に関しては、それぞれ、土地の肥沃度や再生可能エネルギーの割合、また、国内の所得格差やCO2排出量、途上国支援額など、日本全体で改善が必要な指標に関する国際評価が低い一方で、国内においては、全体として高い評価のゴールであることから、引き続き継続して取り組む。
<p>■ 「SDSNも自治体指標も、低い」ゴール 5 ジェンダー、 12 持続可能な生産と消費</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「5 ジェンダー」は、国際的な日本の評価が低く、国を巻き込んだ形で取り組みを進めるとともに、配偶者からの暴力相談件数や性犯罪の認知件数など安全・安心に関わる個別指標に関しては、「16 平和」に集約して取り組む必要がある。 「12 持続可能な生産と消費」は、持続可能な社会の構築のために重要なゴールであり、府民の関りも深く、また、途上国が先進国に対し強く期待するゴールでもある。

3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(4) SDGs17ゴールの現在の到達点の分析 【③ 一定のまとめ】

視点1

- 「1 貧困」や「3 健康と福祉」、「4 教育」、「16 平和」については、誰一人取り残さないというSDGsの理念や、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に不可欠となる府民の「いのち」や暮らし、また、子どもや孫など、将来の世代に関わるゴールとして、優先的に取り組むべき課題が多いと考えられる。
- 持続可能な社会を未来に受け継ぐ基盤となる環境関連のゴールを集約できる「12 持続可能な生産と消費」が国際的にも国内的にも評価が低いことに関しては、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」などのG20大阪サミットのレガシーを未来に生かすという観点から、取り組むべき課題があると考えられる。
- これらの課題には、他の全てのゴールや自治体の様々な役割を包摂する「11 持続可能な都市」に関する取り組みや、「8 経済成長と雇用」、「9 インフラ・産業化・イノベーション」など国際的にも国内的にも評価が高いゴールの強みを活かすことが重要と考えられる。

◇課題が多いと考えられるゴール



◇強みを活かせると考えられるゴール



3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(5) 府民や若者、企業が重要と考えるゴールの把握 【① 調査結果】

視点2

○ SDGs17ゴールの現時点の到達点をもとに、「大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール」について調査

① 府民の声 (インターネットアンケート)

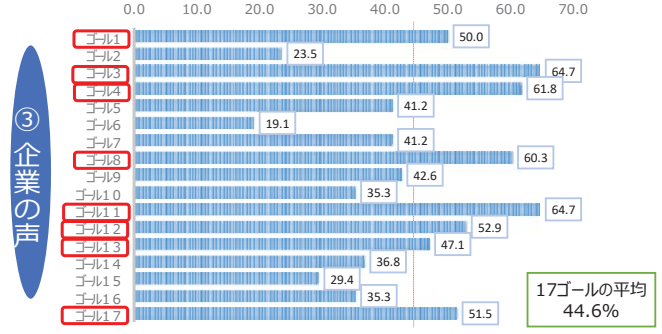
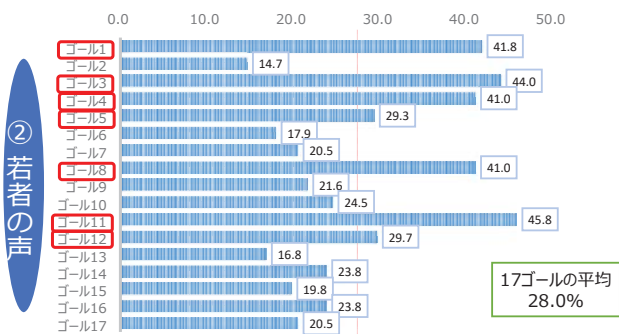
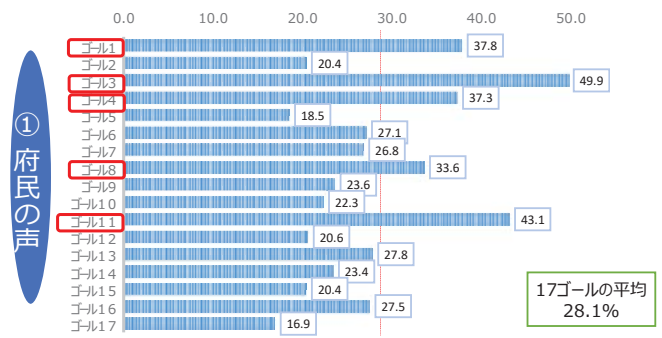
- 対象：大阪府民1,000人 (18歳~90歳)
- 実施期間：2019年10月29日

② 若者の声 (府内の大学で授業等を実施)

- 対象：学生273人 (18歳~30歳)
- 実施期間：2019年10月21日

③ 企業の声 (フォーラムを実施)

- 対象：企業等に属する府内外の居住者135人 (うち府内居住者68人)
- 実施期間：2019年11月18日



3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

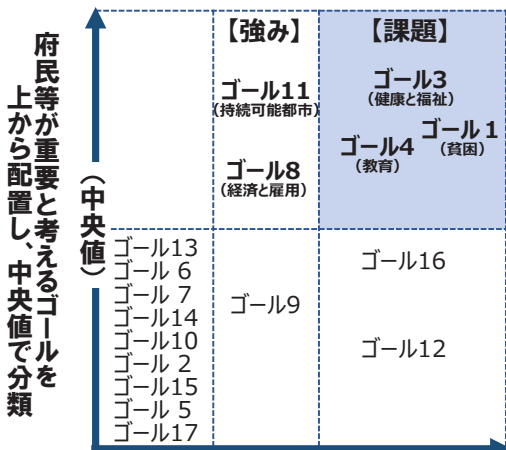
(6) 府民や若者、企業が重要と考えるゴールの把握 【② 到達点との重要度分析】

視点2

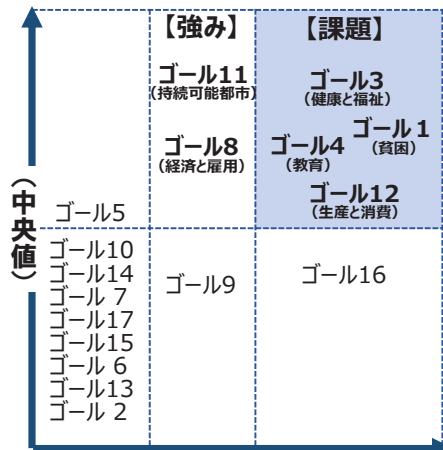
○ SDGs17ゴールの現在の到達点と、府民や若者、企業が重要と考えるゴールの重要度分析を実施。

⇒ 府民、若者、企業それぞれ全てにおいて、課題は「ゴール3」、強みは「ゴール11」の重要度が高いという結果

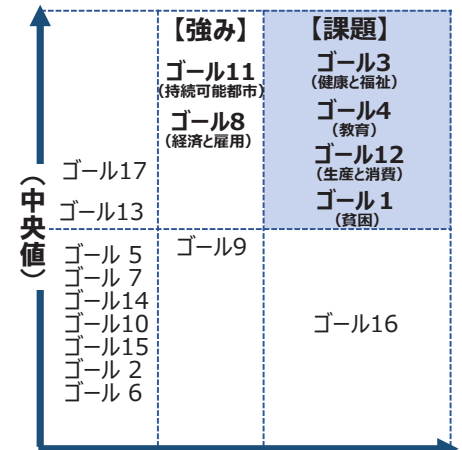
1. 府民全体の声 (2019.10)



2. 若者の声 (2019.10~11)



3. 企業の声 (2019.11)



SDGs17ゴールの現在の到達点を踏まえ、「課題が多いと考えられるゴール」と「強みを活かせるゴール」、その他のゴールに分類

3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(7) 府の政策や大阪のポテンシャルとの整合 【① 大阪・関西万博について】

視点3

- 大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの下、一人ひとりが心身ともに健康で、それぞれの可能性を最大限に発揮できる生き方をどう実現するか、そうした多様な生き方を支える持続可能な社会・経済システムをどう構築するか、世界の人々とともに考え、ソリューションを共創していくことをめざす。大阪・関西万博が開催される2025年は、SDGs達成に向けた取組みを加速させる絶好の機会となる。

【SDGsと大阪・関西万博】

SDGs	大阪・関西万博
<p>将来像 SDGsが達成された社会</p>	<p>テーマ いのち輝く未来社会のデザイン</p>
<p>理念 ◆ 誰一人取り残さない ◆ 将来世代のニーズを損なうことなく、今の世代のニーズを満たす</p>	<p>サブテーマ Saving Lives (いのちを救う) Empowering Lives (いのちに力を与える) Connecting Lives (いのちをつなぐ)</p>
<p>達成ポイント 先端技術を活用した社会課題の解決</p>	<p>コンセプト People's Living Lab (未来社会の実験場)</p>
<p>特徴 持続可能な社会の実現に向け、世界の大胆な変革が必要となることを、全ての国連加盟国が採択 (人類の英知の結集)</p>	<p>特徴 地球規模のさまざまな課題に取り組むために、世界各地から英知を集める場</p>
<p>目標年限 2030年</p>	<p>開催時期 2025年 (5年に1度開催される登録博)</p>
<p>大阪・関西万博は、SDGsの達成に向け、世界のベクトルを一つにできる最後の登録博</p>	

3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(8) 府の政策や大阪のポテンシャルとの整合 【② G20大阪サミットの開催】

視点3

G20大阪サミットの概要

- 令和元年6月、日本初となるG20サミットが大阪で開催。
- 主要国のリーダーが一堂に会し、世界の経済成長の牽引と格差への対処、環境・地球規模課題への貢献など、幅広い分野について議論。
- 採択された「G20大阪サミット首脳宣言」では、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」などが共有された。

SDGsに関係する主な成果

女性のエンパワーメント (ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」) や、気候変動 (ゴール13「気候変動」)、プラスチックごみ問題 (ゴール12「つくる責任、つかう責任」、ゴール14「海の豊かさを守ろう」) など、SDGsと関連するテーマが重要議題として議論された。

◆「G20大阪サミット首脳宣言(仮訳)」 SDGs関連部分の記載を抜粋

女性のエンパワーメント

- ジェンダー平等と女性のエンパワーメントは、持続可能で包摂的な経済成長に不可欠。政策のあらゆる側面において、かつ今後のサミットにおける横断的な課題として、これらの重要性を再確認する。

気候変動

- 公的及び民間資金の動員及び両者の連携を含む持続的開発のための包摂的資金調達、並びに、低排出及び強じんな開発のための幅広い分野におけるイノベーションを促進するために努力する。
- 非国家主体を含む広範な参加を得て、全てのレベルにおいて気候に関する行動をとることが、このようなパラダイム・シフトを実現させる鍵となる。

環境

- 循環経済、持続可能な物質管理、3R (リデュース、リユース、リサイクル) 及び廃棄物の価値化等の政策やアプローチを通じた資源効率性の向上が、SDGs達成、及び、広範な環境問題に対処し、競争力及び経済成長を向上し、資源を持続可能な方法で管理し、雇用を創出することに貢献することを認識する。
- 海洋ごみ、特に海洋プラスチックごみ及びマイクロプラスチックに対処する措置は、全ての国によって、関係者との協力の下に、国内的及び国際的に取られる必要があることを再確認する。共通の世界のビジョンとして、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有し、社会にとってのプラスチックの重要な役割を認識しつつ、包括的なライフサイクルアプローチを通じて、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す。

3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(9) 府の政策や大阪のポテンシャル【③ 府政運営の柱建て】

視点3

いのちを守り、成長を支える危機対応力の強化

- ◆健康危機事象への対応力強化
- ◆将来の自然災害に備えた防災・減災対策
- ◆自助・共助・公助の適切な連携による災害対応力の充実・強化

万博を契機とした成長・内外の課題解決をめざす取組みの推進

- ◆万博成功のための準備の加速
- ◆先端技術の活用によるスマートシティ化の推進
- ◆健康・医療をはじめ様々な産業分野でのイノベーションの促進、グローバル競争力強化等による産業基盤の充実 など

国内外の人々を引きつける都市魅力の向上

- ◆IRの実現に向けた取組み
- ◆世界に存在感を示す都市魅力・都市空間の創造

未来を担う子どもたちが輝ける環境の充実

- ◆子どもの健やかな成長を支えるセーフティネットの充実
- ◆全ての子どもが平等にチャレンジし、可能性を追求できる教育の一層の充実

誰もが安心して暮らし、活躍できる環境の充実

- ◆全ての人々が安心して暮らせる総合的な安全対策の推進
- ◆生涯を通じて心身ともに健康に暮らせる福祉・医療のさらなる充実
- ◆多様な人材の活躍につながる取組みの強化

(出典) 令和2年度「府政運営の基本方針」

3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(10) 府の政策や大阪のポテンシャル【④ 大阪のポテンシャル】

視点3

- 大阪には、**世界有数のライフサイエンスクラスター**の形成や、「**つukれないものがない**」と言われる**中小企業の技術力**、健康に関わる**スポーツ関連産業の集積**や**食文化の発展**など、これまで積み上げてきた**様々なポテンシャルが蓄積**。
- 一方、**人口減少**や世界に先駆けた**超高齢社会の到来**、**男女ともに短い平均寿命と健康寿命**、**女性の就業率の低さ**など様々な課題にも直面しているが、大阪が持つ強みを活かしながら、これらの課題を克服する姿を発信することで、**国際社会に貢献できる可能性**がある。

◆大阪の主なライフサイエンス関連大学・研究機関等



医薬基盤・健康・栄養研究所



大阪大学・大阪大学医学部附属病院

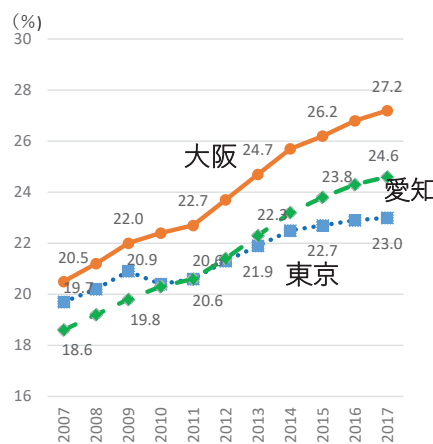


国立循環器病研究センター



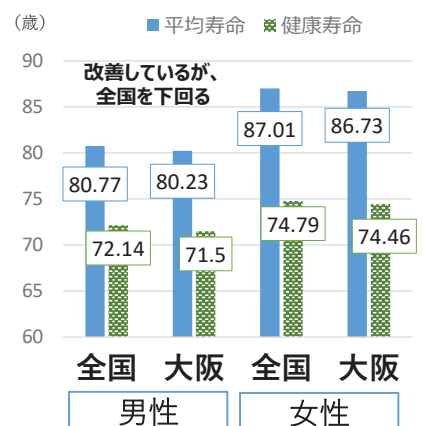
PMDA関西支部

◆高齢化率の推移



出典：総務省「人口推計」より作成

◆健康寿命、平均寿命



出典
平均寿命：厚生労働省都道府県別生命表（平成27年）
健康寿命：厚生労働科学研究班報告書データ（平成28年）

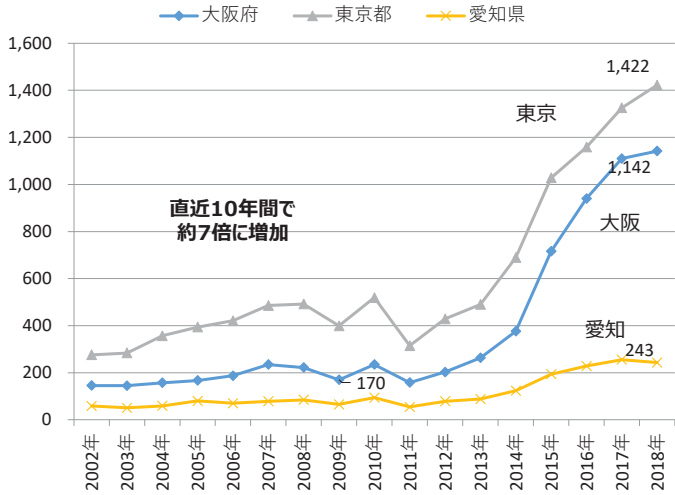
3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(11) 世界の動きを視野に入れる 【① 大阪と世界のつながり】

視点4

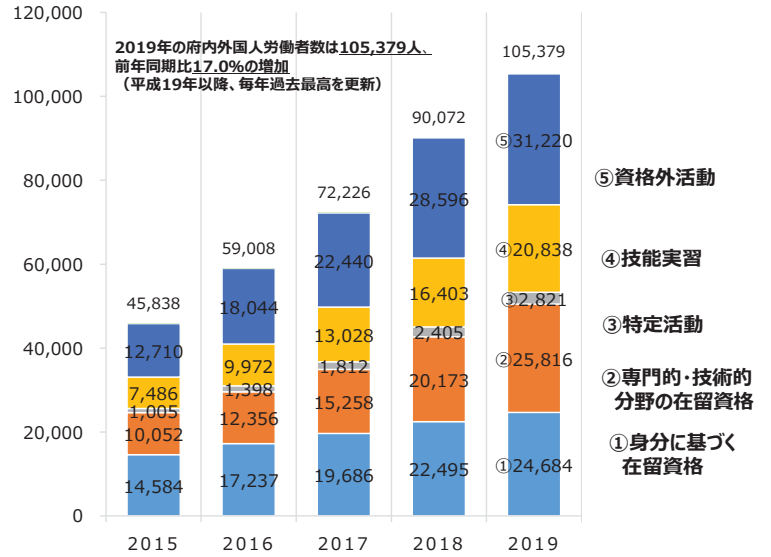
- 大阪は、難波津の時代から、外交や内政、物流ネットワークの重要な拠点として、内外から多くの人やモノを受け入れ、様々な知識や技術を取り入れながら、アジアを中心とする世界とともに発展を遂げてきた。
- 近年においても、海外との貿易や府内企業の海外進出が増加するとともに、来阪外国人や外国人労働者が増加するなど、アジアを中心とする世界各国とのつながりが深まっている。

◆来阪外国人（インバウンド）の推移



出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客統計」
観光庁「訪日外国人消費動向調査」

◆外国人労働者数の推移



出典：厚生労働省 外国人雇用状況

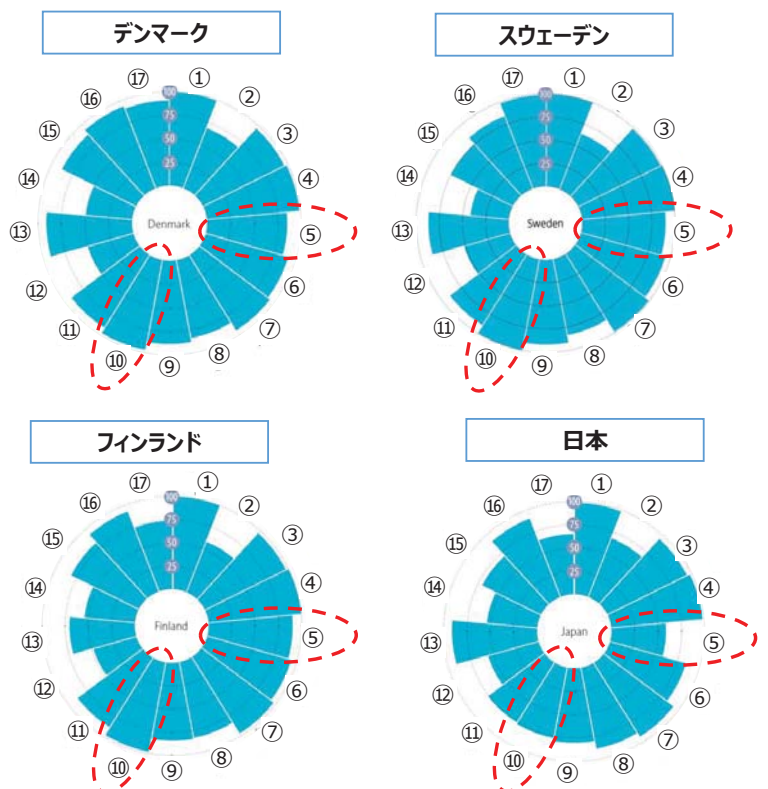
3. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

(12) 世界の動きを視野に入れる 【② 国際評価が高いSDGs先進国の特性】

視点4

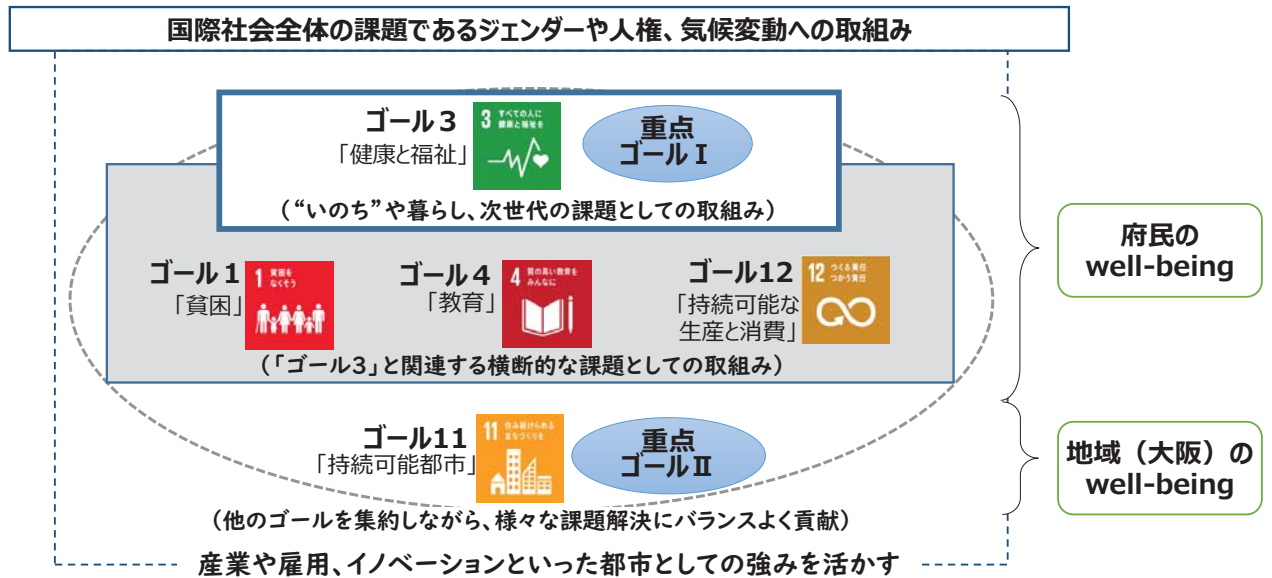
- SDSNで国際評価が高い国（トップ3）と日本では、特に、「ゴール5 ジェンダー」と「ゴール10 平等」の評価が異なる傾向。

順位	国名	総合スコア
1位	デンマーク	85.2
2位	スウェーデン	85.0
3位	フィンランド	82.8
4位	フランス	81.5
5位	オーストリア	81.1
6位	ドイツ	81.1
7位	チェコ	80.7
8位	ノルウェー	80.7
9位	オランダ	80.4
10位	エストニア	80.2
11位	ニュージーランド	79.5
12位	スロベニア	79.4
13位	イギリス	79.4
14位	アイスランド	79.2
15位	日本	78.9
16位	ベルギー	78.9
17位	スイス	78.8
18位	韓国	78.3
19位	アイルランド	78.2
20位	カナダ	77.9



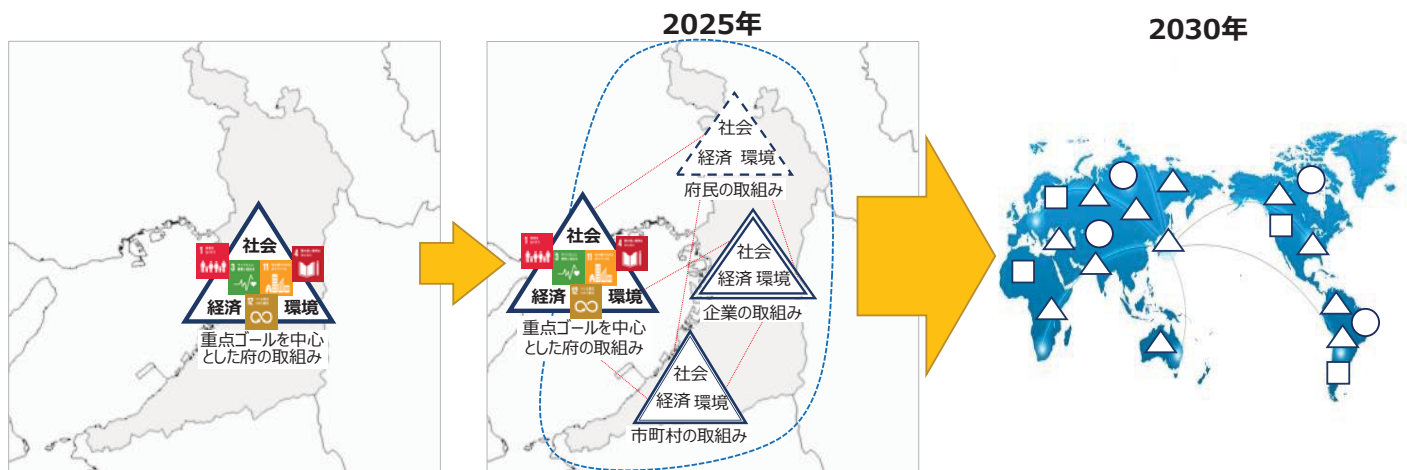
4. 2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」

- SDGs先進都市として、国際社会全体の課題であるジェンダーや人権、気候変動に取り組むことはもとより、万博のテーマである“いのち”や暮らし、次世代に関わる課題を有する**ゴール3**を「**府民の豊かさ(well-being)**」をめざす**重点ゴール**として位置づけ、関連する横断的な課題である**ゴール1、4、12**に取り組む。
- また、他のゴールを集約しながら様々な課題解決にバランスよく貢献できる**ゴール11**を「**大阪の豊かさ(well-being)**」をめざす、もう一方の**重点ゴール**として取り組みを広げていく。
- 重点ゴール等の推進にあたっては、**産業や雇用、イノベーション**といった都市としての強みを活かしていく。



5 SDGs先進都市をめざして

- 大阪が「SDGs先進都市」となるために最も大切なことは、府民や企業、市町村など、**誰もがSDGsを意識し、自分なりの強みや課題意識の中で、一人ひとりが自律的に17のSDGs全ての達成をめざしていくこと。**
- とりわけ、課題を克服すべきゴールや世界に貢献できるゴールを「**重点ゴール**」に位置づけ、**様々なステークホルダーの連携と協調により注力していくことが、世界のトップランナーとして重要となる。**
- こうした考えのもと、まずは、2025年の**大阪・関西万博**において、**全てのステークホルダーが、大阪のあらゆる場所でSDGsを体現した行動がなされている姿を世界に向けて発信していく。**そのうえで、**2030年**に向け、日本全体や世界とのつながりの中で、**先頭に立って、世界とともにSDGsを達成していく。**



万博において、大阪のあらゆるステークホルダーが、会場の内外でSDGsを体現し、行動する姿を世界に発信

日本全体や世界とのつながりの中で、先頭に立って、世界とともにSDGsを達成する

(1) SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは

- 2015年9月にニューヨークの国連本部において開催された「国連持続可能な開発サミット」の成果文書として全会一致で採択された「**我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ**（以下「2030アジェンダ」という）」で設定された、先進国と開発途上国が共に取り組むべき**国際目標**。
- 「**誰一人取り残さない持続可能な世界の実現**」に向け、**大胆に変革していく**ことを基本理念に、**経済・社会・環境という3つの側面**を不可分のものとして調和させ、**貧困や格差の撲滅**などに統合的に取り組んでいくこととしている。
- SDGsには、**17の持続可能な開発目標（ゴール）**と、それらの**目標を達成するための169の具体的なターゲット**が設定されており、各国の政府や民間セクター、市民社会、国連機関、その他の主体及び動員可能なあらゆる資源を動員し、全ての目標とターゲットの実施のために世界が連帯し、地球規模レベルで集中的な取組みを促進していくという方向性が2030アジェンダに示されている。



(2) SDGsの17ゴール



あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する



あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



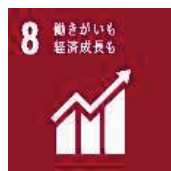
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の安全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する



強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



各国内及び各国間の不平等を是正する



包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する



持続可能な生産消費形態を確保する



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



持続可能な開発のための海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

参考. SDGsに関して

(3) SDGsの特徴 ① (実施手段)

- SDGsでは、17の目標（ゴール）を達成するための実施手段について、これまでに国際的な枠組みの中で取り決められた貿易ルールや環境協定とは異なり、**ルールで縛らず、様々なステークホルダーが自ら考え具体的な行動につなげていくという新しい手法**が用いられている。
- 17のゴールと169のターゲットの下には、232のインディケータと呼ばれる指標が提案されているが、これらも、国際的に目標達成状況の進捗を測るものであり**個別目標値が設定されているわけではない**。
- また、**それぞれの国の現状や能力、発展段階の違いが考慮され、かつ、それぞれの国や地域の政策や優先度が尊重されながら、世界全体で取組みを進めていくこと**とされている。

(4) SDGsの特徴 ② (統合的に取り組む視点)

- SDGsの推進にあたっては、例えば、社会的に弱い立場にある人々のために交通利便性を向上させるための取組みが、一部の自然環境や生態系に負荷をかける可能性があるなど、**トレードオフ（両立しえない関係性）が生じる可能性がある**。
- このため、**様々な社会課題を幅広くとらえながら取組むという複眼的な配慮**、また、17のゴールや**経済、社会、環境という3つの側面に統合的に取り組み、可能な限りトレードオフの緩和を図ることや相乗効果を生み出していくという考え方が重要**となる。
- また、トレードオフの関係性から、これまでパートナーシップを結ぶことが難しかったステークホルダー同士が、**SDGsの達成をめざすことを一つのきっかけとし、積極的に連携、協調を図っていくことが求められる**。

参考. SDGsに関して

(5) SDGsの特徴 ③ (企業への期待)



- SDGsでは、従前の「ミレニアム開発目標（MDGs : Millennium Development Goals）」と比較して、**企業を目標達成に向けた主要な実施主体として明示的に位置付けていることが特徴**となっている。また、ビジネスと持続可能な開発委員会が2017年1月に公表した「ビジネス&持続可能開発委員会報告書」では、SDGsが達成された場合には、外部経済効果を考慮すると年間12兆ドルの新たな市場機会につながるとの報告がなされている。
- 企業には、**地域におけるSDGs達成に向けた事業活動を通じて地域課題の解決を図りながら、新たなキャッシュフロー（お金の流れ）やしっかりと収益を生み出し、得られた収益を地域に再投資することにより、企業や事業の成長と地域課題の解決を同時に推進する、自律的好循環を生み出していく役割が期待される**。

【SDGsと大阪の親和性】

大阪は、難波津の昔から、外交や内政、物流ネットワークの重要な拠点として、内外から多くの人やモノを受け入れ、様々な知識や技術を取り入れながら**世界とともに発展**。また、**大阪人は**富を重視、利益を追求するといった気質である一方、「三方よし」に代表されるように、**社会貢献、公利公益を重んじる精神**を有し、現在も数多くの大阪の企業が世界の医療や貧困等の課題に貢献。

開放性	
貿易都市・堺の繁栄 	G20大阪サミット 
大阪は、国内外の玄関口として日本の中の重要な拠点として、内外から多くの人やモノを受け入れ様々な知識や技術を取り入れながら発展。	

ステークホルダー間の連携
業種や立場を超えた連携・協調の促進

社会貢献	
「三方よし」近江商人 	「水道哲学」 
「三方よし」、「水道哲学」に代表されるように、社会貢献、公利公益の精神を重んじる気質。	

ビジネスの力の活用
資金面を含めた民間の力が重要

先取	
先物取引市場 	「やってみなはれ」 
大阪人は進取の気質に富み、世界標準となる新たな社会システムや、産業、製品等を数多く生み出してきた。	

一人ひとりのアクションの拡大
SDGsを「知って、とりあえずやってみる」

(6) 政府の取組み

- 政府においては、内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚を構成員とする「**SDGs推進本部**」を2016年5月に設置。2016年12月の第2回会合において、SDGsを達成するための中長期的な国家戦略として、8つの優先課題を取りまとめた「**SDGs実施指針**」が決定された（2019年12月に一部改訂）。

(SDGs実施指針の8つの優先課題)

- ① あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現
 - ② 健康・長寿の達成
 - ③ 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
 - ④ 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
 - ⑤ 省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会
 - ⑥ 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
 - ⑦ 平和と安全・安心社会の実現
 - ⑧ SDGs実施推進の体制と手段
- また、2017年12月以降は、実施指針の優先課題に対する政府の主要な取組みをまとめた「**SDGsアクションプラン**」を定期的に策定し、「**SDGsと連動するSociety5.0の推進**」、「**SDGsを原動力とした地方創生**」、「**SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント**」を三本柱に、SDGsの実現に取り組んでいる。
 - このほか、国内においてSDGsを浸透させるため、「**ジャパンSDGsアワード**」や「**SDGs未来都市**」及び自治体SDGsモデル事業の選定、「**JAPAN SDGs Action Platform**」の設置などを通じ、SDGsの具体的な活動の見える化等を推進。

第3回ジャパンSDGsアワード

大阪府
SDGs推進副本部長
(内閣官房長官) 賞受賞



用語解説

初出ページ	用語	解説
3	ステークホルダー	本ビジョンでは、SDGsに取り組む全ての機関、組織、人々などの言葉として用いている。
3	レガシー	遺産、受け継いだもの。万博やオリンピック・パラリンピック等の国際イベントにおいては、開催時だけでなく、その後の発展につながるような「レガシー（遺産）」の重要性が指摘されている。
6	SDGs + beyond	本ビジョンでは、SDGs及びSDGsの達成後の世界が取り組むべき課題等を総称する言葉として用いている。
7	マテリアリティ分析	重要課題を特定するための分析手法。
8	SDSN	SDSNは、「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」（英語名称：Sustainable Development Solutions Network）の略称。2012年8月、国連の事務総長が設立を発表したグローバルなネットワーク。本ビジョンでは、SDSNとベルテルスマン財団（ドイツ）が公表している世界各国のSDGsの進捗レポートを指す言葉として用いている。
8	自治体SDGs指標	一般社団法人建築環境・省エネルギー機構が発行した、日本の自治体におけるSDGsの達成に向けた進捗状況を管理する指標リスト。
10	大阪ブルー・オーシャン・ビジョン	2019年6月に開催されたG20大阪サミットの首脳宣言において、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す共通の世界のビジョンとして共有されたもの。
14	エンパワーメント	社会的地位の向上と能力強化。
14	マイクロプラスチック	5mm以下の微細なプラスチックごみ。
14	ライフサイクルアプローチ	商品や資源の生産・加工・流通・販売・消費・再利用・処分などのプロセス全体に係る環境負荷や金銭的成本等を分析・評価する手法。
15	スマートシティ	先進的技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種の課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出する取組み。
16	ライフサイエンス	生命現象の解明及びその成果の応用に関する総合的科学技术。
16	クラスター	集合体。集まり。ひとまとまり。本ビジョンでは、産業の「集積」の意。
19	Well being	豊かさ、幸福。
21	セクター	部門、分野。
24	MDGs	MDGsは、ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals）の略称。2000年9月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の国連加盟国代表が、21世紀の国際社会の目標として、より安全で豊かな世界づくりへの協力を約束する「国連ミレニアム宣言」と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたもの。
25	Society5.0	狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指す。仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。

初出ページ	用語	解説
25	ジャパンSDGsアワード	SDGsの達成に向けた企業・団体等の取組みを促し、オールジャパンの取組みを推進するために、SDGs達成に資する優れた取組みを行っている企業・団体等を、国のSDGs推進本部として選定し表彰するもの。
25	SDGs未来都市	自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組みを行う都市として、国が選定した都市。
25	Japan SDGs Action Platform	社会に広がるSDGsに関連した取組みを幅広く紹介することを目的に国が運営している情報基盤。



◆ 參考資料集 ◆



1. “Osaka SDGsビジョン”策定に係る有識者ワーキンググループ

有識者ワーキンググループの概要

- 「Osaka SDGs ビジョン」の策定に向け、「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」検討有識者ワーキンググループを設置。
- これまで計6回開催。（2019年4月22日、5月27日、6月24日、8月26日、12月4日、2020年3月19日）

《有識者（所属五十音順）》

- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| ○ 関西大学 社会学部 | 草郷 教授 |
| ○ 国際協力機構（JICA）関西センター | 西野 所長 ※2020年1月まで
佐藤 所長 ※2020年2月から |
| ○ 株式会社日本総合研究所 | 村上 シニアマネージャー |
| ○ 法政大学 デザイン工学部 | 川久保 准教授 |
| ○ 吉本興業ホールディングス株式会社 | 羽根田 SDGs推進本部長 |

＜これまでのゲストスピーカー＞

- 国連広報センター 根本 センター長
- WHO神戸センター 茅野 医官

《主な議題》

- 全体的な取組みの方向性
- 「めざす姿」を考えるにあたって考慮すべき視点
- SDGs17ゴールに係る府の到達点や課題
- 「中間整理案」について
- 重点ゴールについて
- 「Osaka SDGsビジョン（案）」について



有識者ワーキンググループにおけるこれまでの主な意見

考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪の様々なステークホルダーが、SDGsに向けて意識し、行動することが重要。 ・大阪の地域性や府民目線を大事にすべき。府民の心に響く、届きやすいものとする必要。 ・府民や府内の企業がSDGsをどのように捉えているか、その声をしっかりと把握すること。 ・様々なステークホルダーを巻き込み、それらの取組みの関連性を活かし、つながるストーリーを展開。
未来像	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち輝く未来社会をめざすビジョン」を大きく前進、加速させるものではないか。
視点	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない」、「大胆に変革する」という国際合意の視点が重要。 ・「世界への貢献」と次世代に残す「ローカルな課題への対応」という2つのベクトルがある。 ・府には、大阪全体を「いのち輝く未来社会」に先導していく方策が求められる。 ・府は、府民の声を具体化できる市町村に独自の取組みを促すコーディネート役を担うべき。 ・強みを伸ばし、弱みを克服していくという考え方は、府民に伝わりやすい。 ・SDGsはビジネスにつながるものでもある。企業の力を引き出すことが重要。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない」というSDGs社会の実現は、かなりチャレンジング。今の社会の弱みの克服と組み合わせ、野心的な目標を掲げて大阪の未来像を描いていくべき。
時間軸	<ul style="list-style-type: none"> ・「2025年の万博までに取組むこと」、「2025年の万博開催時に達成すること」、更に「2025年以降に取組みを加速させていくこと」という3つの時間軸が必要。
「SDGs先進都市」とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・17ゴール全ての国内評価を高めていくこと。 ・現行の府の検証プロセスそのものが先進的な取組みであり、国際的に発信、可視化すべき。 ・主観的な視点で注力するゴールの指標をどこまで伸ばすことができるか、野心的に「上昇率」を設定し、それを達成していくこと（マニフェスト化）がSDGs先進都市としての評価につながる。 ・具体的な取組みの中で、「誰一人取り残さない」という考え方が社会で実践されること。 ・府民の「どうありたいか」という声をきちんと拾い上げることで、変革につなげていくこと。

2. SDGs17ゴールの到達点分析

SDGs17ゴール毎の検証について

◆ 国際的な日本の評価（SDSN）

- ・世界各国のSDGs達成度、ゴール毎の取組みを調査した、「国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（SDSN）」とベルテルスマン財団（ドイツ）が公表している指標。
- ・「2030達成に向けて順調に進んでいる指標」をA、「50%以上で改善しているものの、2030年の達成が困難な指標」をB、「改善割合が50%以下で、2030年の達成が困難な指標」をC、「状態が悪化している指標」をDとして表示。

◆ 国内比較（自治体SDGs指標）

- ・SDGsの指標が世界、国家レベルでしか存在しないこと等を背景とし、自治体の現状を把握することを目的に、「建築環境・省エネルギー機構」が公表している指標。
- ・国内全都道府県・市町村別に集計し、100～0に指数化したうえで、「100以下」をA、「75以下」をB、「50以下」をC、「25以下」をDとして表示。
- ・突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標などは、（※）として独自に評価から除外して整理。

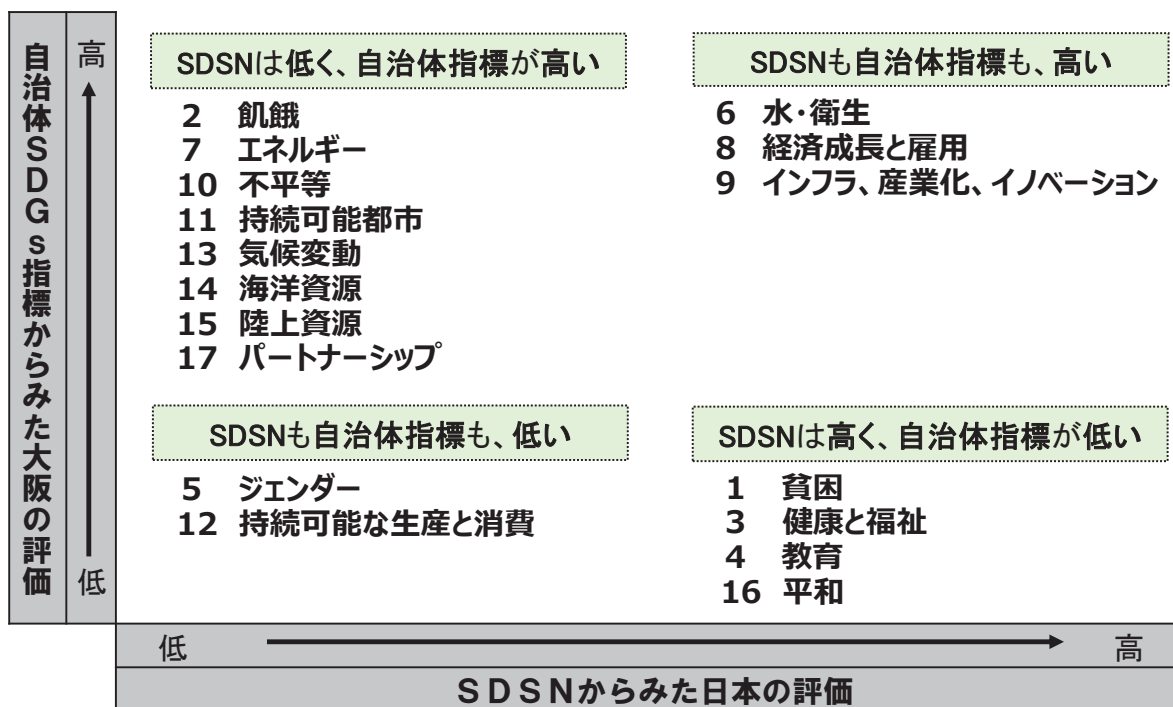
◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

- ・SDSN、自治体SDGs指標を補足するデータ

◆ ゴール毎の到達点について（各ゴールの検証まとめ）

「SDGs17ゴールの到達点」について（個別ゴールの評価）

- 「国際的な日本の評価（SDSN）」と「国内評価（自治体SDGs指標）」からみた個別ゴールの評価は次のとおり。
- 今後、府として、健康や福祉、農業、環境、エネルギー、人権問題、ジェンダーなど、SDGs17ゴール全てに関わる取組みを進めていく中で、特に注力して取り組む「重点ゴール」や「優先課題」の検討につなげていく。



SDGs17ゴールの現在の到達点の分析

【4分類の分析】

<p>■ 「SDSNも自治体指標も、高い」ゴール 6 水・衛生、 8 経済成長と雇用 9 インフラ・産業化・イノベーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪の強みを活かすことができるゴール。他のゴールの課題の克服や、先進事例の発信することなど、国際貢献につなげることができる。
<p>■ 「SDSNは高く、自治体指標が低い」ゴール 1 貧困、 3 健康と福祉 4 教育、 16 平和</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「1 貧困」では相対的貧困率や生活保護の割合、また、「3 健康と福祉」では癌などの死亡率や結核・HIVなどの感染者数、「4 教育」では小中学生の平均正答率、「16 平和」では人口10万人当たりの刑法犯認知件数や児童虐待相談対応件数など、府民のいのちや暮らし、次世代の育成に関わる国内の個別指標が相対的に低い評価となっており改善が必要。
<p>■ 「SDSNは低く、自治体指標が高い」ゴール 2 飢餓、 7 エネルギー 10 不平等、 11 持続可能都市 13 気候変動、 14 海洋資源 15 陸上資源、 17 パートナースhip</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「11 持続可能都市」は、まちづくりや災害対応、都市魅力や文化の創造、飢餓、エネルギー、不平等、気候変動、パートナーシップなど、他の全てのゴールを包摂する自治体にとっての重要なゴール。 ・天然資源の保護に関わる「14 海洋資源」、「15 陸上資源」は、水産業産出額や森林面積割合など、産業構造や地理的要件により大阪において大きく評価を高くしていくことは難しい状況。一方で、廃プラスチックの削減やリサイクルの促進など環境負荷抑止の観点から「12 生産と消費」に集約して取り組むことができる。 ・「2 飢餓」、「7 エネルギー」、「10 不平等」、「13 気候変動」、「17 パートナースhip」に関しては、それぞれ、土地の肥沃度や再生可能エネルギーの割合、また、国内の所得格差やCO2排出量、途上国支援額など、日本全体で改善が必要な指標に関する国際評価が低い一方で、国内においては、全体として高い評価のゴールであることから、引き続き継続して取り組む。
<p>■ 「SDSNも自治体指標も、低い」ゴール 5 ジェンダー、 12 持続可能な生産と消費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「5 ジェンダー」は、国際的な日本の評価が低く、国を巻き込んだ形で取り組みを進めるとともに、配偶者からの暴力相談件数や性犯罪の認知件数など安全・安心に関わる個別指標に関しては、「16 平和」に集約して取り組む必要がある。 ・「12 持続可能な生産と消費」は、持続可能な社会の構築のために重要なゴールであり、府民の関りも深く、また、途上国が先進国に対し強く期待するゴールでもある。

SDGs17ゴールの現在の到達点の分析

【一定のまとめ】

- 「1 貧困」や「3 健康と福祉」、「4 教育」、「16 平和」については、誰一人取り残さないというSDGsの理念や、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に不可欠となる府民の「いのち」や暮らし、また、子どもや孫など、将来の世代に関わるゴールとして、優先的に取り組むべき課題が多いと考えられる。
- 持続可能な社会を未来に受け継ぐ基盤となる環境関連のゴールを集約できる「12 持続可能な生産と消費」が国際的にも国内的にも評価が低いことに関しては、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」などのG20大阪サミットのレガシーを未来に生かすという観点から、取り組むべき課題があると考えられる。
- これらの課題には、他の全てのゴールや自治体の様々な役割を包摂する「11 持続可能な都市」に関する取り組みや、「8 経済成長と雇用」、「9 インフラ・産業化・イノベーション」など国際的にも国内的にも評価が高いゴールの強みを活かすことが重要と考えられる。

◇課題が多いと考えられるゴール



◇強みを活かせると考えられるゴール



SDGs17ゴールの分析概要 (ゴール1～9)



ゴール	類型	全体	主な指標	有識者の主な意見
ゴール1 貧困	日本の国際評価	B	「A」絶対的貧困率 「D」相対的貧困率	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後、特に注力して取組みを進めるべき。 ▶相対的貧困割合が高いことや生活保護の世帯割合が高いことは重要な課題。
	大阪の国内評価	C	「C」相対的貧困世帯割合 「D」母子世帯への平均保護受給期間	
ゴール2 飢餓	日本の国際評価	C	「A」栄養失調者の割合 「C」土壌栄養レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶栄養関連の指標が相対的に良い評価となっているが、それをもって「今後、何も取り組まなくても良い」というわけではない。むしろ死守すべき評価として受け止め、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	A	「A」栄養失調者、ビタミン欠乏症の総患者割合	
ゴール3 保健	日本の国際評価	B	「A」健康寿命 「B」結核発生率	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後、特に注力して取組みを進めるべき。感染症関連の個別指標が厳しい評価となっていることは重要な課題。 ▶ゴール3は万博のテーマと関わりが深く個別評価に関わらず外せないゴール。
	大阪の国内評価	C	「D」H I V感染者数 「D」心血管疾患、がん、糖尿病の死亡率	
ゴール4 教育	日本の国際評価	A	「A」就学率 「A」学習到達スコア	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後、特に注力して取組みを進めるべき。 ▶ゴール4は、将来を担う次世代の育成という観点があり、学力などの個別指標の評価が悪いことについて、改善傾向にあるものについても、他のゴールより重く受け止めるべき。この点においても注力すべきゴールといえる。
	大阪の国内評価	C	「D」小学生の国語・数学・理科平均正答率 「C」中学生の国語・数学・理科平均正答率	
ゴール5 ジェンダー	日本の国際評価	D	「D」男女間賃金格差 「D」無賃労働に割く時間の男女差	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後、特に注力して取組みを進めるべき。国際的に日本の評価が低いことを国の問題にせず、重く受け止めるべき。 ▶女性は人口の半数を占める。ゴール5は、他のゴールに比べ最も対象者が多いということであり、その点からも重要なゴールといえる。
	大阪の国内評価	C	「C」配偶者からの暴力相談件数(人口比) 「D」都道府県議会における女性の割合	
ゴール6 水・衛生	日本の国際評価	B	「A」安全に管理された水道サービスの使用人口 「B」再生可能な水資源総量に対する取水割合	<ul style="list-style-type: none"> ▶順調に取組みが進んでいるゴールとして、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	A	「A」給水普及率割合 「A」下水道処理人口普及率	
ゴール7 エネルギー	日本の国際評価	C	「A」電力にアクセスできる人口 「D」最終エネルギー総消費量に占める再生エネの割合	<ul style="list-style-type: none"> ▶エネルギー問題は、万博とも関連が深く、府民の声をしっかり聴きながら、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶新エネルギー発電割合が厳しい評価となっているが、国家レベルで進めるべき課題。
	大阪の国内評価	B	「B」人口あたり電力エネルギー消費量 「D」新エネルギー発電割合	
ゴール8 経済成長・雇用	日本の国際評価	B	「B」実質成長率 「A」雇用率	<ul style="list-style-type: none"> ▶若者の失業は、国際的に大きな問題。大阪の失業率は改善傾向にあるが、他の自治体に比べ、高いことをどこまで課題と捉えるか、府民の感覚と齟齬がないよう注意し、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	B	「A」人口あたり県内総生産 「D」失業率	
ゴール9 インフラ、産業、イノベーション	日本の国際評価	A	「A」貿易や輸送に係るインフラの質 「A」研究開発費	<ul style="list-style-type: none"> ▶イノベーションの創出は、他のゴールの様々な要素に関連。例えば、「ゴール4教育」と関連を持たせるなど幅広い観点で、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	B	「B」製造業のCO2排出量 「D」県内総生産当たりの研究開発費	

SDGs17ゴールの分析概要 (ゴール10～17)



ゴール	類型	全体	主な指標	有識者の主な意見
ゴール10 不平等	日本の国際評価	C	「C」ジニ係数 「C」高齢者の貧困率	<ul style="list-style-type: none"> ▶個別指標が少ないことに留意が必要だが、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶不平等は他のゴールでも生じる。都市と農村、職業間格差など、他のゴールで生じる不平等にも留意し、課題として取組みを進めていくべき。
	大阪の国内評価	B	「C」相対的貧困世帯割合 「A」労働生産性	
ゴール11 持続可能都市	日本の国際評価	C	「C」可処分所得の40%以上の家賃を支払っている人の割合 「C」公共交通機関の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ▶他の全てのゴールを包摂する、自治体としてははずせないゴールとして、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶個別指標のうち、災害対応に関する指標だけは、厳しい評価でないことをもってよしとすべきでない。防災や強靱なまちづくりは、外せない視点。
	大阪の国内評価	B	「A」市街化調整区域面積割合 「D」人口当たり公園面積	
ゴール12 持続可能な生産と消費	日本の国際評価	D	「D」電子廃棄物の発生量 「C」S O 2排出量	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後、特に注力して取組みを進めるべき。 ▶持続可能な社会の構築のために重要なゴール。府民の関わりが深く、途上国が強く先進国に期待しているゴールでもある。
	大阪の国内評価	C	「B」有機廃棄物割合 「D」リサイクル率	
ゴール13 気候変動	日本の国際評価	D	「D」1人当たりエネルギー関連CO2排出量 「A」化石燃料排出に含まれるCO2排出量	<ul style="list-style-type: none"> ▶気候変動に伴う災害対応の視点は重要。ゴール11に集約して考えるなど、災害対応を課題としてしっかり位置づけ、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	A	「B」災害等の自然外因による死亡割合 「A」温暖化防止対策地方実行計画における緩和策定有無	
ゴール14 海洋資源	日本の国際評価	C	「C」海洋衛生指標(きれいな水指数) 「D」E E Zで過剰利用されたもじ湖環境の海洋資源割合	<ul style="list-style-type: none"> ▶プラスチックの削減はG20大阪サミットのレガシー。「ゴール12(つくる責任、つかう責任)」に集約して考えるなど、外せない視点。 ▶個別指標は、都市部では劇的に改善が難しいものとなっているが、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	—	(「水産業産出額」などの水産関連指標)	
ゴール15 陸上資源	日本の国際評価	C	「D」絶滅危惧種の生存指数 「C」輸入による生物多様性の脅威にさらされている生物数	<ul style="list-style-type: none"> ▶個別指標は、都市部では劇的に改善が難しいものとなっているが、引き続き、継続して取組みを進めるべき。
	大阪の国内評価	B	「C」耕作放棄地面積割合 「A」生物多様性地域戦略に基づく計画の策定有無	
ゴール16 平和	日本の国際評価	B	「A」人口10万人あたりの殺人 「A」児童労働に関わっている5-14歳の子ども	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後、特に注力して取組みを進めるべき。 ▶個別指標の多くが厳しい評価となっていることについて、改善傾向にあるものについても、全国で相対的に悪いという事実は課題として受け止めるべき。
	大阪の国内評価	D	「D」人口あたりの刑法犯認知件数 「D」20歳未満あたりの児童虐待相談対応件数	
ゴール17 実施手段	日本の国際評価	D	「D」政府開発援助を含む国際的資金による奨励 「D」金融秘密度指数(企業の透明性など)	<ul style="list-style-type: none"> ▶このゴールは、世代や性別を超えた取組みを広げるというSDGsの理念とも深く関わっており、引き続き、継続して取組みを進めるべき。 ▶今後、個別指標が充実し、課題が明らかとなった場合には、注力して取組むことが求められる。
	大阪の国内評価	A	「A」世帯あたりのインターネットブロードバンド契約率 「A」インターネット普及率	

ゴール1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

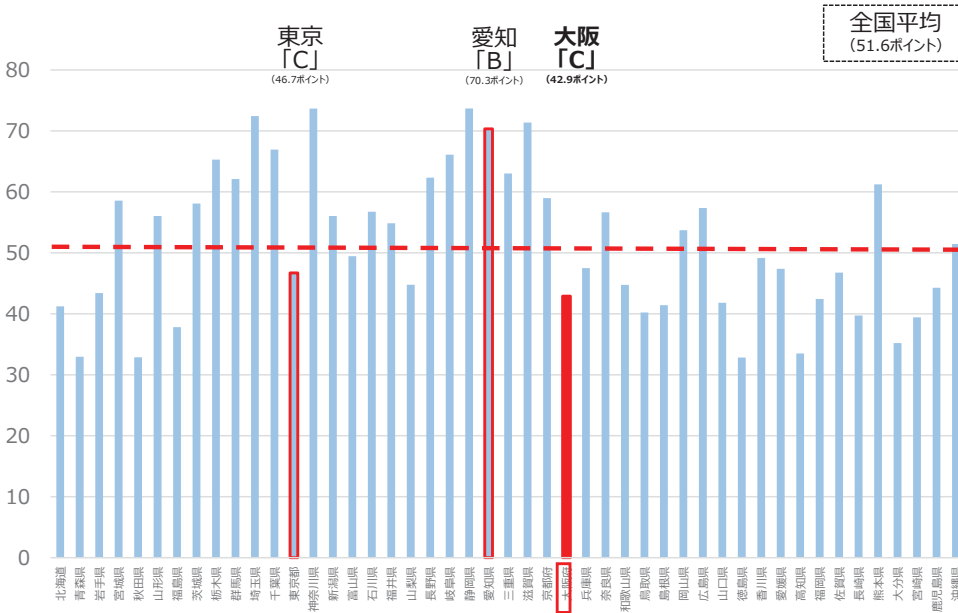
◆国際的な日本の評価 「B」

- 「A」 絶対的貧困率 (1.90ドル/日以下)
- 「A」 絶対的貧困率 (3.20ドル/日以下)
- 「D」 相対的貧困率 (可処分所得平均値の50%以下の割合)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



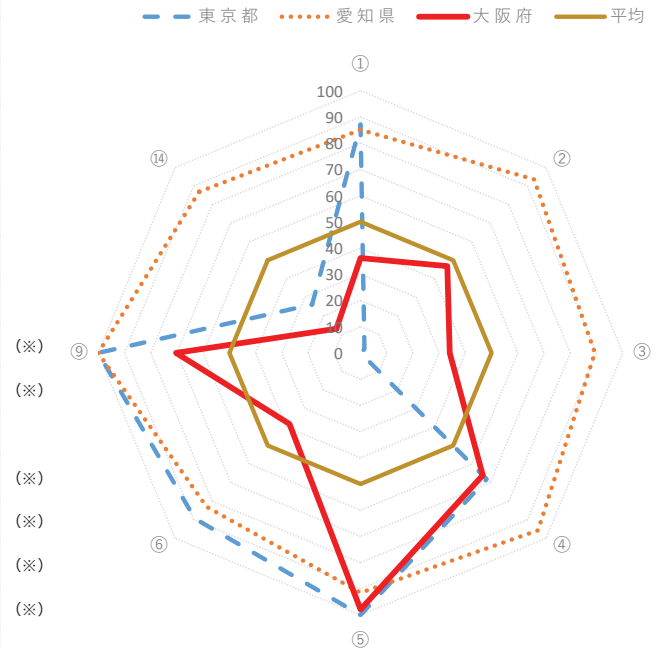
(指数化の概要)
次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 相対的貧困世帯割合
 - 被保護世帯割合
 - 被保護者割合
 - 平均保護受給期間
 - 水道普及率
 - 空き家率
 - 災害等の自然外因による死亡者割合
 - 災害復旧費割合
 - 防災会議を設置している市区町村の割合
 - 生活保護費割合
 - 衛生費割合
 - 教育費割合
 - (衛生費+教育費+生活保護費)割合
 - 母子世帯への平均保護受給期間

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「C」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①相対的貧困世帯割合 (100万円未満の世帯/全世帯)	C 36.17	A 87.23	A 85.11
②被保護世帯割合 (被保護世帯/全世帯)	C 46.81	D 2.13	A 93.62
③被保護者割合 (被保護者/人口)	C 34.04	D 0	A 89.36
④平均保護受給期間	B 65.96	B 68.09	A 95.74
⑤水道普及率	A 97.87	A 100	A 91.49
⑥空き家率 (空き家数/住宅数)	C 38.3	A 89.36	A 82.98
⑦災害等の自然外因による死亡者割合 (災害等の自然外因による死亡者/人口)	B 51.06	B 53.19	A 89.36
⑧災害復旧費割合 (災害復旧費/全歳出)	D 4.26	D 12.77	D 0
⑨防災会議を設置している市区町村の割合	B 70.37	A 100	A 100
⑩生活保護費割合 (生活保護費/全歳出)	C 27.66	C 46.81	D 10.64
⑪衛生費割合 (衛生費/全歳出)	D 0	B 59.57	D 4.26
⑫教育費割合 (教育費/全歳出)	B 63.83	D 4.26	A 85.11
⑬(衛生費+教育費+生活保護費)割合 (衛生費+教育費+生活保護費/全歳出)	B 51.06	D 4.26	B 70.21
⑭母子世帯への平均保護受給期間	D 13.04	C 26.09	A 86.96



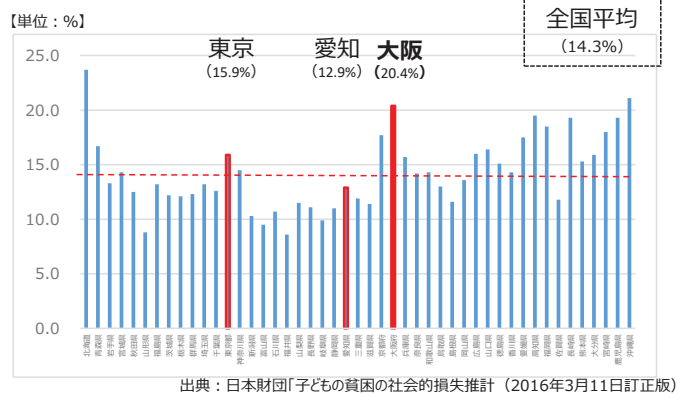
指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

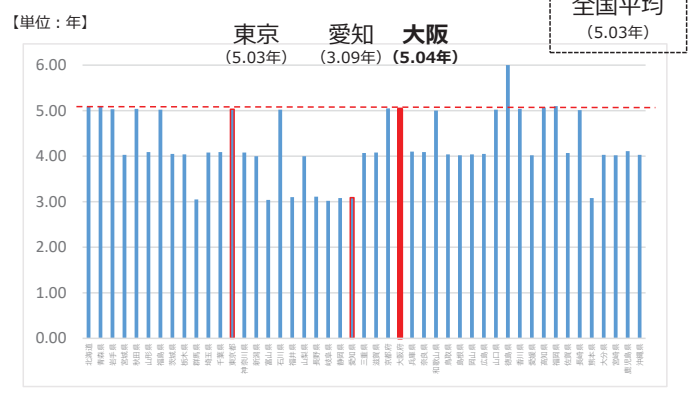
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

貧困状態にある子どもの割合



母子世帯への平均保護受給期間



「ゴール1」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール1」は、国際的には、全体として改善が認められるゴールであるが、個別指標のうち、「相対的貧困率」は厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低い。また、「相対的貧困率」や、「被保護世帯割合」、「被保護者割合」など、改善が必要な個別指標の割合が高く、関連指標である「貧困状態にある子どもの割合」も順位が低い。
- 「ゴール1」は、府として、今後、特に注力して取組みを進める必要がある。

ゴール2

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

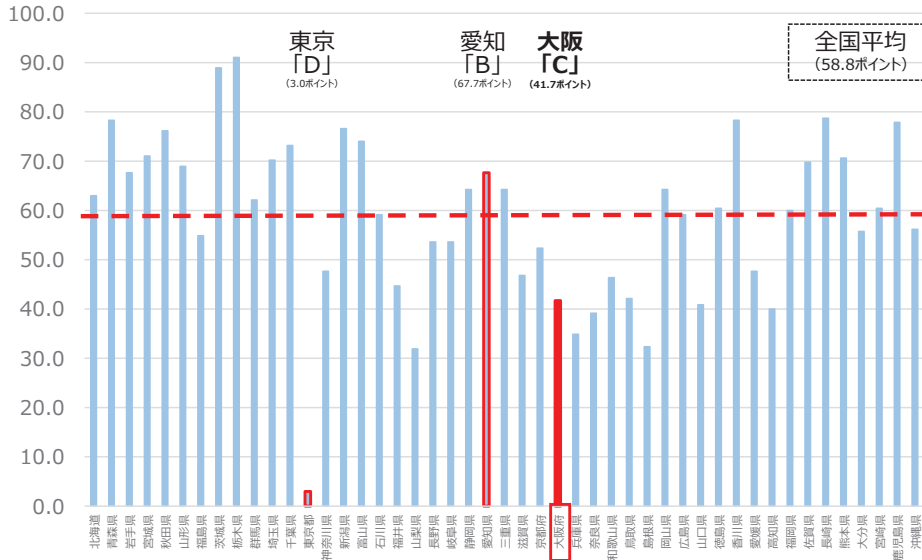
◆国際的な日本の評価 「C」

- 「A」 栄養失調者の割合
- 「A」 5歳未満の子供の成長阻害（低身長）の罹患率
- 「A」 5歳未満の衰弱者の割合
- 「A」 穀物収穫量（t / ha）
- 「A」 成人の肥満の罹患率、（BMI≥30）
- 「D」 持続可能な窒素管理指数
- 「C」 土壌栄養レベル（2～3）

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（2019）



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)

次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

(対象指標)

- 栄養失調またはビタミン欠乏症における総患者割合
- 発育に阻害のある者の割合
- 農業就業人口あたりの農業産出額
- 林業就業人口あたりの林業産出額
- 農業就業人口あたりの耕地面積

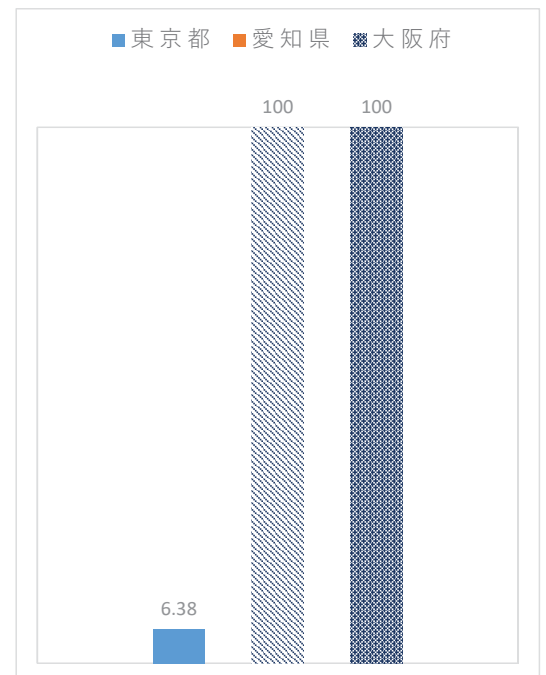
出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「A」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
① 栄養失調またはビタミン欠乏症における総患者割合 (栄養失調またはビタミン欠乏症における総患者数/人口)	A 100	D 6.38	A 100
② 発育に阻害のある者の割合 (0歳～12歳の発育に阻害のある者の数/15歳未満人口)	A 82.98	D 0	B 57.45
③ 農業就業人口あたりの農業産出額 (農業産出額/農業就業人口)	D 4.26	D 0	B 72.34
④ 林業就業人口あたりの林業産出額 (林業産出額/林業就業人口)	D 0	D 4.26	C 38.3
⑤ 農業就業人口あたりの耕地面積 (耕地面積/農業就業人口)	D 21.28	D 4.26	B 70.21

指標（スコア）を4段階で表示（100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」）

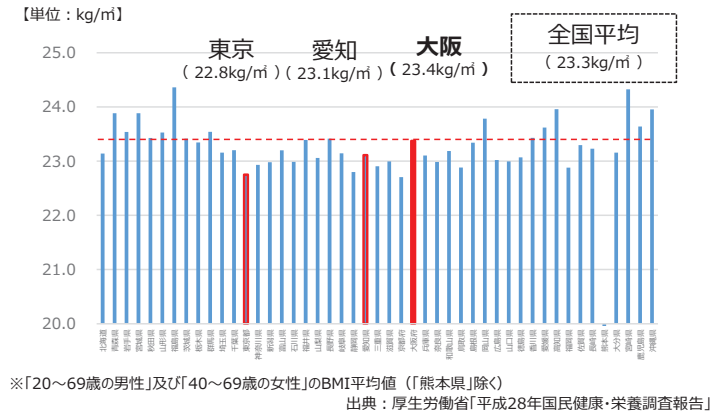
(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など



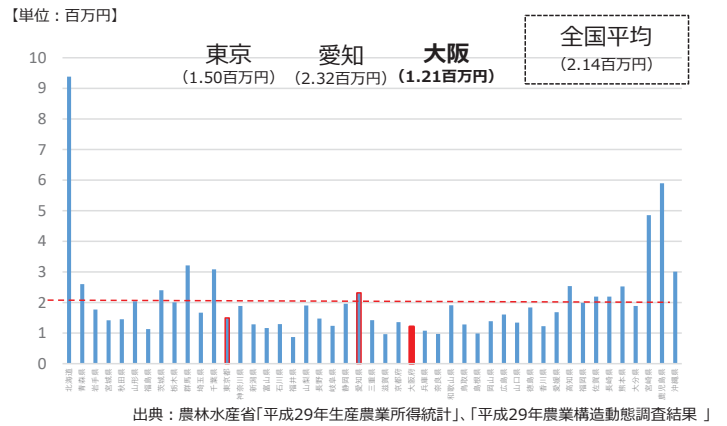
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

BMI(肥満指数)の平均値



農業就業人口あたりの農産物産出額



「ゴール2」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール2」は、国際的には、全体として改善が必要とされるゴールであるが、個別指標の大半を占める栄養状態を示す指標は高い評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低いが、改善が必要な個別指標である「農業就業人口あたりの農業産出額」や「林業就業人口あたりの林業産出額」、「農業就業人口あたりの耕地面積」は、都市部において値が低くなる性質を持つ指標であると考えられる。
- 「ゴール2」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。

ゴール3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

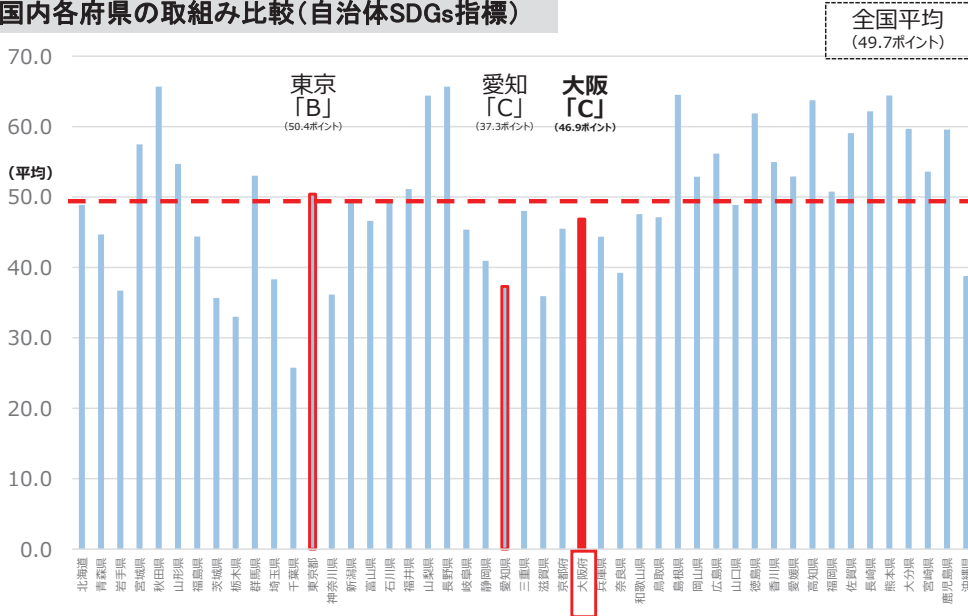


◆ 国際的な日本の評価 「B」

- 「A」 妊産婦死亡率（出生10万人当たり）
- 「A」 新生児死亡率（出生1,000人あたり）
- 「A」 心血管疾患、がんによる年齢別死亡率糖尿病、および30～70歳の人口における慢性呼吸器疾患（人口10万人当たり）
- 「A」 日常喫煙者（15歳以上の人口の割合）
- 「A」 健康寿命（年）
- 「B」 結核発生率（%）
- 「B」 主観的幸福感（平均ラダースコア、0～10）等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（2019）

◆ 国内各府県の実績比較(自治体SDGs指標)



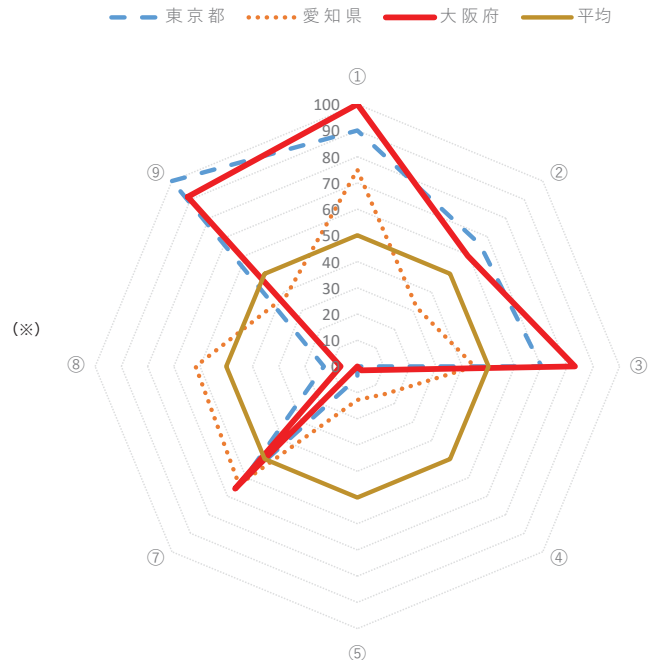
(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 妊産婦死亡数
 - 5歳未満児死亡率
 - 新生児死亡率
 - 千人当たりのHIV感染者数
 - 10万人当たりの結核感染者数
 - 千人当たりのマラリアによる死亡者数
 - 10万人当たりのB型肺炎による死亡者数
 - 心血管疾患、癌、糖尿病の死亡率
 - 自殺率
 - 道路交通事故による死亡数
 - 喫煙率
 - 人口当たりの薬局数
 - 人口当たりの一般病院数
 - 人口当たりの医師数

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「C」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①妊産婦死亡率 (妊産婦死亡数/出産数)	A 100	A 90	B 75
②5歳未満児死亡率 (5歳未満児死亡数/5歳未満人口)	B 59.57	B 65.96	C 31.91
③新生児死亡率 (新生児死亡数/出生数)	A 82.98	B 70.21	C 44.68
④千人当たりのHIV感染者数 (HIV感染者数/人口)	D 2.13	D 0	D 14.89
⑤10万人当たりの結核感染者数 (結核感染者数/人口)	D 0	D 4.26	D 12.77
⑥千人当たりのマラリアによる死亡者数 (マラリアによる死亡者数/人口)	-	-	-
⑦10万人当たりのB型肺炎による死亡者数 (B型肺炎による死亡者数/人口)	B 65.96	B 61.7	B 63.83
⑧心血管疾患、癌、糖尿病の死亡率 (心血管疾患、癌、糖尿病の死亡数/総死亡数)	D 6.38	D 12.77	B 61.7
⑨自殺率 (自殺者数/総死亡数)	A 91.49	A 100	C 38.3
⑩道路交通事故による死亡数 (道路交通事故による死亡者数/総死亡数)	D 10.64	D 6.38	D 21.28
⑪喫煙率 (喫煙数/人口)	C 39.13	B 71.74	B 67.39
⑫人口当たりの薬局数 (薬局数/人口)	C 40.43	B 61.7	D 23.4
⑬人口当たりの一般病院数 (一般病院数/人口)	C 40.43	D 14.89	D 6.38
⑭人口当たりの医師数 (医師数/人口)	B 70.21	A 95.74	D 23.4

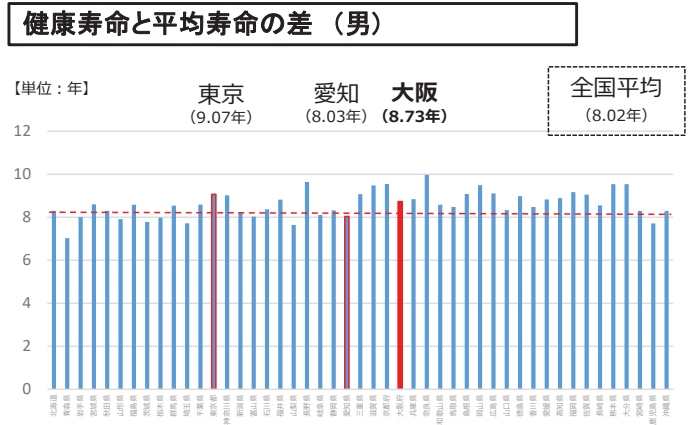


統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

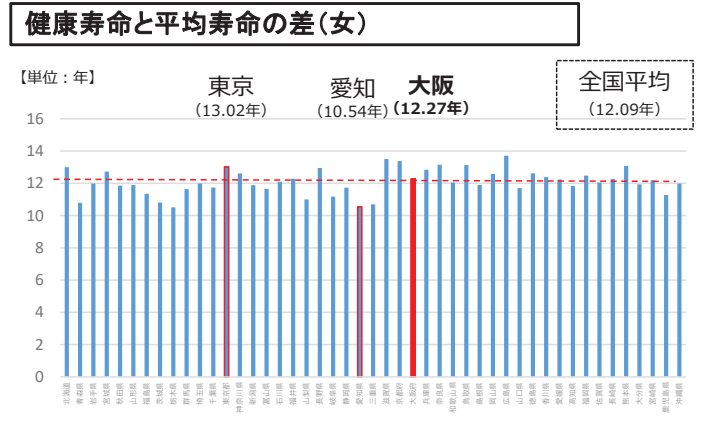
指標（スコア）を4段階で表示（100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」）

(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較



※健康寿命は、日常生活に制限のない期間。平均寿命は2015年データ、健康寿命は2016年データ。
出典：厚生労働省「都道府県別生命表」、「科学研究報告書」



※健康寿命は、日常生活に制限のない期間。平均寿命は2015年データ、健康寿命は2016年データ。
出典：厚生労働省「都道府県別生命表」、「科学研究報告書」

「ゴール3」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール3」は、**国際的には、全体として改善が認められるゴール**であり、個別指標のうち、**「妊産婦死亡率」や「新生児死亡率」、「人口10万人あたりの心血管疾患、癌、慢性呼吸器疾患」、「日常喫煙者」、「健康寿命」が高い評価**となっている。
- **国内指標においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低い**。また、「HIV感染者数」や「結核感染者数」、「心血管疾患、癌、糖尿病の死亡率」、「道路交通事故による死亡率」、「喫煙率」、「人口当たりの薬局数」、「人口当たりの一般病院数」など、**改善が必要な個別指標の割合が高い**。**関連指標である「健康寿命と平均寿命の差」も順位が低い**状況。
- 「ゴール3」は、府として、**今後、特に注力して取組みを進める必要がある**。

ゴール4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

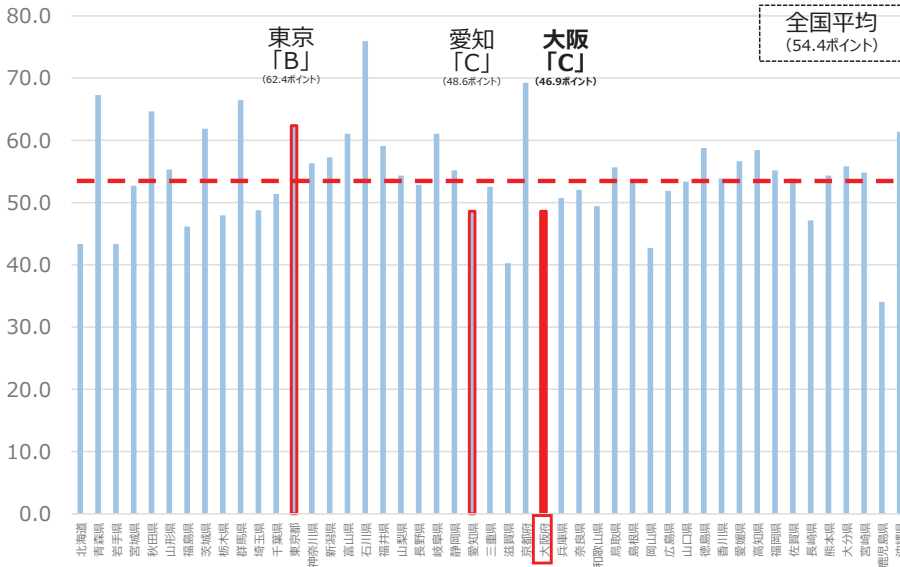
◆国際的な日本の評価 「A」

- 「A」 就学率 (%)
- 「A」 就学前教育プログラムの入学率
- 「A」 高等教育を受けた25～34歳の人口 (%)
- 「A」 学習到達度調査のスコア (0-600) 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)

次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

(対象指標)

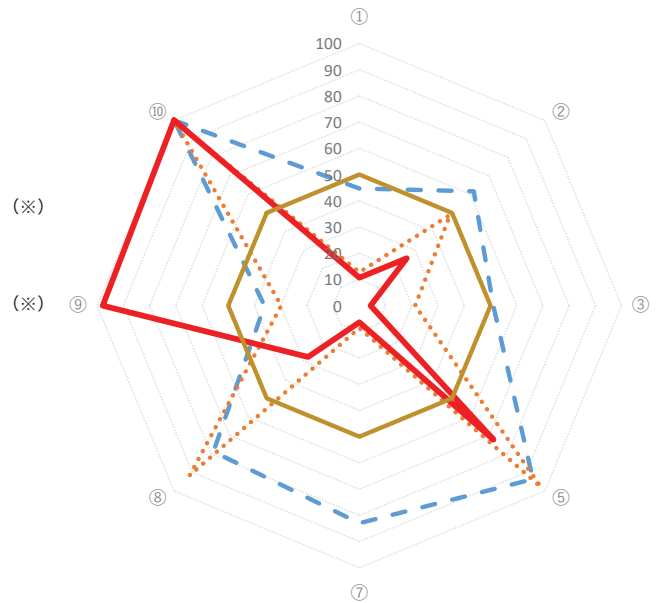
- 小中学校登校者割合
- 5歳未満の入院者割合
- 保育園登園割合
- 人口当たりの職業訓練費
- コンピューター1台当たりの生徒数
- パリティ指数
- 小学生の国語・数学・理科の平均正答率
- 中学生の国語・数学・理科の平均正答率
- 学校におけるインターネット接続状況率
- 学校におけるコンピュータの設置状況率
- 人口当たりの特別支援学校数
- 小中学校当たりの小中学校のトイレ数
- 都道府県別「教員のICT活用指導力」の状況

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「C」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①小中学校登校者割合 (小中学校在学者-不登校者数)/小中学校在学者)	D 10.64	A 44.68	D 12.77
②5歳未満の入院者割合 (5歳未満の入院者数/5歳未満人口)	C 25.53	B 61.7	C 48.94
③保育園登園割合 (保育園の児童数/5歳未満人口)	D 4.26	B 51.06	D 21.28
④人口当たりの職業訓練費 (職業訓練費/人口)	D 14.89	C 40.43	D 6.38
⑤コンピューター1台当たりの生徒数 (生徒数/コンピューター数)	B 72.34	A 93.62	A 97.87
⑥パリティ指数 (男子学生/女子学生) (小中学校の男子生徒数/小中学校の女子生徒数)	C 48.94	A 85.11	C 29.79
⑦小学生の国語・数学・理科の平均正答率	D 6.38	A 82.98	D 8.51
⑧中学生の国語・数学・理科の平均正答率	C 27.66	A 78.72	A 91.49
⑨学校におけるインターネット接続状況率	A 97.87	C 36.17	C 29.79
⑩学校におけるコンピュータの設置状況率	A 100	A 100	A 100
⑪人口当たりの特別支援学校数 (特別支援学校数/人口)	D 8.51	D 4.26	D 0
⑫小中学校当たりの小中学校のトイレ数 (小中学校のトイレ数/小中学校数)	A 100	A 87.23	A 97.87
⑬都道府県別「教員のICT活用指導力」の状況 (「わびとできる」「若しくはやばとできる」と回答した教員の割合の大項目別平均)	C 34.04	C 31.91	D 10.64

— 東京都 — 愛知県 — 大阪府 — 平均



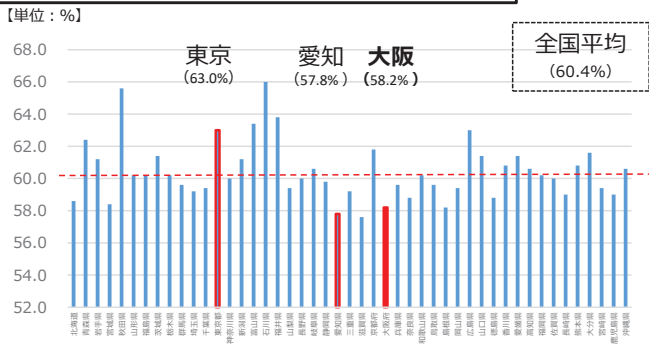
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

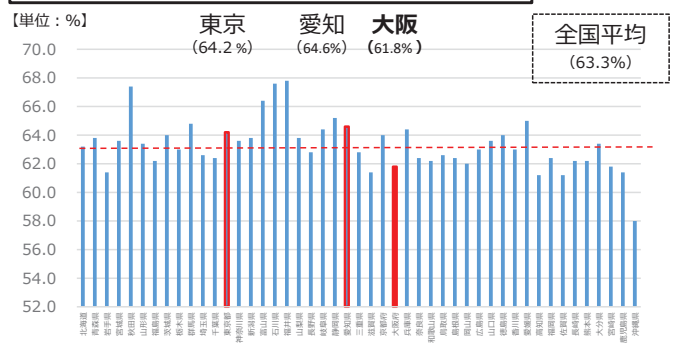
◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

小学生の全国学力・学習状況調査正答率



出典：国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料」

中学生の全国学力・学習状況調査正答率



出典：国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料」

「ゴール4」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール4」は、**国際的には、全体として取組みの順調な進捗が認められており、特に改善が求められる指標は無い。**
- **国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低い。**また、「小中学校の登校者割合」や「5歳未満の入院者割合」、「保育園登園割合」、「小中学校の国語・数学・理科の平均正答率」、「人口当たりの特別支援学校数」など、**改善が必要な個別指標の割合が高く、関連指標でもある「小中学校の国語・数学・理科の平均正答率」も正答率も順位が低い状況。**
- 「ゴール4」は、府として、**今後、特に注力して取組みを進める必要がある。**

ゴール5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

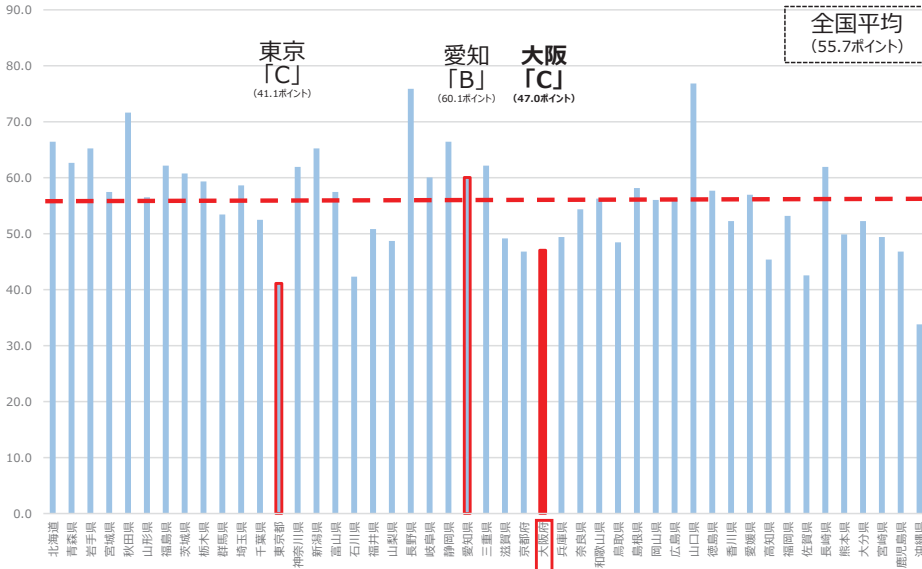
◆国際的な日本の評価 「D」

- 「D」 男女間賃金差
- 「A」 男性と比べた女性の労働力参加率 (%)
- 「D」 国会における女性議員の議席 (%)
- 「D」 無賃労働に割く時間の男女差 (分/日)
- 「A」 25歳以上の平均学歴の男女差 (%) 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)

次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

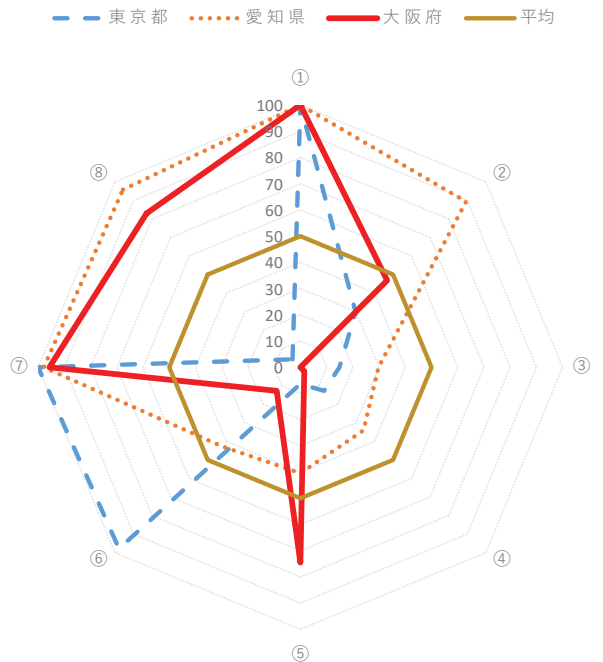
(対象指標)

- 特定事業主行動計画に基づく取組の実施状況の公表有無
- 人口当たりの配偶者からの暴力相談件数
- 女性人口当たりの強制わいせつの認知数
- 18歳未満で結婚した女性の割合
- 家事に従事する人の割合
- 都道府県議会議員の女性の割合
- 役員の女性の割合(役員の女性/役員的人数)
- 農業に従事している女性の割合
- 携帯電話利用割合

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「C」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①特定事業主行動計画に基づく取組の実施状況の公表有無	A 100	A 100	A 100
②人口当たりの配偶者からの暴力相談件数 (配偶者からの暴力相談件数/人口)	C 46.81	C 29.79	A 89.36
③女性人口当たりの強制わいせつの認知数 (強制わいせつ認知件数/女性人口)	D 0	D 14.89	C 29.79
④18歳未満で結婚した女性の割合 (18歳未満で結婚した女性/女性人口)	D 2.13	D 12.77	C 34.04
⑤家事に従事する人の割合 (家事に従事している人数/人口)	B 74.47	D 6.38	C 40.43
⑥都道府県議会議員の女性の割合 (女性の都道府県議会議員/都道府県議会議員)	D 12.77	A 97.87	C 42.55
⑦役員の女性の割合 (役員の女性/役員的人数)	A 95.74	A 100	A 97.87
⑧農業に従事している女性の割合 (女性農業従事者/全農業従事者)	A 82.98	D 4.26	A 95.74
⑨携帯電話利用割合 (携帯電話を保有していると回答した割合)	D 8.51	D 4.26	D 10.64



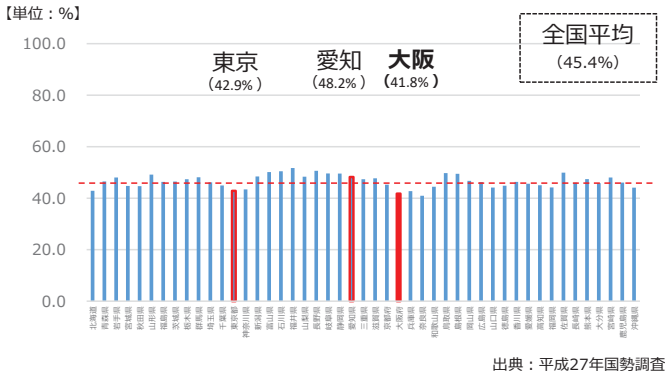
指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

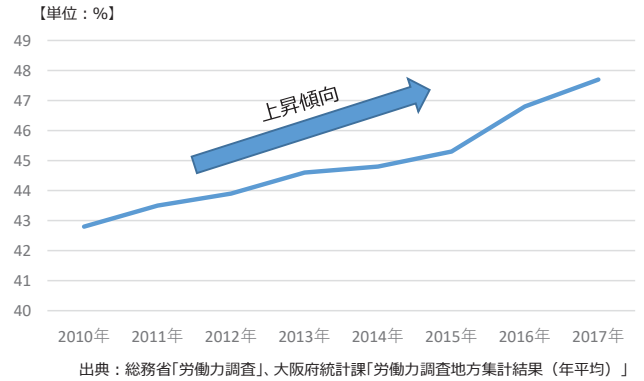
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

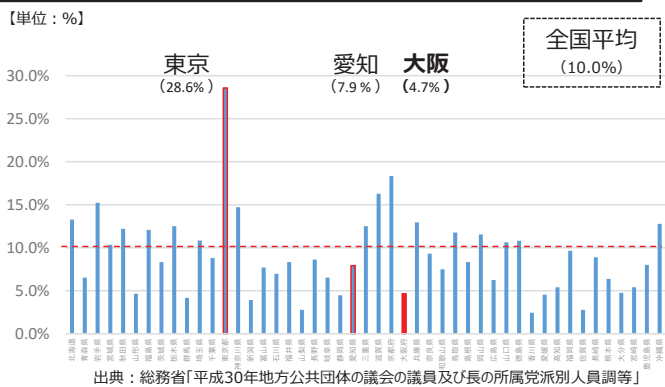
女性の就業率（就業者/15歳以上人口）



女性の就業率の推移（大阪）



都道府県議会議員の女性の割合
(女性の都道府県議会議員/都道府県議会議員)



「ゴール5」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール5」は、国際的には、全体として状態が悪化しているゴールであり、個別指標のうち、「男女間の賃金格差」や「国会における女性議員の議席」、「無賃労働に割く時間の男女差」が厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低い。個別指標では、「人口当たりの配偶者からの暴力相談件数」や「女性人口当たりの強制わいせつ認知数」、「都道府県議会議員の女性の割合」など、改善が必要な指標の割合が高い状況。なお、関連指標である「女性の就業率」は順位は低いが、上昇傾向にある。
- 「ゴール5」は、府として、今後、特に注力して取組みを進める必要がある。

ゴール6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

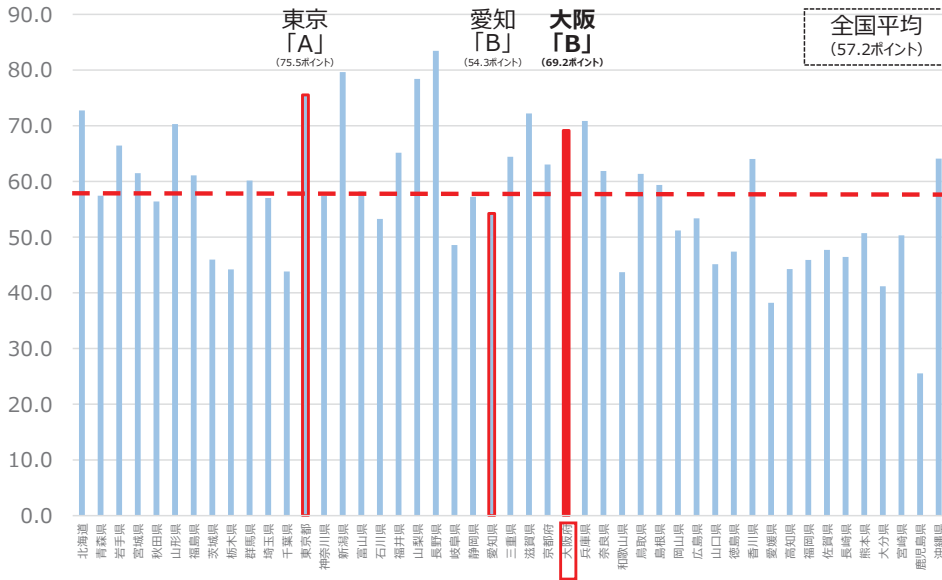
◆国際的な日本の評価 「B」

- 「A」 安全に管理された水道サービスの使用人口 (%)
- 「A」 安全に管理された衛生サービスを利用している人口 (%)
- 「A」 処理済み的人為的排水量の割合 (%)
- 「B」 再生可能な水資源総量に対する取水割合 (%)
- 「B」 地下水枯渇量 (m³/年/人) 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



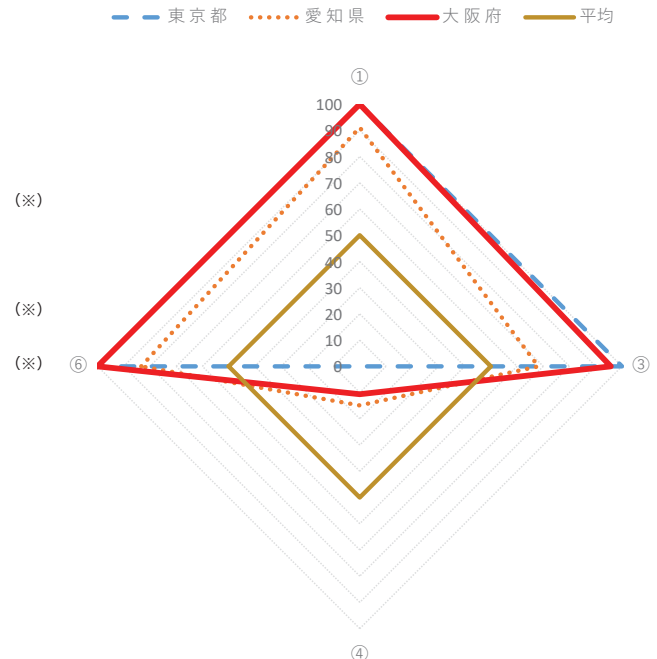
(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 給水普及率
 - 人口あたりの公衆衛生費
 - 下水道処理人口普及率
 - 人口当たりの水道事業所数
 - 人口当たりの下水道費
 - 下水道事業着手率

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「A」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①給水普及率 (給水人口/人口)	A 100	A 100	A 91.11
②人口あたりの公衆衛生費 (公衆衛生費/人口)	D 17.02	B 53.19	D 8.51
③下水道処理人口普及率	A 95.74	A 100	B 68.09
④人口当たりの水道事業所数 (水道の事業所数/人口)	D 10.64	D 0	D 14.89
⑤人口当たりの下水道費 (下水道費/人口)	A 91.49	A 100	B 59.57
⑥下水道事業着手率	A 100	A 100	A 83.33



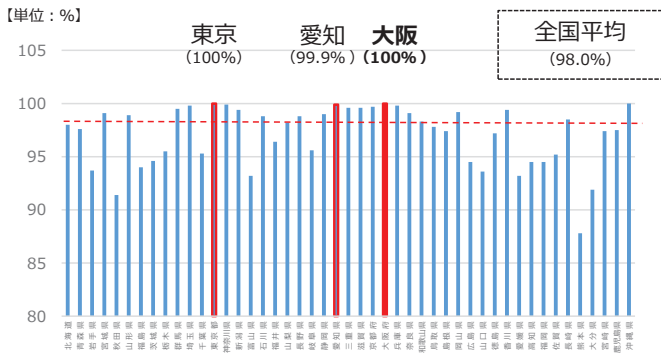
指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

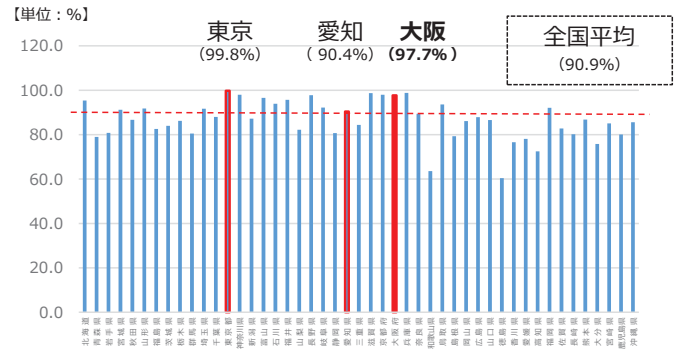
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

水道普及率



汚水処理人口普及率



「ゴール6」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール6」は、**国際的には、全体として改善が認められるゴール**であり、個別指標のうち、「**安全に管理された水道サービスの使用人口**」や「**安全に管理された衛生サービスを利用している人口**」、「**処理済みの人為的排水量の割合**」が高い評価となっている。
- **国内比較においては、大阪は、全体順位が高く、指標スコアも平均より高い。**また、「給水普及率」や「下水道処理人口普及率」、「下水道事業着手率」など、**順調に取組みが進んでいる個別指標の割合が高く、関連指標である「水道普及率」や「汚水処理人口普及率」も順位が高い。**
- 「ゴール6」は、府として、**引き続き、継続的な取組みを進めていく。**

ゴール7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

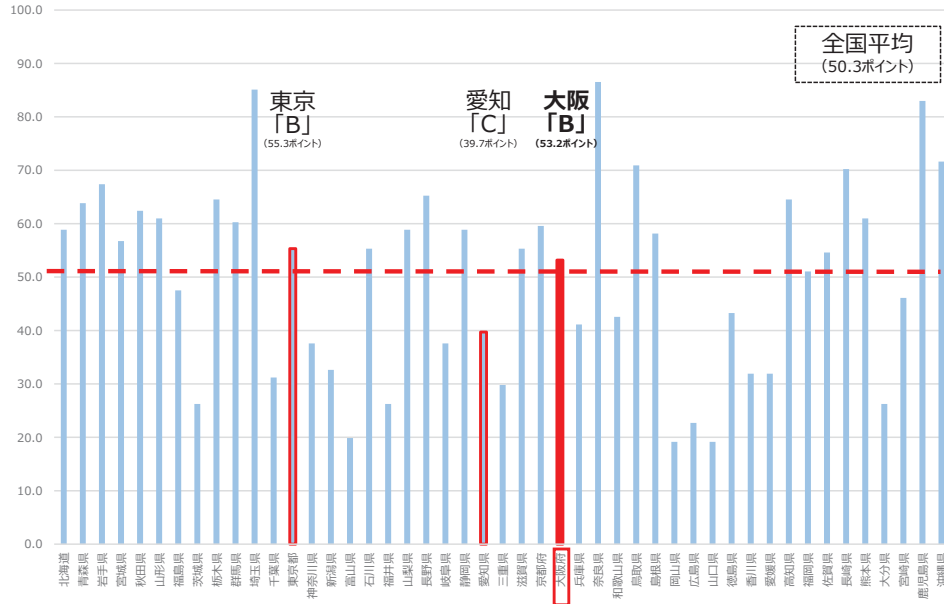
◆国際的な日本の評価 「C」

- 「A」 電力にアクセスできる人口 (%)
- 「A」 クリーンな化石燃料と加工技術へのアクセスできる人口 (%)
- 「D」 最終エネルギー総消費量に占める再生可能エネルギーの割合 (%)
- 「B」 燃料の燃焼/発電によるCO2排出量 (MtCO₂ / TWh) 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較



(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

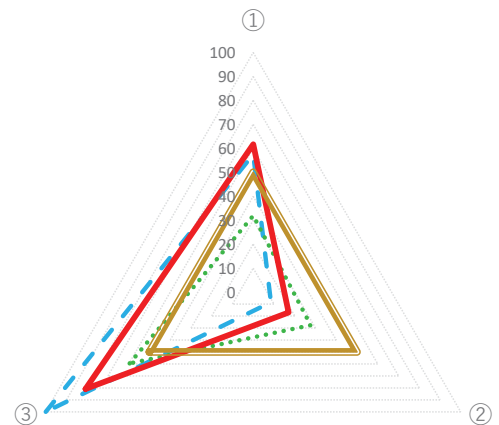
- (対象指標)
- 人口当たりの電力エネルギー消費量
 - 新エネルギー発電割合
 - エネルギー消費量当たりの県内総生産

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「B」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①人口当たりの電力エネルギー消費量 (電力エネルギー消費量/人口)	B 61.7	B 57.45	C 31.91
②新エネルギー発電割合 (新エネルギー発電量/全てのエネルギー発電量)	D 17.02	D 8.51	C 27.66
③エネルギー消費量当たりの県内総生産 (県内総生産/エネルギー消費量)	A 80.85	A 100	B 59.57

— 東京都 愛知県 — 大阪府 — 平均

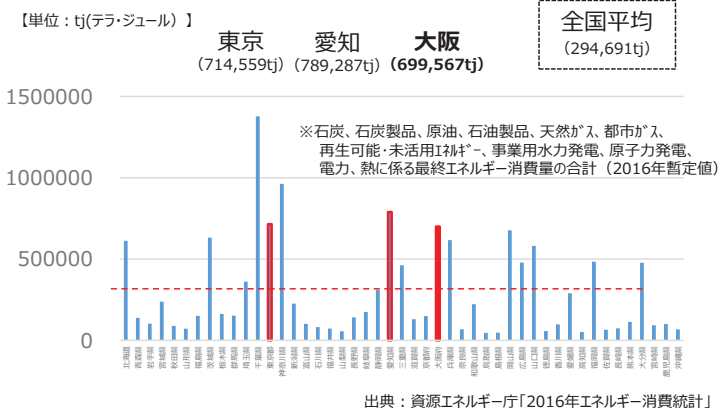


指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

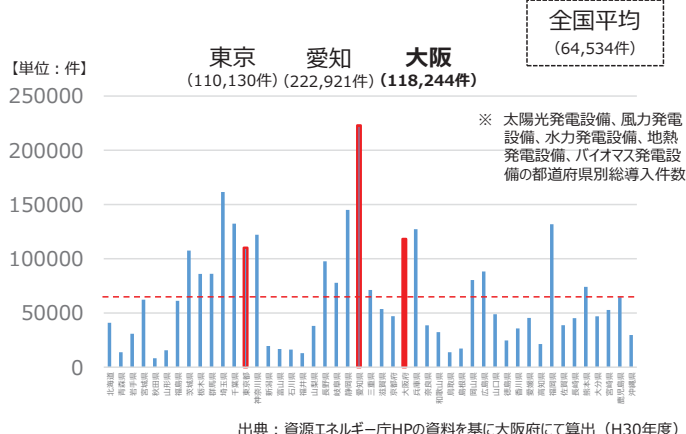
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

最終エネルギー消費量



再生可能エネルギー発電設備導入状況



「ゴール7」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール7」は、**国際的には、全体として改善が必要とされるゴール**であるが、個別指標のうち、「**電力にアクセスできる人口**」や「**クリーンな化石燃料と加工技術へのアクセスできる人口**」は**高い評価**で、「**最終エネルギーの総消費量に占める再生可能エネルギーの割合**」のみ**厳しい評価**となっている。
- **国内比較においては、大阪は、全体順位及び指標スコアは概ね全国平均**となっている。個別指標では、「**新エネルギーの発電割合**」の順位は**低い**が、関連指標である「**再生可能エネルギー発電設備導入量**」は**順位が高い**。
- 「ゴール7」は、府として、**引き続き、継続的な取組みを進めていく**。

ゴール8

すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

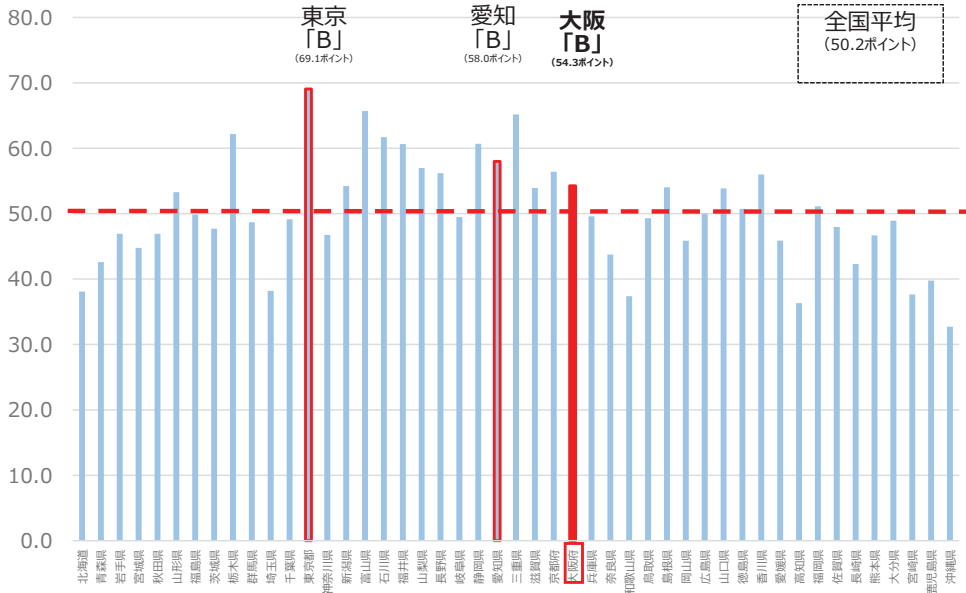
◆国際的な日本の評価 「B」

- 「B」 実質成長率 (%)
- 「A」 雇用率 (%)
- 「A」 ニートの若者の割合 (%)
- 「A」 銀行や金融機関の口座や携帯マネーサービスを持っている15歳以上の人口割合 (%) 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（2019）



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

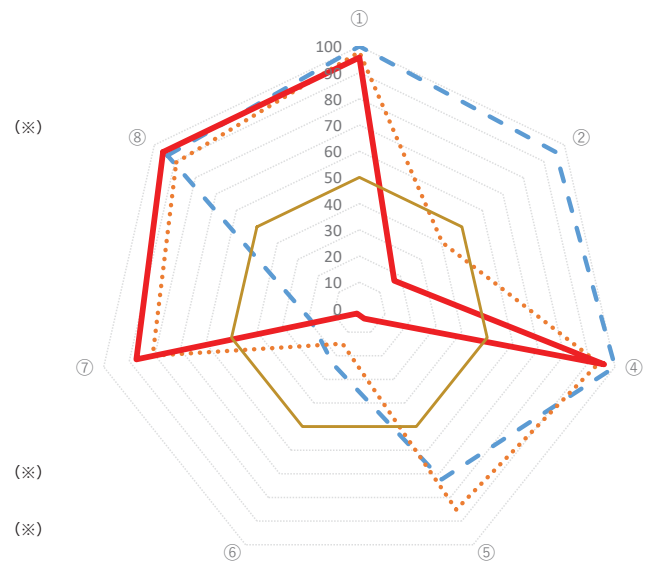
- (対象指標)
- 人口当たりの県内総生産
 - 就業者当たりの県内総生産
 - 農業以外におけるインフォーマル雇用の割合
 - 労働者の平均時給
 - 失業率
 - 15-17歳の就業者割合
 - 労災受給率
 - 就業者当たりの超過労働時間
 - 県内総生産当たりの観光消費額
 - 人口当たりの銀行数

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「B」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①人口当たりの県内総生産 (県内総生産/人口)	A 95.74	A 100	A 97.87
②就業者当たりの県内総生産 (県内総生産/就業者数)	D 17.02	A 95.74	C 40.43
③農業以外におけるインフォーマル雇用の割合 (農業以外の自営業者数/農業以外の従業者数)	-	-	-
④労働者の平均時給 (平均所得/所定内+超過実労働時間)	A 95.74	A 100	A 93.62
⑤失業率 (完全失業者数/労働力人口)	D 4.26	B 72.34	A 85.11
⑥15-17歳の就業者割合 (15-17歳の主に仕事をしている人口/15-17歳の人口)	D 2.13	D 23.4	D 14.89
⑦労災受給率 (新規労災受給者数/就業者数)	A 87.23	D 19.15	A 80.85
⑧就業者当たりの超過労働時間 (超過労働時間/就業者数)	A 95.74	A 93.62	A 89.36
⑨県内総生産当たりの観光消費額 (観光消費額/県内総生産)	-	A 85.37	D 4.88
⑩人口当たりの銀行数 (銀行数/人口)	C 36.17	C 31.91	D 14.89

— 東京都 — ●●●●● 愛知県 — 大阪府 — 平均



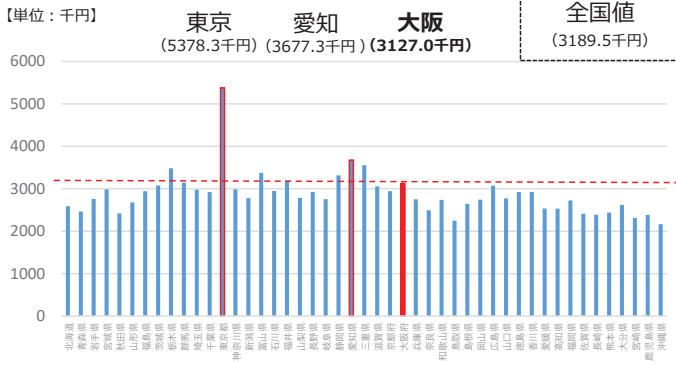
指標（スコア）を4段階で表示（100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」）

統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

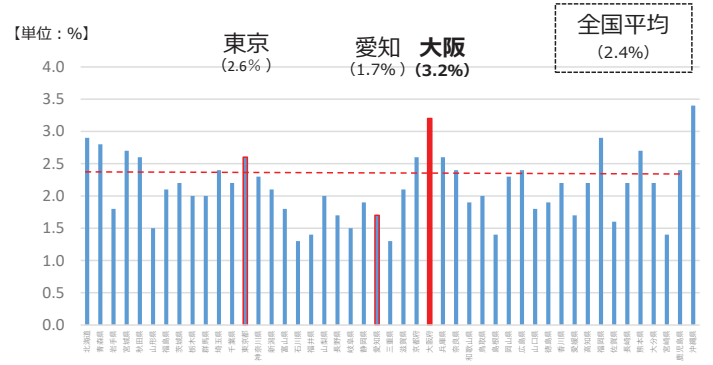
(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

1人当たり県民所得(2015年)



完全失業率(2018年平均)



「ゴール8」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール8」は、国際的には、全体として改善が認められるゴールであり、個別指標のうち、「雇用率」や「ニートの若者の割合」、「銀行や金融機関の口座や携帯マネーサービスを持っている15歳以上の人口割合」が高い評価で、「実質成長率」も改善が認められる評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位は高く、指標スコアは平均より高い。また、「人口当たりの県内総生産」や「労働者の平均時給」、「労災受給率」、「就業者当たりの超過労働時間」など順調に取り組みが進んでいる個別指標の割合が高い。関連指標である「1人当たりの県民所得」も順位が高く、「完全失業率」は順位が低い状況。
- 「ゴール8」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。(強みを活かすことで、他のゴールの課題克服や先進事例の発信等による国際貢献につなげる)

ゴール9 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

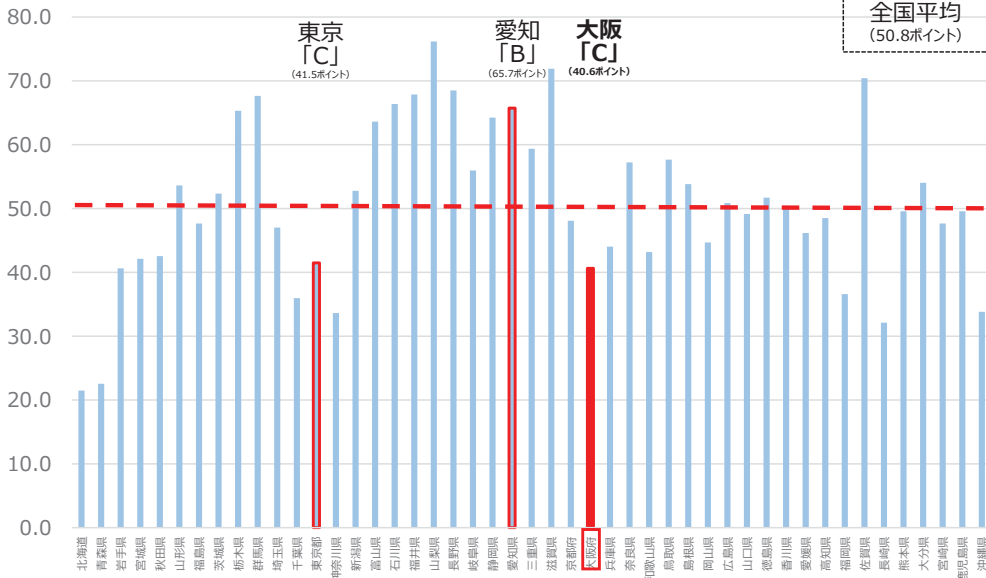
◆国際的な日本の評価 「A」

- 「A」 物流実績指数：貿易品質および輸送関連インフラストラクチャ
- 「A」 人口1000人当たり科学技術雑誌への投稿数 (%)
- 「A」 研究開発費 (% 対GDP)
- 「A」 研究開発研究者 (人口1000人あたり)
- 「A」 モバイルブロードバンド契約 (住民100人あたり) 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

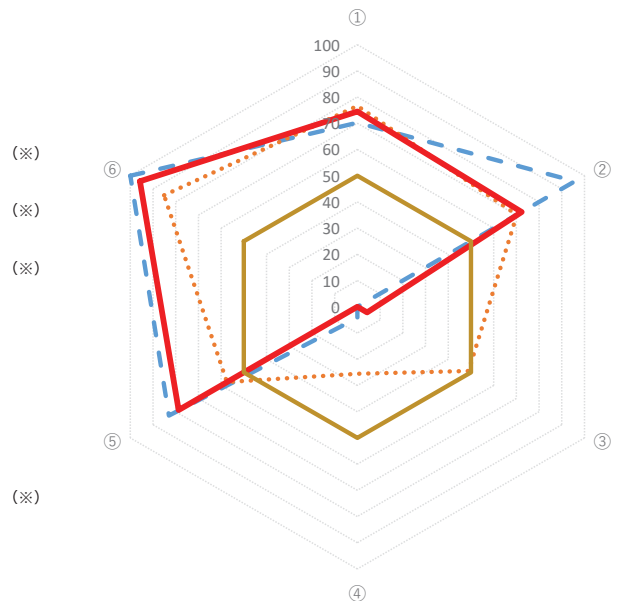
- (対象指標)
- 舗装道路割合
 - 県内総生産当たりの製造業粗付加価値額
 - 人口当たりの製造業粗付加価値額
 - 製造業労働者割合
 - 製造業粗付加価値額当たりの製造業のCO2排出量
 - 県内総生産当たりの研究開発費
 - 100万人あたりの研究者
 - 土木費割合
 - 全粗付加価値額に占める粗付加価値額
 - インターネット普及率

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「B」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
① 舗装道路割合 (舗装道路実延長/道路実延長)	B 74.47	B 70.21	A 76.6
② 県内総生産当たりの製造業粗付加価値額 (製造業粗付加価値額/県内総生産)	D 17.02	D 0	A 93.62
③ 人口当たりの製造業粗付加価値額 (製造業粗付加価値額/人口)	C 40.43	D 4.26	A 100
④ 製造業労働者割合 (製造業労働者数/全労働者数)	D 14.89	D 0	A 87.23
⑤ 製造業粗付加価値額当たりの製造業のCO2排出量 (製造業のCO2排出量/製造業粗付加価値額)	B 72.34	A 95.74	B 70.21
⑥ 県内総生産当たりの研究開発費 (研究開発費支出総額/県内総生産)	D 4.26	D 0	C 48.94
⑦ 100万人あたりの研究者 (研究者数/人口)	D 0	D 4.26	C 25.53
⑧ 土木費割合 (土木費/全歳出)	D 8.51	B 57.45	D 12.77
⑨ 全粗付加価値額に占める粗付加価値額 (電気機械器具製造業)(粗付加価値額(電気機械器具製造業/製造業付加価値額))	A 78.72	A 82.98	B 57.45
⑩ インターネット普及率	A 95.74	A 100	A 85.11

— 東京都 — 愛知県 — 大阪府 — 平均



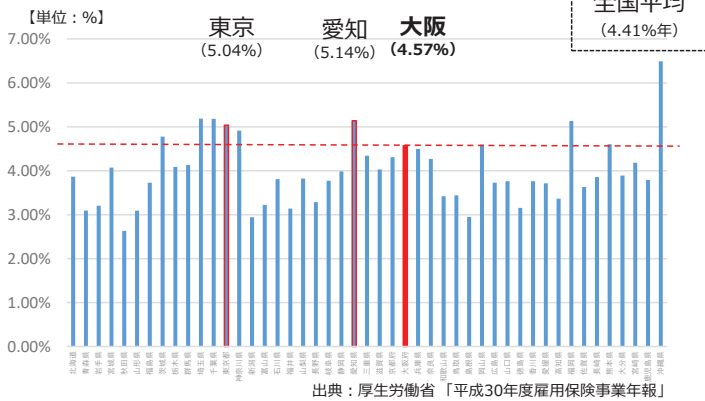
指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

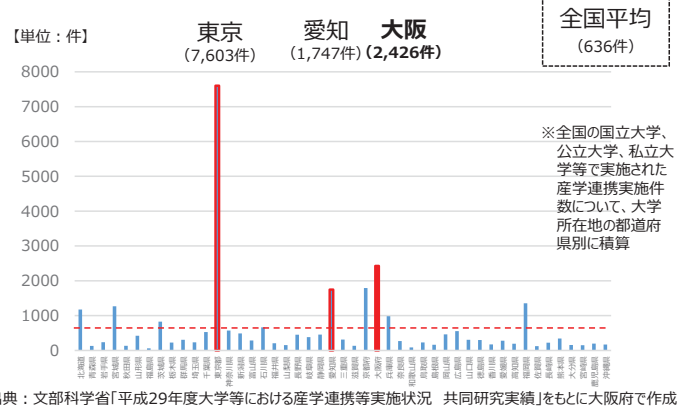
(※) 突発的な自然災害などの外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

開業率



大学等における産学連携等実施状況(H30.3.31現在)



「ゴール9」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール9」は、国際的には、全体として取組みの順調な進捗が認められており、特に改善が求められる指標は無い。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低いが、改善が必要とされる個別指標の多くは、各地域の産業構造に伴い評価が分かれるものであり、また、関連指標である「開業率」や「大学等における産学連携等実施状況」は順位が高い状況。
- 「ゴール9」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。（強みを活かすことで、他のゴールの課題克服や先進事例の発信等による国際貢献につなげる）

ゴール10 国内および国家間の不平等を是正する

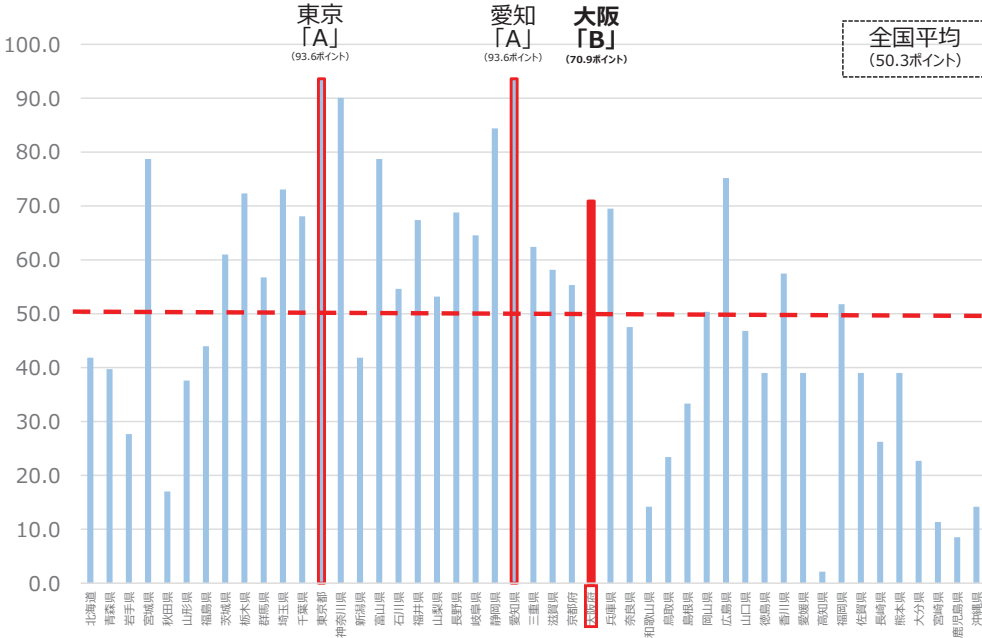
◆国際的な日本の評価 「C」

- 「C」 調整済みジニ係数
- 「D」 パルマ比
- 「C」 高齢者の貧困率 (%)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（2019）



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 相対的貧困世帯割合
 - 労働生産性
 - 財政力指数

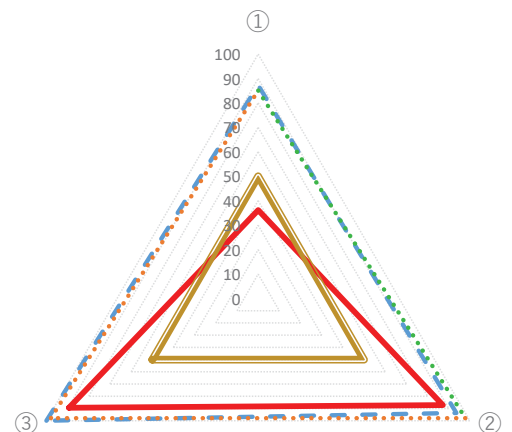
出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「B」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①相対的貧困世帯割合	C 36.17	A 87.23	A 85.11
②労働生産性 (付加価値額/従業員数)	A 87.23	A 93.62	A 97.87
③財政力指数	A 89.36	A 100	A 97.87

指標（スコア）を4段階で表示（100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」）

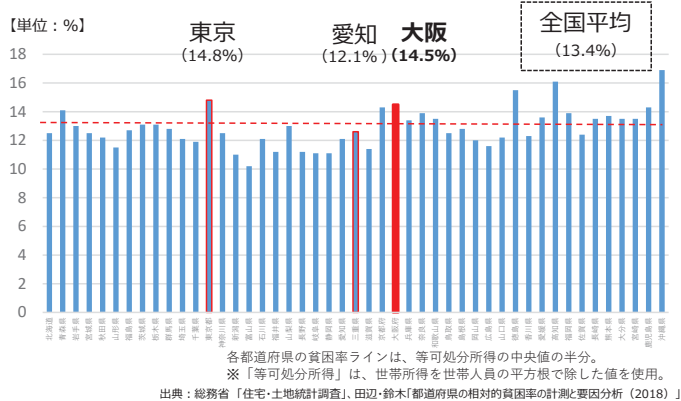
— 東京都 — 愛知県 — 大阪府 — 平均



統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

相対的貧困世帯割合（2013年）



「ゴール10」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール10」は、国際的には、全体として改善が必要とされるゴールであり、個別指標のうち、所得格差を示す「ジニ係数」や「パルマ比」が厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が高く、指標スコアも平均より高い。また、個別指標については、「労働生産性」や「財政力指数」など、順調に取組みが進んでいる指標の割合が高い。
- 「ゴール10」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。

ゴール11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

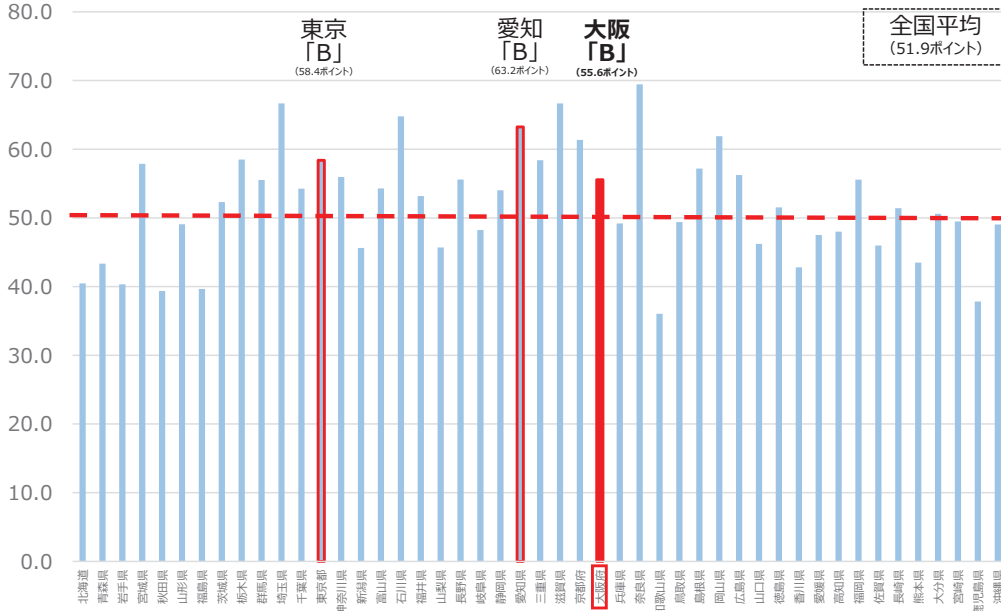
◆国際的な日本の評価 「C」

- 「C」 可処分所得の40%以上の家賃を払っている人の割合 (%)
- 「C」 公共交通機関の満足度 (%)
- 「B」 P M2.5の年平均濃度 (µg/ m 3)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較



(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

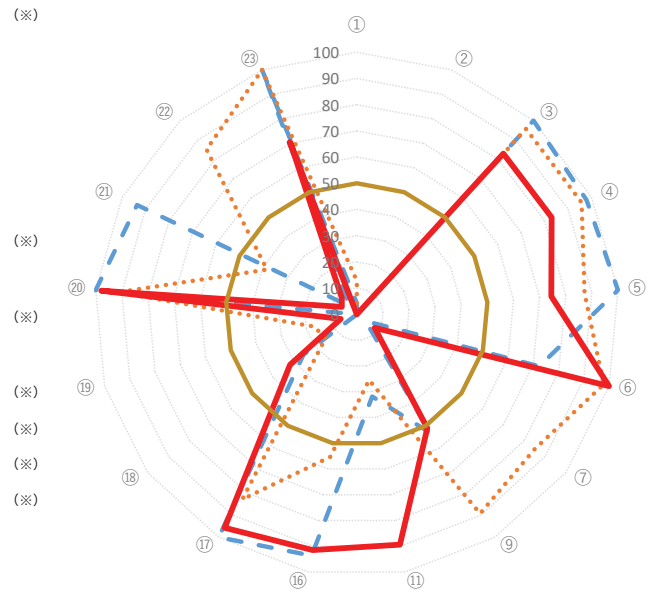
- (対象指標)
- ホームレス割合
 - 鉄道・電車・バスの利用割合
 - 人口増減
 - 人口自然増減
 - 人口社会増減
 - 市街化調整区域面積割合
 - 市街化調整区域内人口割合
 - 平均文化財保存事業費
 - 災害等の自然外因による死亡者割合
 - 災害復旧費割合
 - 廃棄物の最終処分割合
 - 微小粒子状物質(PM2.5)年平均
 - 光化学オキシダント(Ox)濃度の昼間1時間値が0.12ppm以上であった日数
 - 窒素酸化物(NOx)年平均値(ppm)
 - 二酸化硫黄(SO2)年平均値(ppm)
 - 面積当たりの図書館数、公民館数
 - 面積当たりの図書館面積、公民館面積
 - 人口当たりの公園数
 - 人口当たりの公園面積
 - 面積当たりの公園面積
 - 人口あたりの性犯罪認知数
 - 市街化調整区域内人口割合
 - 防災会議を設置している市区町村の割合

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「B」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①ホームレス割合 (ホームレスの数/人口)	D 0	D 4.26	D 12.77
②鉄道・電車・バスの利用割合 (15歳以上自宅外通勤・通学者で鉄道・電車・バスを利用している人数/15歳以上自宅外通勤・通学者)	-	-	-
③人口増減 (出生数-死亡数)+(転入数-転出数)/人口	A 82.98	A 100	A 95.74
④人口自然増減 (出生数-死亡数)/総人口	A 82.98	A 97.87	A 95.74
⑤人口社会増減 (転入数-転出数)/総人口	B 74.47	A 100	A 87.23
⑥市街化調整区域面積割合 (市街化調整面積/総面積)	A 100	B 72.34	A 97.87
⑦市街化調整区域内人口割合 (市街化調整区域内人口/総人口)	A 91.49	A 95.74	D 14.89
⑧平均文化財保存事業費 (補助金の交付額)/(補助金交付件数)	A 97.87	B 57.45	B 63.83
⑨災害等の自然外因による死亡者割合 (災害等の自然外因による死亡者/人口)	B 51.06	B 53.19	A 89.36
⑩災害復旧費割合 (自治体繰出の災害復旧費/全繰出)	D 4.26	D 12.77	D 0
⑪廃棄物の最終処分割合 (最終処分量/ゴミの総排出量)	A 89.36	C 31.91	C 25.53
⑫微小粒子状物質(PM2.5)年平均 (µg/m3)	-	-	-
⑬光化学オキシダント(Ox)濃度の昼間1時間値が0.12ppm以上であった日数	-	-	-
⑭窒素酸化物(NOx)年平均値(ppm)	-	-	-
⑮二酸化硫黄(SO2)年平均値(ppm)	-	-	-
⑯面積当たりの図書館数、公民館数 (図書館数+公民館数)/可住地面積	A 91.49	A 93.62	B 55.32
⑰面積当たりの図書館面積、公民館面積 (図書館延面積+公民館延面積)/可住地面積	A 95.74	A 100	A 82.98
⑱面積当たりの公園数 (公園数/人口)	C 31.91	C 25.53	D 14.89
⑲人口当たりの公園面積 (公園面積/人口)	D 6.38	D 0	D 17.02
⑳面積当たりの公園面積 (公園面積/可住地面積)	A 97.87	A 100	A 91.49
㉑人口あたりの性犯罪認知数 (性犯罪認知数/人口)	D 6.38	A 93.62	C 38.3
㉒防災会議を設置している市区町村の割合	B 70.37	A 100	A 100

— 東京都 — 愛知県 — 大阪府 — 平均

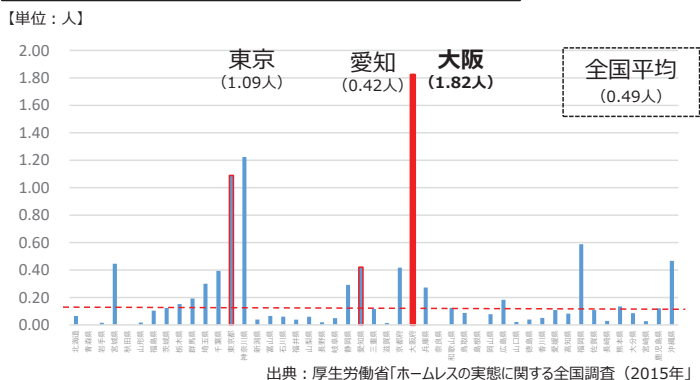


統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

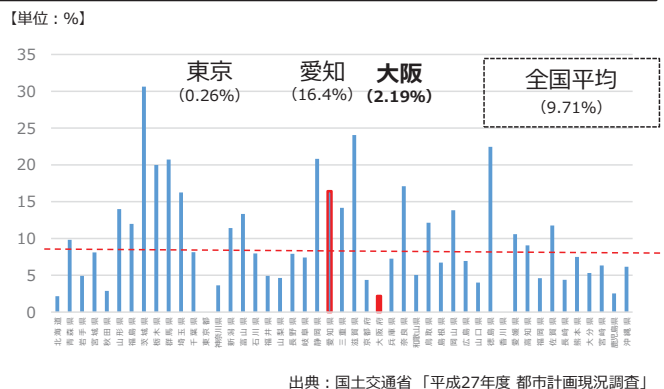
指標(スコア)を4段階で表示(100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)
 (※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

1万人あたりのホームレス数



市街化調整区域内人口割合（市街化調整区域内人口/総人口）



「ゴール11」の到達点について（検証まとめ）

- 「ゴール11」は、国際的には、全体として改善が必要とされるゴールであり、個別指標については、「可処分所得の40%以上の家賃を払っている人の割合」、「公共交通機関の満足度」で厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が高く、指標スコアも平均より高い。また、「人口増減」や「市街化調整区域の面積割合」、「廃棄物の最終処理割合」、「面積当たりの図書館数、公民館数」など、順調に取組みが進んでいる個別指標の割合が高い。関連指標については、「1万人当たりホームレス数」の順位は低く、「市街化調整区域内の人口割合」も順位が高い。
- 「ゴール11」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。（他の全てのゴールを包摂するゴールとして注力する）

ゴール12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

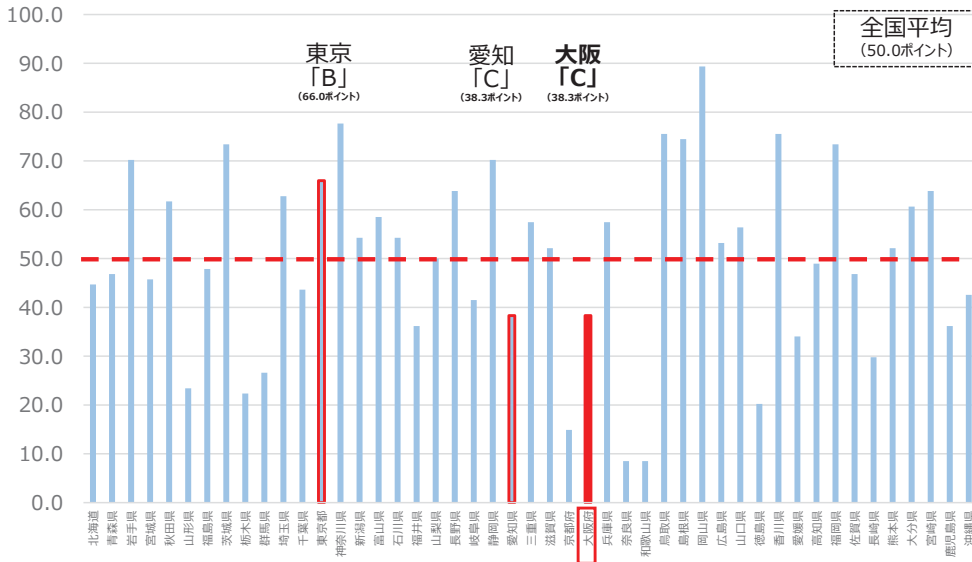


◆国際的な日本の評価 「D」

- 「D」 電子廃棄物の発生量 (kg /人)
- 「A」 生産ベースのSO2排出量 (kg /人)
- 「C」 SO2排出量 (kg /人)
- 「C」 製造窒素のフットプリント (kg /人)
- 「D」 活性窒素の純排出量 (kg /人)
- 「A」 リサイクルされていない都市ごみ (MSW kg /人/日)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)

◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

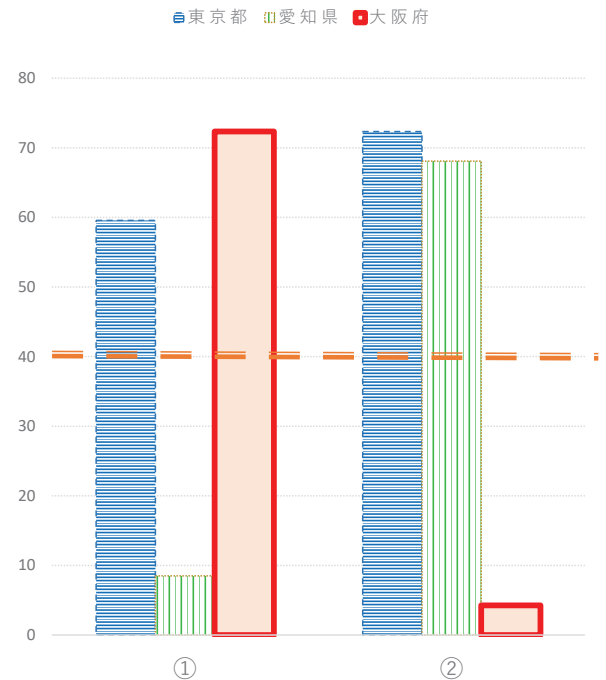
- (対象指標)
- 有機廃棄物割合
 - リサイクル率

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「C」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①有機廃棄物割合 (そのほかの廃棄物/廃棄物の総搬入量)	B 72.34	B 59.57	D 8.51
②リサイクル率	D 4.26	B 72.34	B 68.09

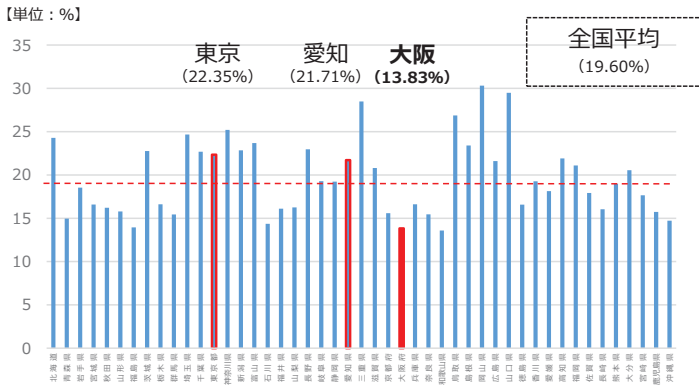
指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)



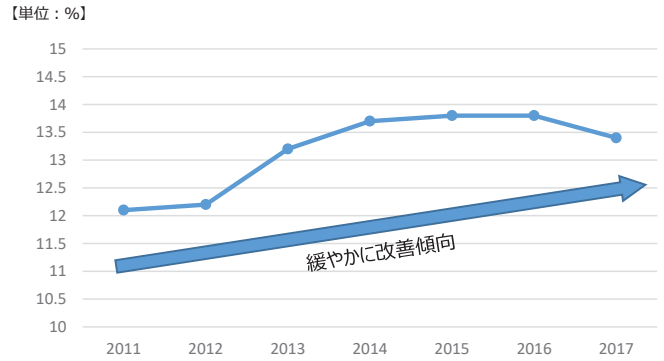
◆ 指数化の概要
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

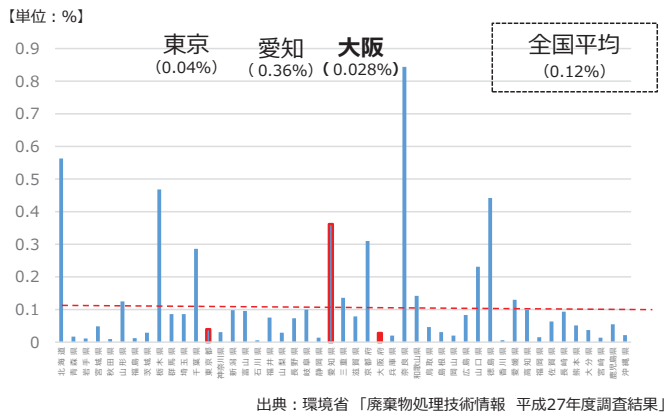
リサイクル率



大阪のリサイクル率の推移



有機廃棄物割合 (そのほかの廃棄物/廃棄物の総搬入量)



「ゴール12」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール12」は、国際的には、全体として状態が悪化しているゴールであり、個別指標うち、「電子廃棄物の発生量」や「活性窒素の純排出量」、「SO2排出量」が厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低い。また、個別指標については、「リサイクル率」で厳しい評価。なお、「リサイクル率」については、緩やかな改善傾向が見られる状況。
- 「ゴール12」は、府として、今後、特に注力して取組みを進める必要がある。
(対象指標が限られていることに留意が必要)

ゴール13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

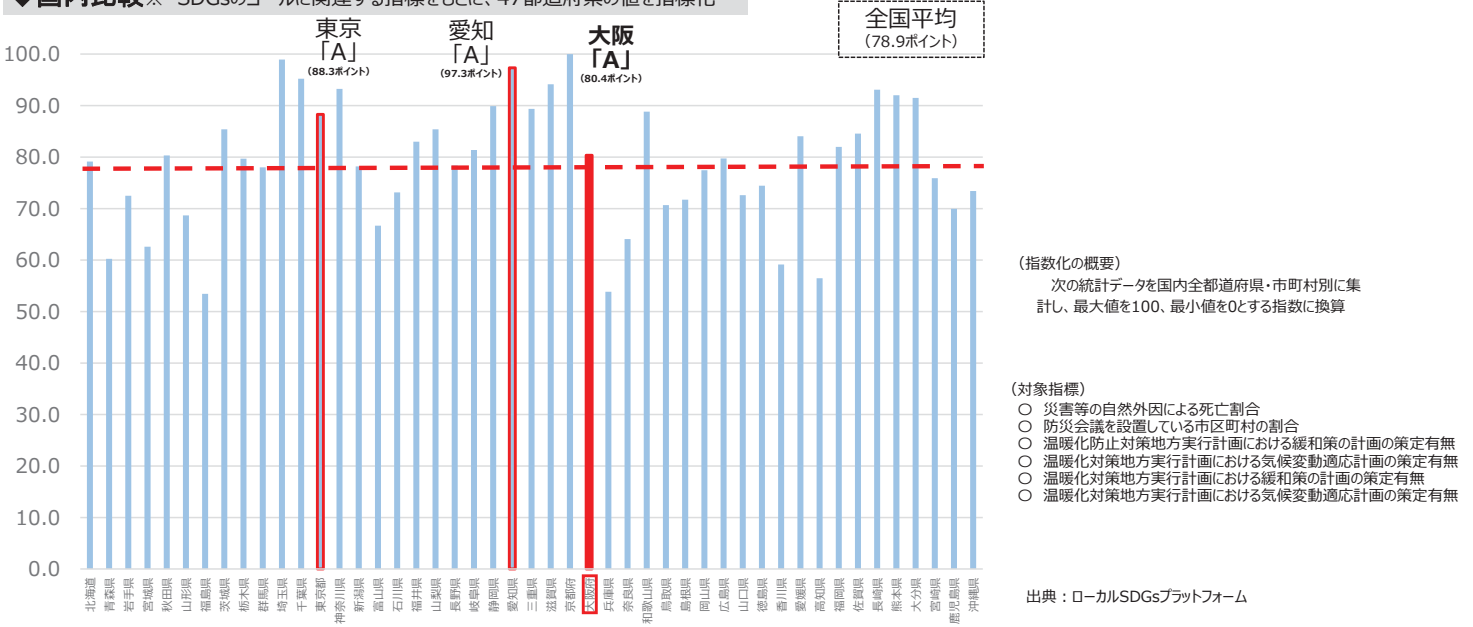
◆国際的な日本の評価 「D」

- 「D」 1人当たりエネルギー関連CO2排出量 (tCO₂/人)
- 「A」 技術調整済み輸入CO2排出量 (tCO₂/人)
- 「B」 気候変動に伴う災害の被災者 (10万人あたり)
- 「A」 化石燃料排出に含まれるCO2排出量 (kg/人)
- 「D」 バイオマスからの排出を除く、非道路エネルギーからの実効炭素率 (€/tCO₂)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



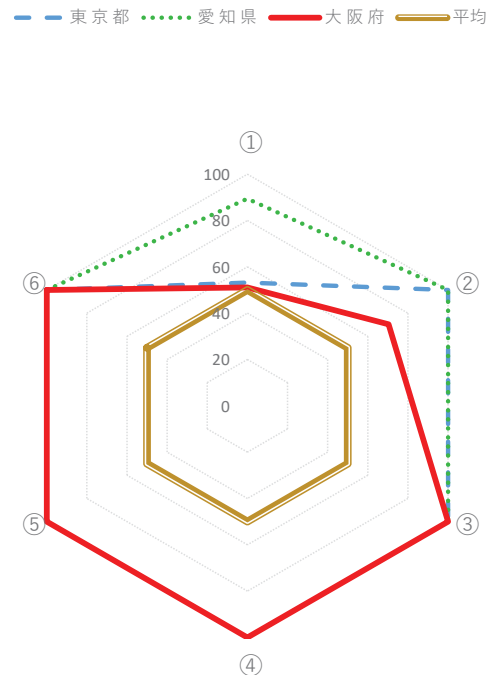
◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(国内比較の個別指標の分析) 「A」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①災害等の自然外因による死亡割合 (災害等の自然外因による死亡者/人口)	B 51.06	B 53.19	A 89.36
②防災会議を設置している市区町村の割合	B 70.37	A 100	A 100
③温暖化防止対策地方実行計画における緩和策の計画の策定有無	A 100	A 100	A 100
④温暖化対策地方実行計画における気候変動適応計画の策定有無	A 100	A 100	A 100
⑤温暖化対策地方実行計画における緩和策の計画の策定有無	A 100	A 100	A 100
⑥温暖化対策地方実行計画における気候変動適応計画の策定有無	A 100	A 100	A 100

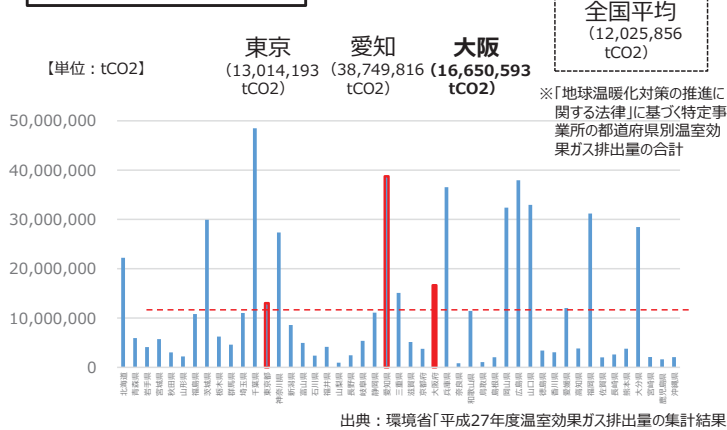
指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)



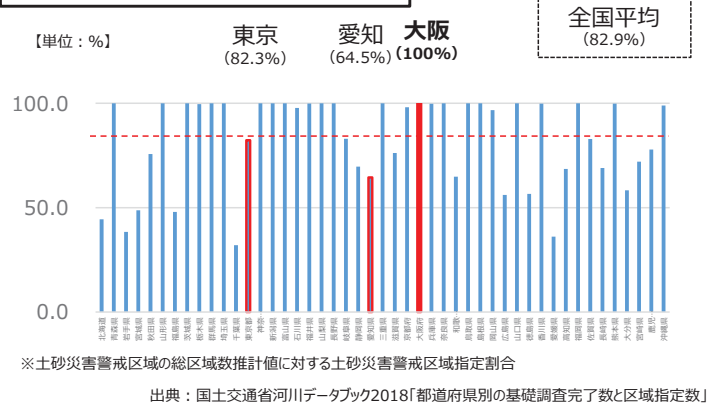
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

温室効果ガス排出量



土砂災害対策(警戒区域指定率)



「ゴール13」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール13」は、**国際的には、全体として状態が悪化しているゴール**となっているが、**「技術調査済み輸入CO2排出量」、「気候変動に伴う災害の被災者」、「化石燃料排出に含まれるCO2排出量」**など改善が認められる指標の割合が高い。
- **国内比較においては、大阪は、全体順位及び指標スコアが概ね平均となっている。**また、「災害等の自然外因による死亡割合」や「防災会議を設置している市区町村の割合」、「温暖化対策地方実行計画における緩和策の計画の策定有無」など、**順調に取り組みが進んでいる個別指標の割合が高い。**関連指標について、「**温室効果ガスの排出量**」の順位は低く、「**土砂災害対策**」は順位が高い。
- 「ゴール13」は、府として、**引き続き、継続的な取り組みを進めていく。**

ゴール14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

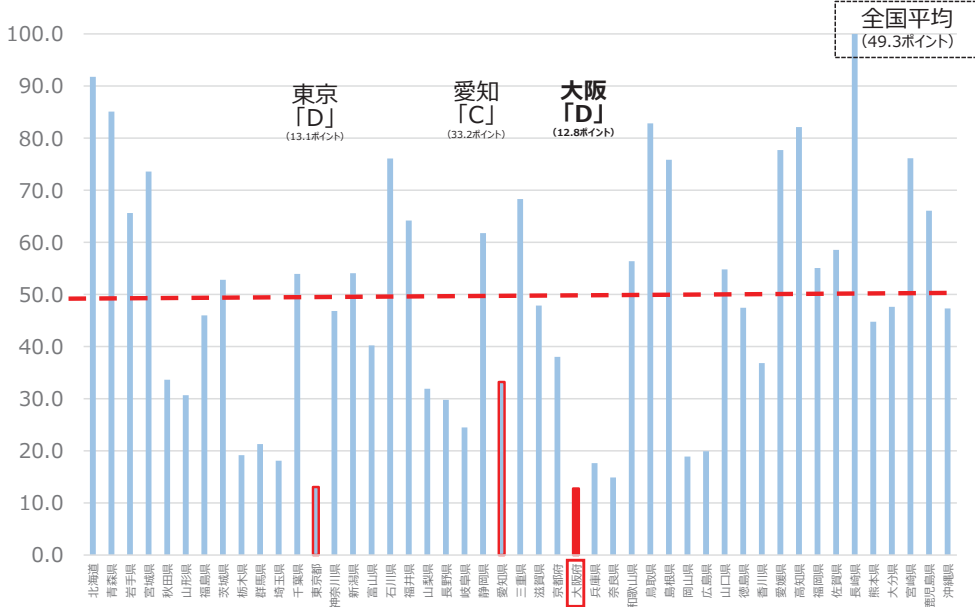
◆国際的な日本の評価 「C」

- 「A」 生物多様性にとって重要な海洋地域における保護地域の平均面積 (%)
- 「C」 海洋衛生指標-きれいな水指数 (0-100)
- 「D」 EEZで過剰利用されたもしくは崩壊した海洋資源の割合 (%)
- 「B」 トロール漁獲された漁獲量 (%)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 漁獲量および養殖収拾量増減率
 - 県内総生産当たりの水産業算出額
 - 研究費当たりの海洋技術関連の研究費

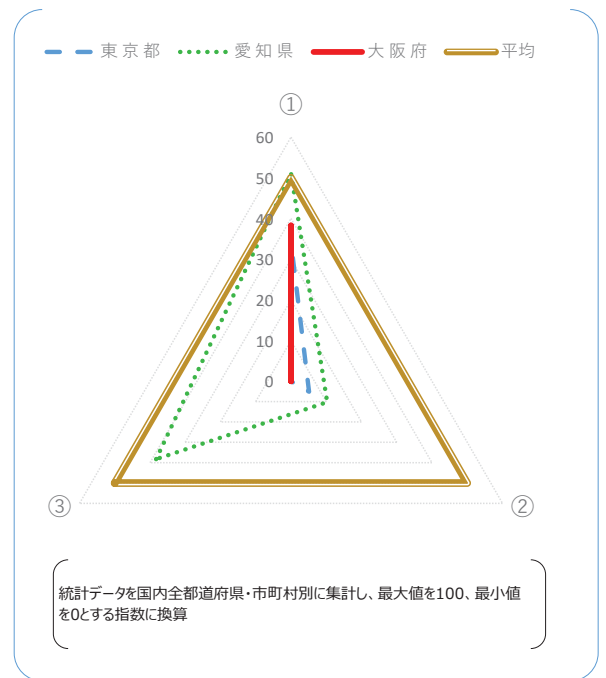
出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「一」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
① 漁獲量および養殖収拾量増減率 (((漁獲量+養殖収獲量)-(前年度漁獲量+前年度養殖収獲量))/人)	C 38.3	C 34.04	B 51.06
② 県内総生産当たりの水産業算出額 (水産業算出額/県内総生産)	D 0	D 5.13	D 10.26
③ 研究費当たりの海洋技術関連の研究費 (海洋技術関連の研究費/総合研究費)	D 0	D 0	C 38.3

指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

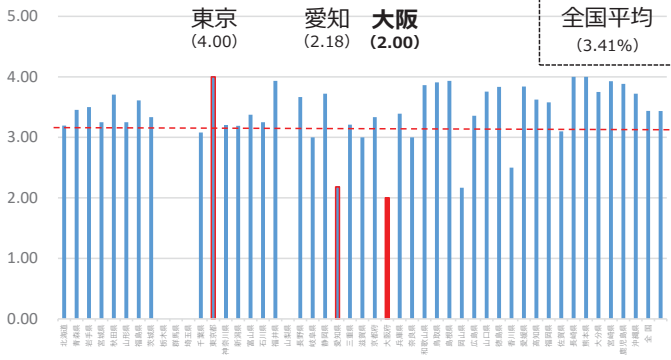
(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など



◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

水浴場(開設前)水質

【単位：スコア】

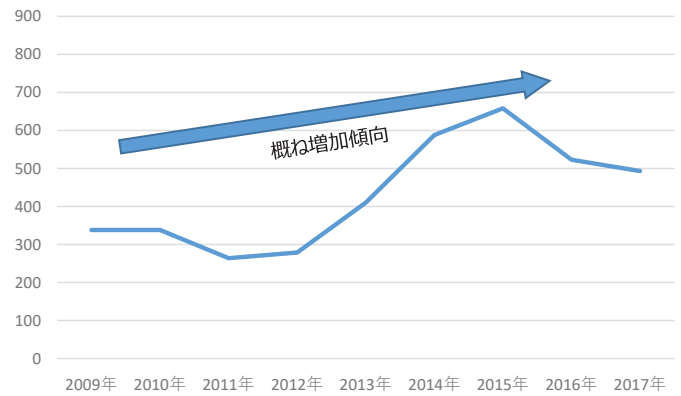


注) 各地点の水質評価を、A: 4、B: 3、C: 2、D: 1、不適:0とし、都道府県内の平均値を算出。

出典：環境省「平成30年度 水浴場(開設前)水質調査結果・都道府県別集計表」

海面養殖業収穫量の推移(大阪)

【単位：t】



出典：海面漁業生産統計調査（平成30年は速報値）

「ゴール14」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール14」は、国際的には、全体として改善が必要なゴールであり、個別指標のうち、「排他的経済水域で過剰利用された海洋資源割合」や「海洋衛生指標（きれいな水指数）」で厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、各指標スコアも平均より低いが、個別指標については、「漁獲量」や「水産業産出額」、「研究費当たりの海洋技術関連研究」など、産業構造の地域差に留意が必要。また、関連指標では、大阪は「水浴場（開設前）水質」で順位が低いですが、持続可能性の面では「海面養殖業収穫量」が概ね増加傾向にある。
- 「ゴール14」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。（「ゴール12」に集約して取組む）

ゴール15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

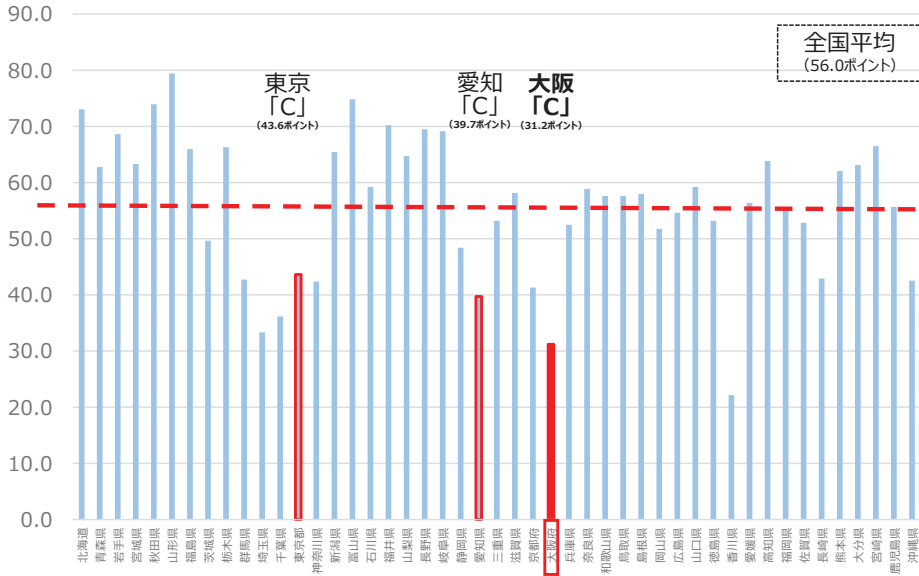
◆国際的な日本の評価 「C」

- 「A」 生物多様性にとって重要な陸上のうち保護地域の平均面積 (%)
- 「A」 生物多様性にとって重要な淡水地域のうち保護地域の平均面積 (%)
- 「D」 レッドリスト (絶滅危惧種) の生存指数
- 「A」 永久的な森林破壊 (5年間平均、%)
- 「B」 輸入による生物多様性の脅威にさらされている生物数 (人口100万人当たり)

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (2019)



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 森林面積割合
 - 林業試験指導機関人員率
 - 耕作放棄地面積割合
 - 生物保全地域割合
 - 面積当たりの絶滅危惧種数
 - 生物多様性地域戦略に基づく計画の策定有無

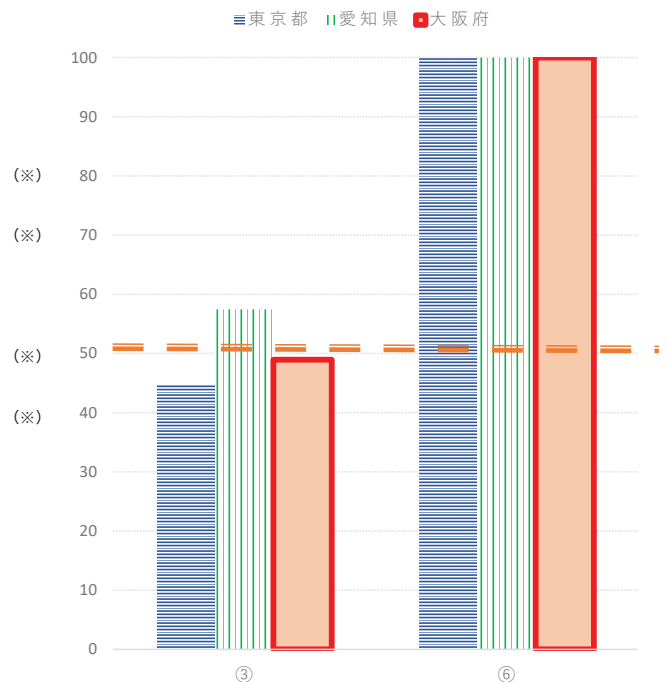
出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「B」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①森林面積割合 (森林面積/面積)	D 0	D 10.64	D 14.89
②林業試験指導機関人員率 (林業試験指導機関人員/人口)	D 4.26	D 0	D 10.64
③耕作放棄地面積割合 (耕作放棄地面積/耕作面積)	C 48.94	C 44.68	B 57.45
④生物保全地域割合 (鳥獣保護区面積+特別保護地区面積+特別保護指定区域面積)/面積)	C 31.91	A 97.87	D 17.02
⑤面積当たりの絶滅危惧種数 (絶滅危惧種数/面積)	D 2.13	D 8.51	C 38.3
⑥生物多様性地域戦略に基づく計画の策定有無	A 100	A 100	A 100

指標 (スコア) を4段階で表示 (100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」)

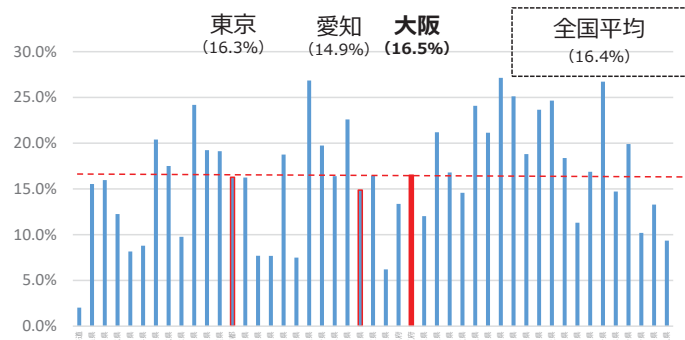
(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など



統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

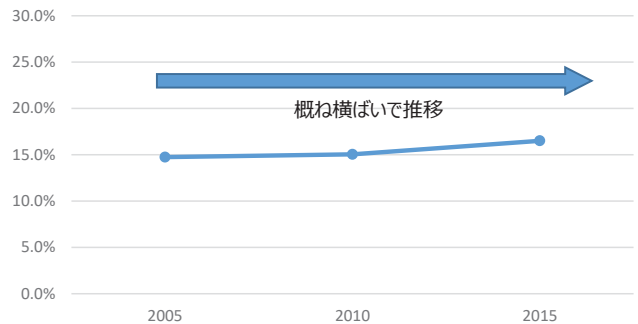
耕作放棄地率



耕作放棄地 = (総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積) ÷ (総農家の経営耕地面積 + 総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積)

出典：農林水産省「農林業センサス」

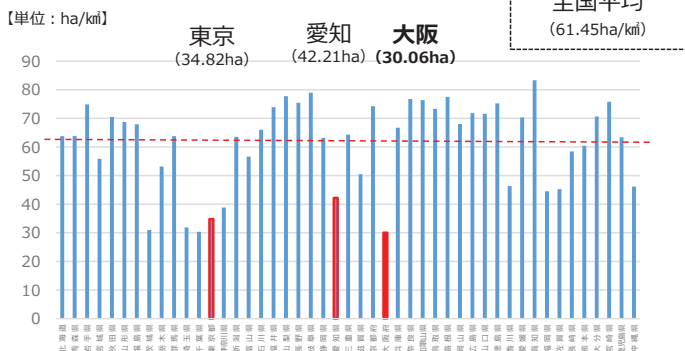
大阪の耕作放棄地率の推移



耕作放棄地 = (総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積) ÷ (総農家の経営耕地面積 + 総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積)

出典：農林水産省「農林業センサス」

森林面積割合(森林面積/面積)



出典：農林水産省「平成27年度農山村地域調査」

「ゴール15」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール15」は、国際的には、全体として改善が必要なゴールであるが、「生物多様性にとって重要な陸上のうち保護地域の平均面積」や、「生物多様性にとって重要な淡水地域のうち保護地域の面積割合」、「永久的な森林破壊」など、改善が認められる個別指標の割合が高い。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低いが、個別指標について厳しい評価となっている「耕作放棄地面積割合」は地理条件や自然条件の地域差に留意する必要。
- 「ゴール15」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。（「ゴール12」に集約して取組む）

ゴール16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

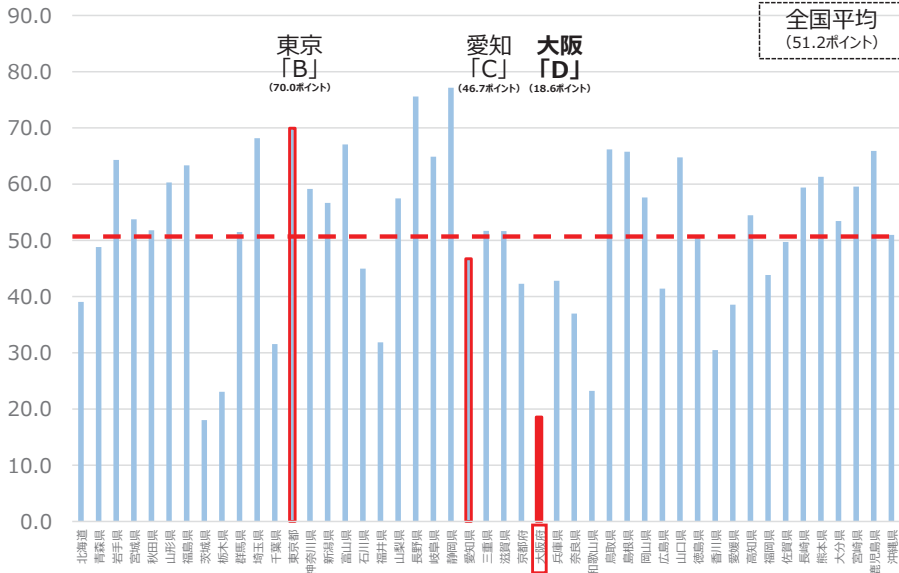


◆国際的な日本の評価 「B」

- 「A」 殺人（人口10万人当たり）
- 「B」 夜間に一人で歩いて安全と感じている人口（％）
- 「A」 児童労働に関わっている5～14歳の子供（％）
- 「A」 刑務所人口（人口10万人当たり）
- 「B」 報道の自由度（0-100）
- 「A」 公的機関による出生登録された5歳未満の子供の割合（％） 等

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
 カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
 出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（2019）

◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



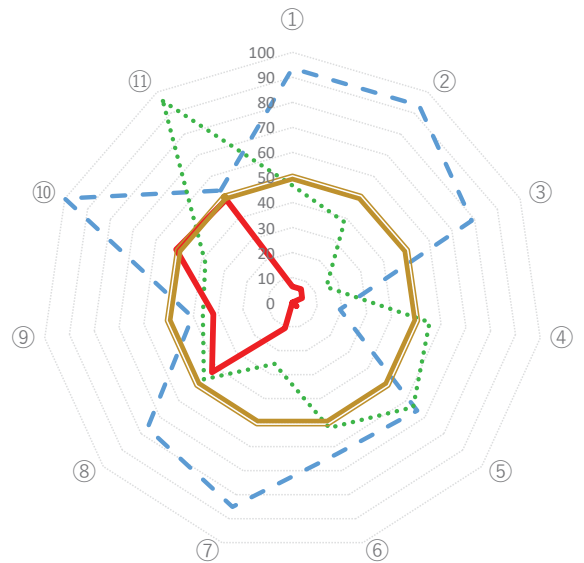
- (指数化の概要)
 次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算
- (対象指標)
- 人口あたりの殺人認知件数
 - 人口あたりのわいせつ罪認知件数
 - 人口あたりの刑法犯認知件数
 - 20歳未満人口あたりの児童虐待相談の対応件数
 - 人口あたりの略奪誘拐罪・人身売買の認知件数
 - 20歳未満あたりの児童虐待相談（性的虐待）の対応件数（児童虐待相談（性的虐待）の対応件数/20歳未満人口）
 - 人口あたりの粗防犯の認知件数
 - 人口あたりの組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制に関する法律の認知件数
 - 人口あたりの賄賂罪の認知件数
 - 都道府県議会の女性の割合
 - 5歳未満人口割合

出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「D」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①人口あたりの殺人認知件数 (殺人の認知件数/人口)	D 6.38	A 93.62	C 46.81
②人口あたりのわいせつ罪認知件数 (わいせつ罪認知件数/人口)	D 6.38	A 93.62	C 38.3
③人口あたりの刑法犯認知件数 (刑法犯認知件数/人口)	D 4.26	A 78.72	D 14.89
④20歳未満人口あたりの児童虐待相談の対応件数 (児童虐待相談の対応件数/20歳未満人口)	D 0	D 19.15	B 55.32
⑤人口あたりの略奪誘拐罪・人身売買の認知件数 (略奪誘拐罪・人身売買の認知件数/人口)	D 2.13	B 65.96	B 63.83
⑥20歳未満あたりの児童虐待相談（性的虐待）の対応件数 (児童虐待相談（性的虐待）の対応件数/20歳未満人口)	D 0	B 63.04	B 52.17
⑦人口あたりの粗防犯の認知件数 (粗防犯の認知件数/人口)	D 10.64	A 85.11	C 25.53
⑧人口あたりの組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制に関する法律の認知件数 (組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制に関する法律の認知件数/人口)	C 42.55	A 76.6	C 46.81
⑨人口あたりの賄賂罪の認知件数 (賄賂罪の認知件数/人口)	C 31.91	C 40.43	C 36.17
⑩都道府県議会の女性の割合 (女性の都道府県議会議員/都道府県議会議員)	B 51.06	A 100	C 38.3
⑪5歳未満人口割合 (5歳未満人口/人口)	C 48.94	B 53.19	A 95.74

— 東京都 愛知県 — 大阪府 — 平均

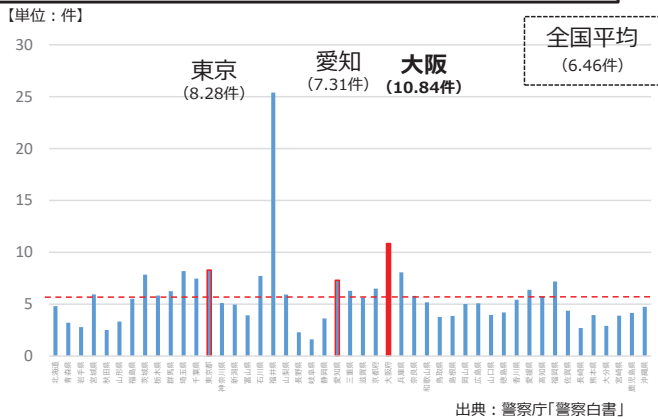


指標（スコア）を4段階で表示（100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」）

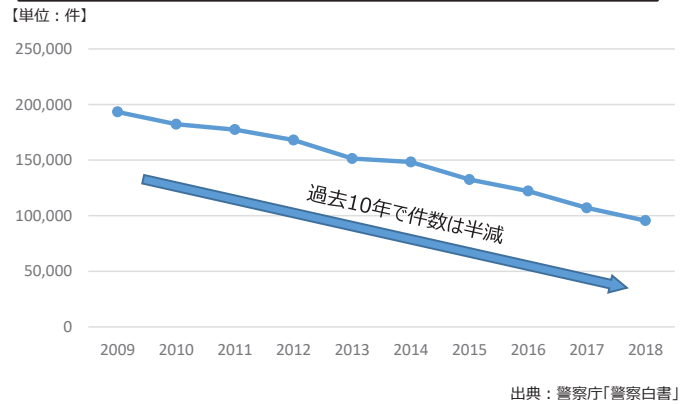
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

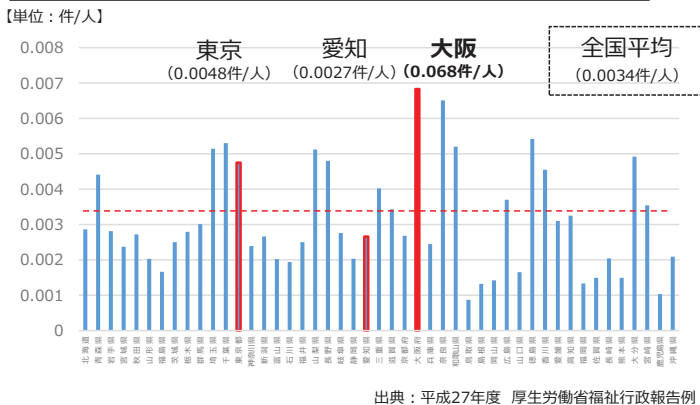
1000人あたりの刑法犯認知件数(刑法犯認知件数/人口)



大阪の刑法犯認知件数の推移



20歳未満人口あたりの児童虐待相談の対応件数
(児童虐待相談の対応件数/20歳未満人口)



「ゴール16」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール16」は、**国際的には、全体として改善が認められるゴール**であり、個別指標については、**「殺人」や「児童労働に関わっている5～14歳の子ども」、「刑務所人口」は順調に進捗しているという評価**となっている。
- **国内比較においては、大阪は、全体順位が低く、指標スコアも平均より低く**、「人口当たりの殺人認知件数」や「人口当たりのわいせつ認知件数」、「20歳未満人口当たりの児童虐待相談の対応件数」、「人口当たりの粗防犯の認知件数」など、**改善が必要な個別指標の割合が高い**。関連指標の「**刑法犯認知件数**」は、値は改善しているものの**順位は低い**状況。
- 「ゴール16」は、府として、**今後、特に注力して取組みを進める必要がある**。

ゴール17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

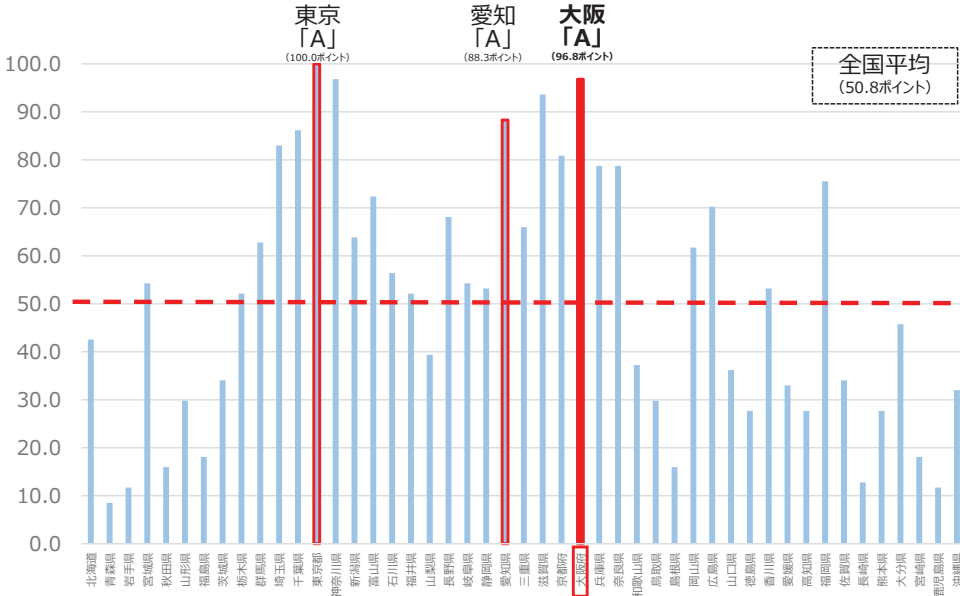
◆国際的な日本の評価 「D」

- 「A」 政府の保健医療・教育への支出（GDP比）
- 「D」 政府開発援助を含む譲許的公的資金による援助
- 「A」 タックスヘイブンスコア（0～5）
- 「D」 金融秘密度指数

達成状況を、A>B>C>Dとして表示。
カッコ内の矢印は2010年からの進捗状況
出典：国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（2019）



◆国内比較※ SDGsのゴールに関連する指標をもとに、47都道府県の値を指標化



(指数化の概要)
次の統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

- (対象指標)
- 実質公債費比率
 - 世帯当たりのインターネットブロードバンド契約率
 - インターネット普及率

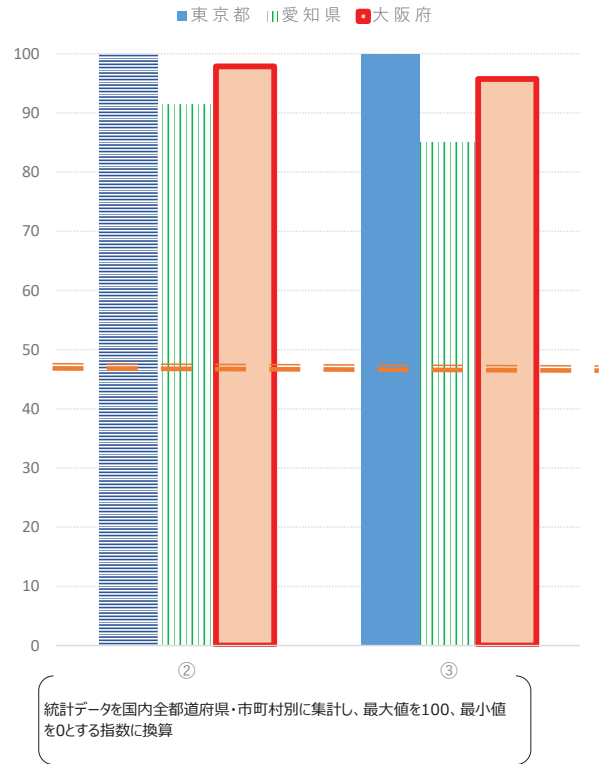
出典：ローカルSDGsプラットフォーム

(国内比較の個別指標の分析) 「A」

	個別評価・指標値		
	大阪	東京	愛知
①実質公債費比率	-	-	-
②世帯当たりのインターネットブロードバンド契約率	A 97.87	A 100	A 91.49
③インターネット普及率	A 95.74	A 100	A 85.11

指標（スコア）を4段階で表示（100以下「A」、75以下「B」、50以下「C」、25以下「D」）

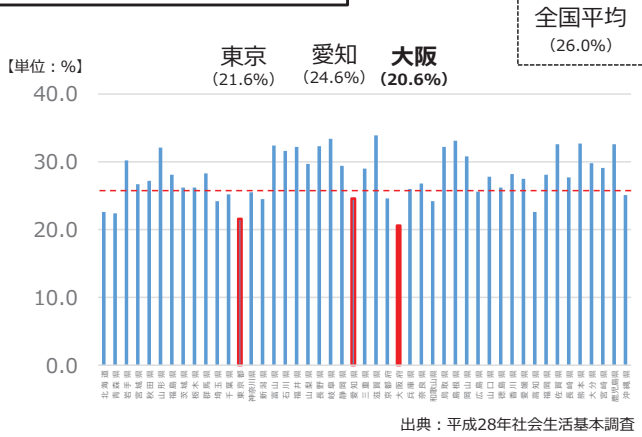
(※) 突発的な自然災害など外的要因で大きく経年変動する指標や、予算の規模など課題の重要性と値の関係性について判断が困難な指標、データが欠損している指標など



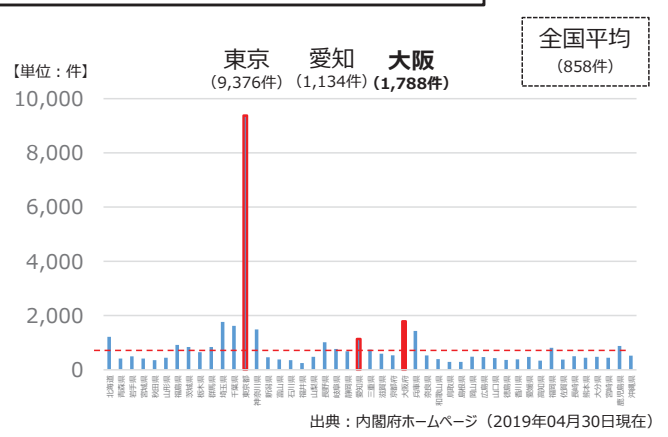
統計データを国内全都道府県・市町村別に集計し、最大値を100、最小値を0とする指数に換算

◆ その他、府の施策に関連する主な統計データの国内比較

ボランティア活動の行動者率



特定非営利活動法人の所管庁別認証数



「ゴール17」の到達点について(検証まとめ)

- 「ゴール17」は、国際的には、全体として状態が悪化しているゴールであり、個別指標のうち、「政府開発援助を含む公的資金援助」、「金融秘密度指数」で厳しい評価となっている。
- 国内比較においては、大阪は、全体順位は上位であり、指標スコアは平均より高い。また、「インターネット普及率」など順調に取組みが進んでいる個別指標の割合が高く、関連指標である「特定非営利活動法人の所管庁別認証数」も順位が上位となっている。一方で、「ボランティア活動の行動者率」について順位が低いなど課題もある。
- 「ゴール17」は、府として、引き続き、継続的な取組みを進めていく。

3. アンケート調査

(1) 一般府民向け調査

<実施概要>

(インターネットアンケート(民間会社を通じて実施))

- 対象：大阪府民1,000人(18歳~90歳)
- 実施期間：2019年10月29日

◆主な調査事項

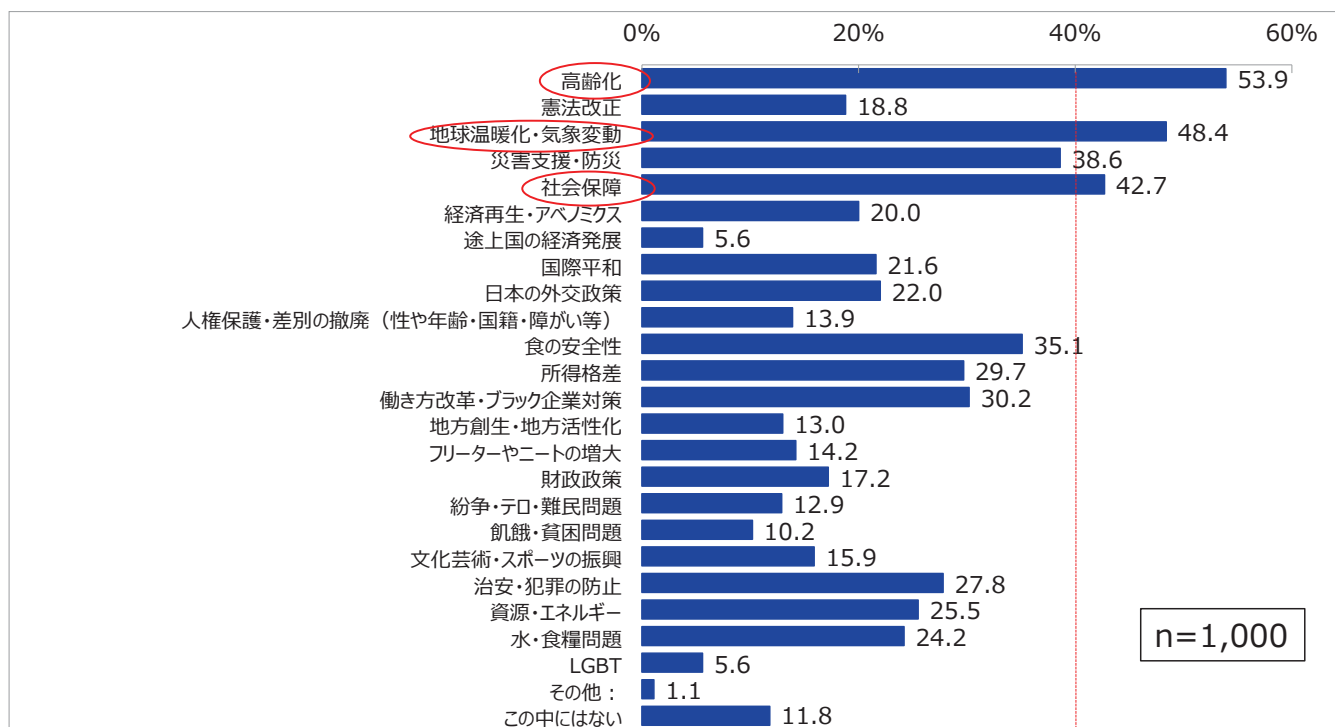
- ① 関心のある社会課題、時事問題
- ② 社会問題、環境問題に関する認識
- ③ SDGsの認知度
- ④ 大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール
- ⑤ SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
- ⑥ 日常生活で実践していること

(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆関心のある社会課題・時事問題

○社会課題として、「高齢化」、「地球温暖化・気象変動」、「社会保障」に対する関心が高い。

Qあなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆社会問題、環境問題に関する認識

○「国や企業が社会問題や環境問題の解決に取り組むことは、科学技術やテクノロジーの発展につながる」と考える人が多い。

Q. 次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。

n=1,000



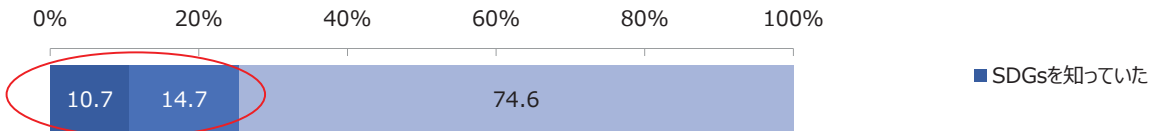
(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆SDGsの認知度

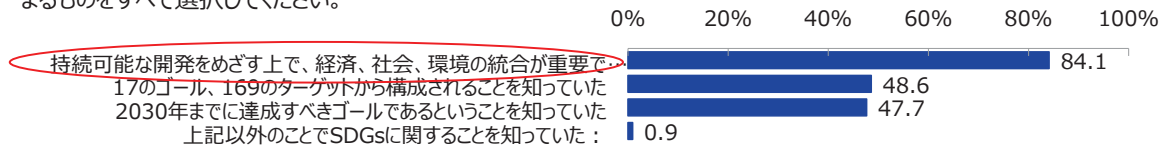
- SDGsの認知度は25.4%。
- SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。
- SDGsを知ったきっかけとして、「新聞・雑誌」、「テレビ・ラジオ」、「職場・学校で聞いた」が多い。

Q. あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

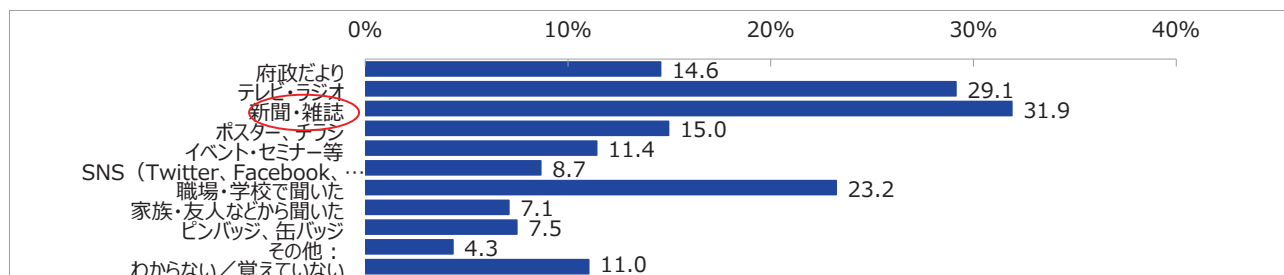
n=1,000



Q. (前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします) あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



Q. あなたは、どこで(何で)SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

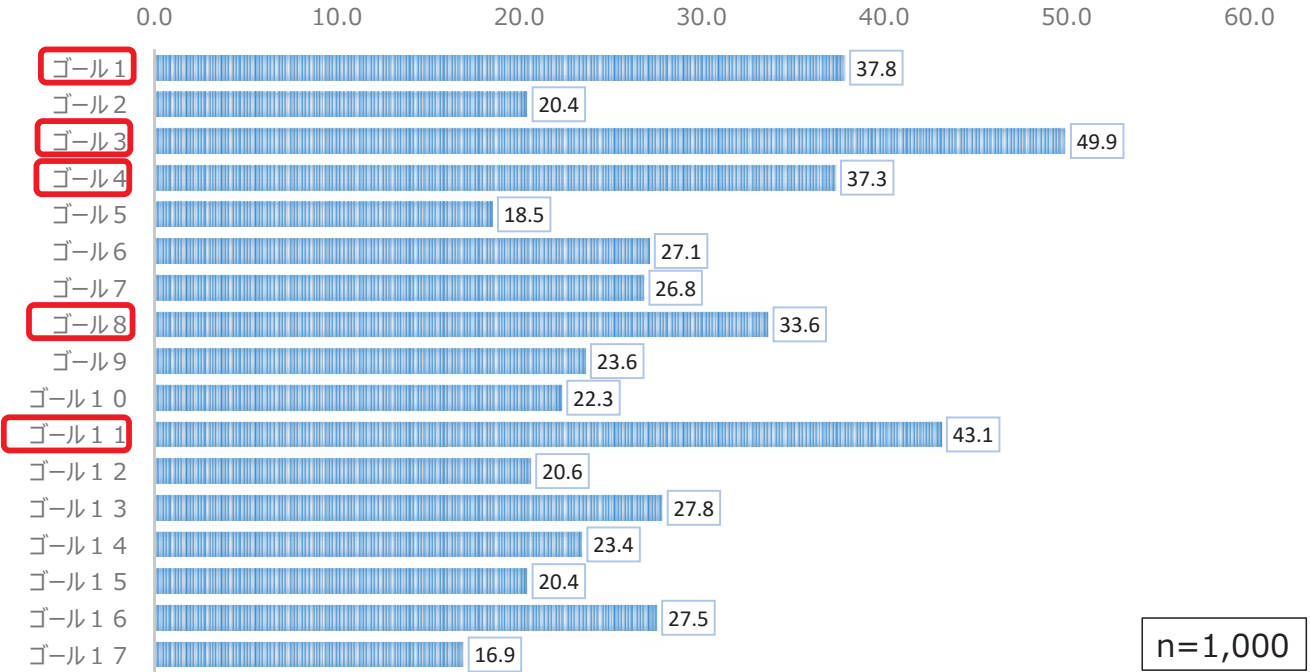


(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

○「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（男女別）

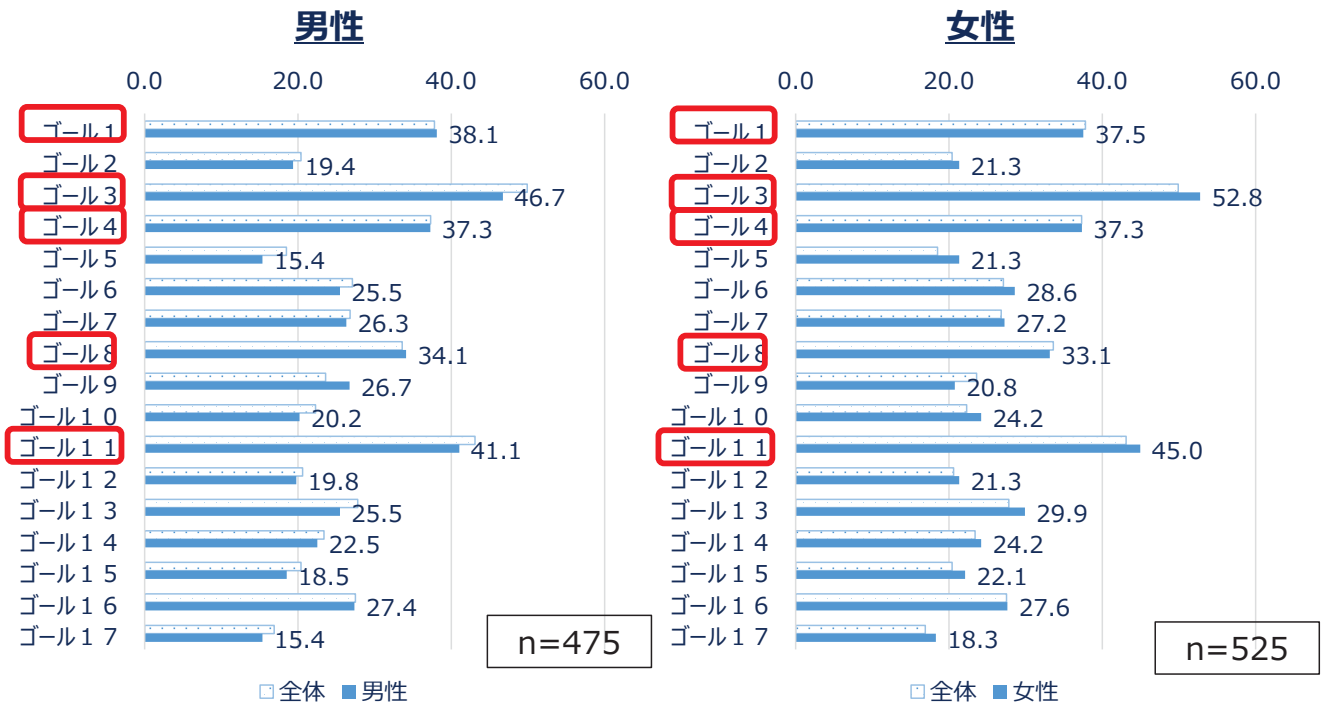
○男性：

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」

○女性：

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（年齢別）

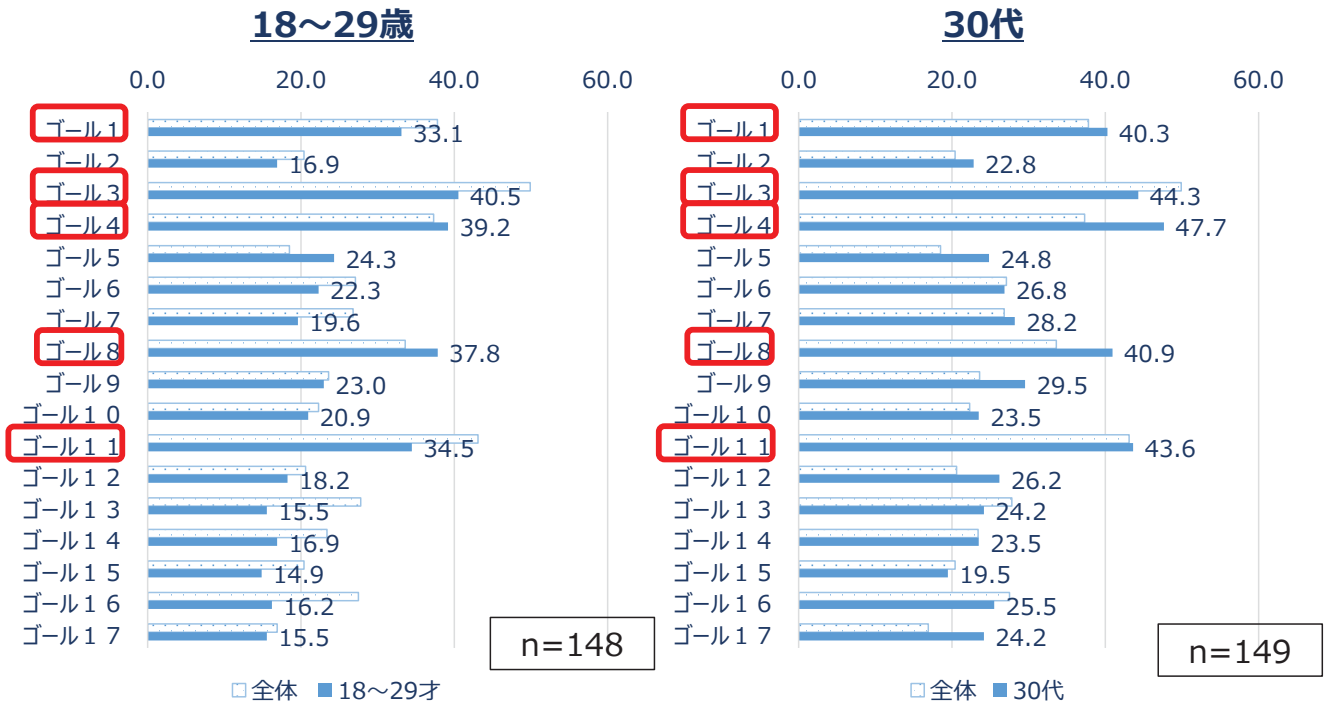
○18歳～29歳

「ゴール3（健康）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」

○30代

「ゴール4（教育）」、「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール1（貧困）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（年齢別）

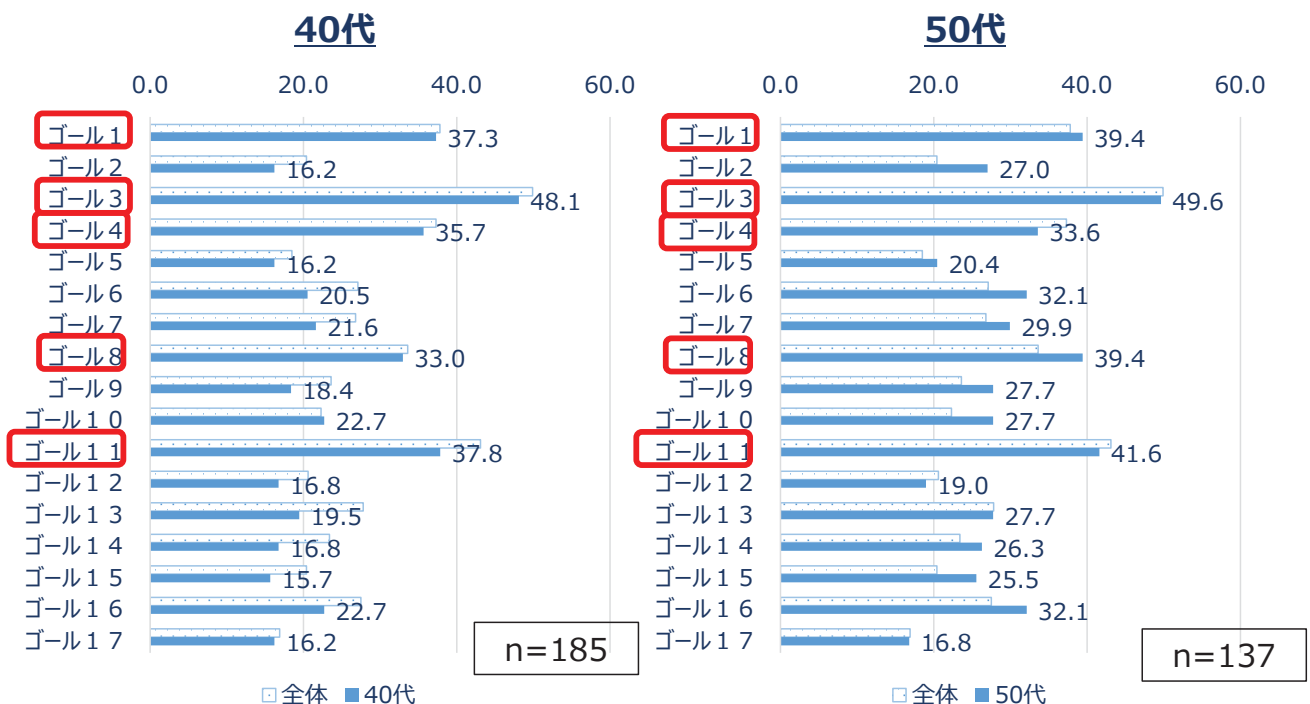
○40代

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」

○50代

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール4（教育）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

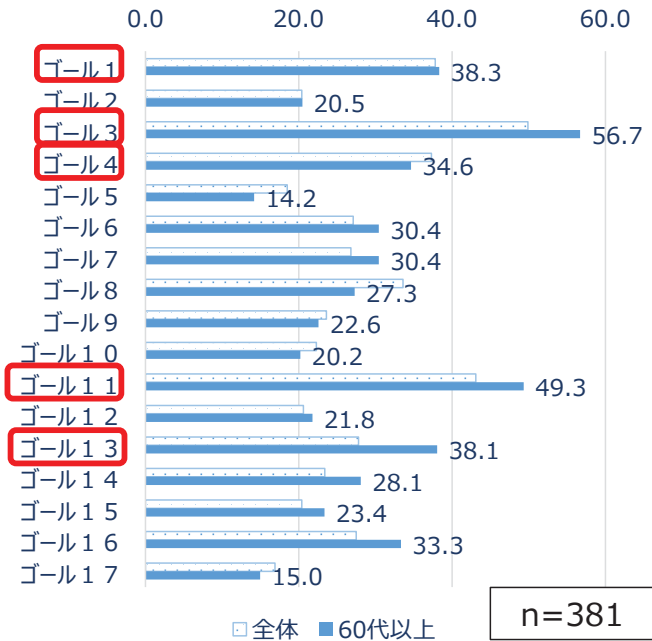
◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（年齢別）

○60代以上

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール13（気候変動）」、「ゴール4（教育）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。

60代以上



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（地域別）

○大阪市域

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」

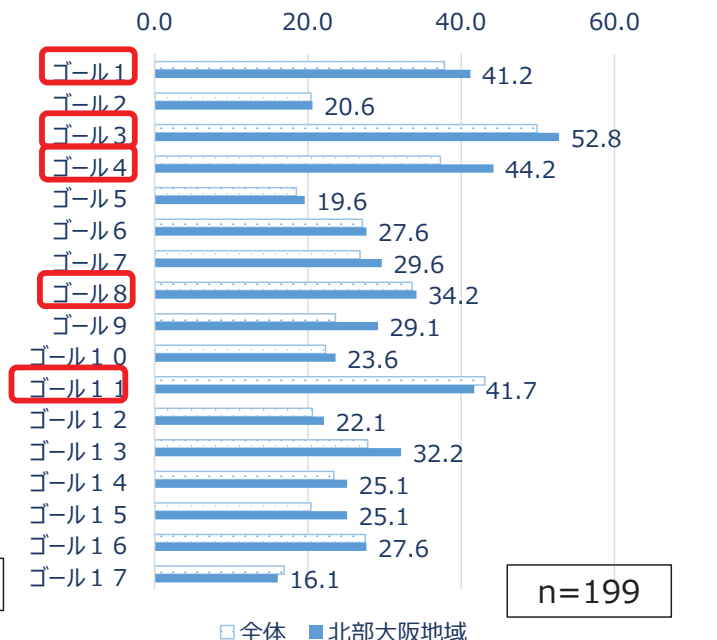
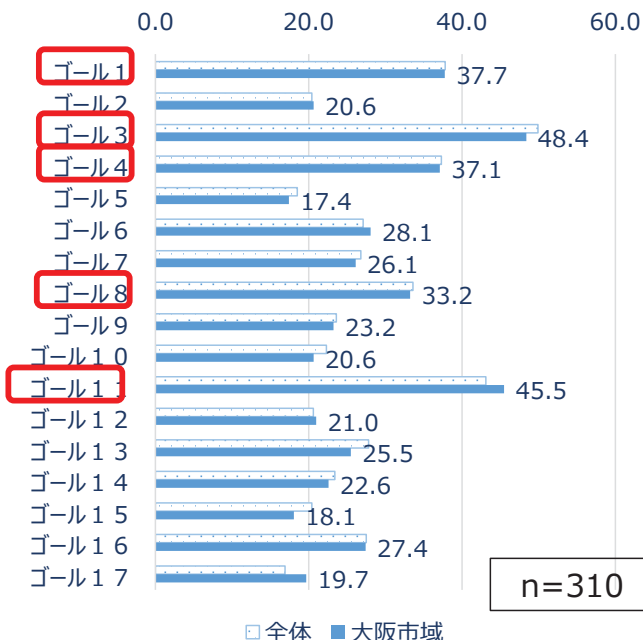
○北部大阪地域

「ゴール3（健康）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。

大阪市域 （大阪市）

北部大阪地域 （豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町）



(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（地域別）

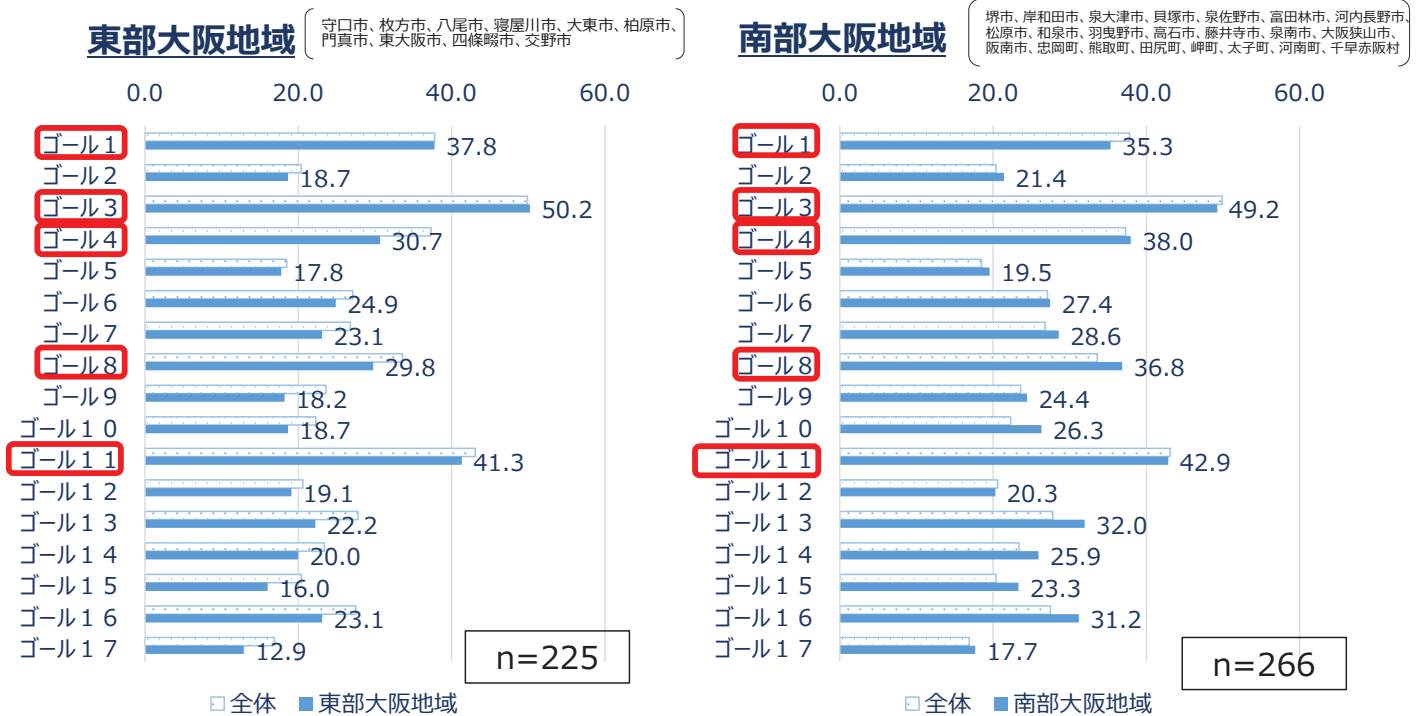
○東部大阪地域

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」

○南部大阪地域

「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール1（貧困）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。

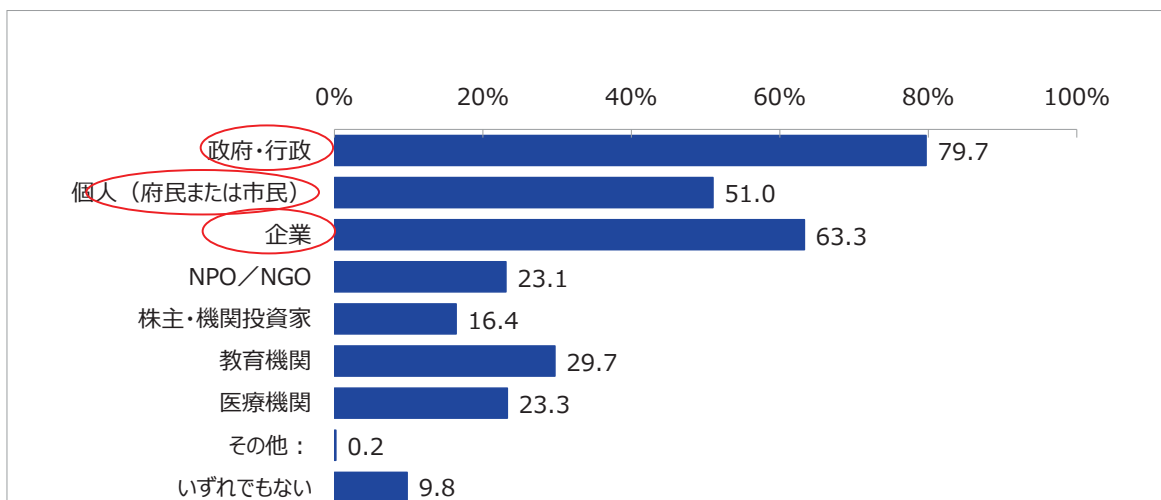


(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー

○「政府・行政」、「企業」、「個人」の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

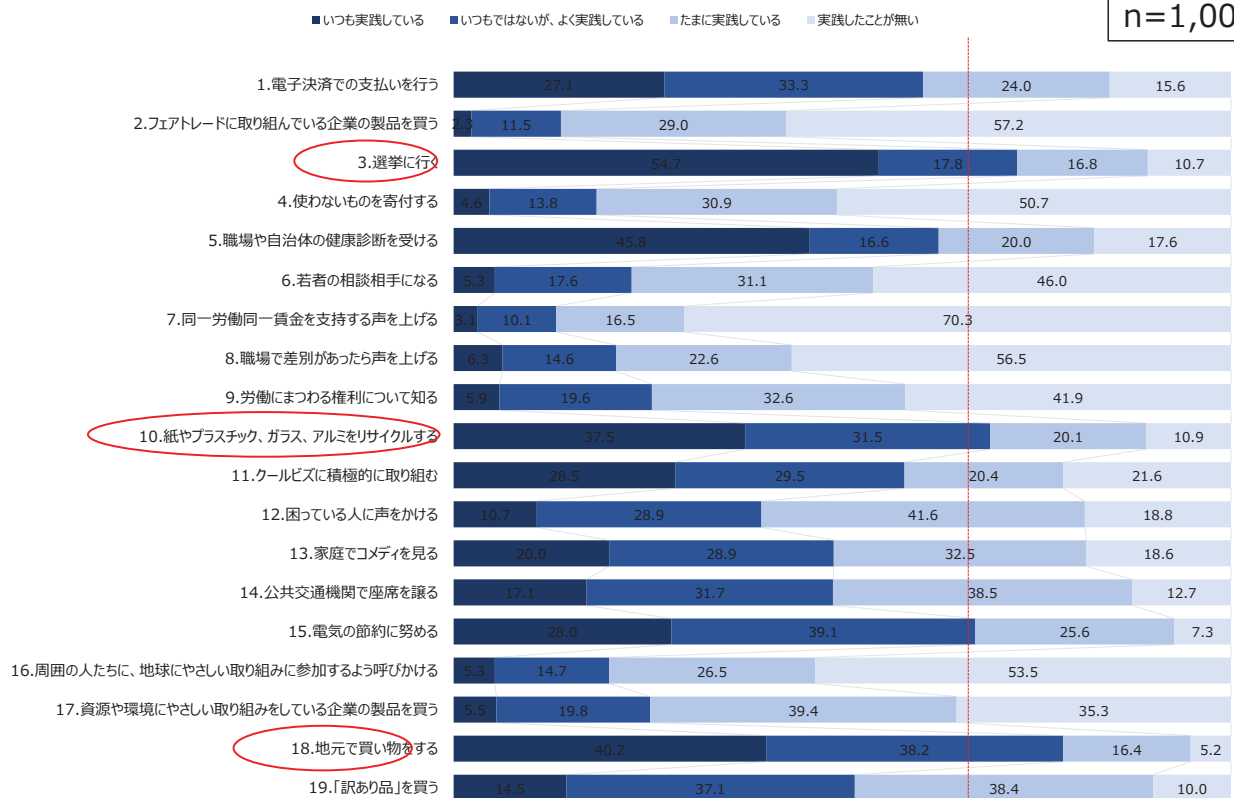


n=1,000

(1) 一般府民向け調査 ① 結果概要

◆日常生活で実践していること

○「選挙に行く」、「地元で買い物をする」、「リサイクルする」を実践している人が多い。

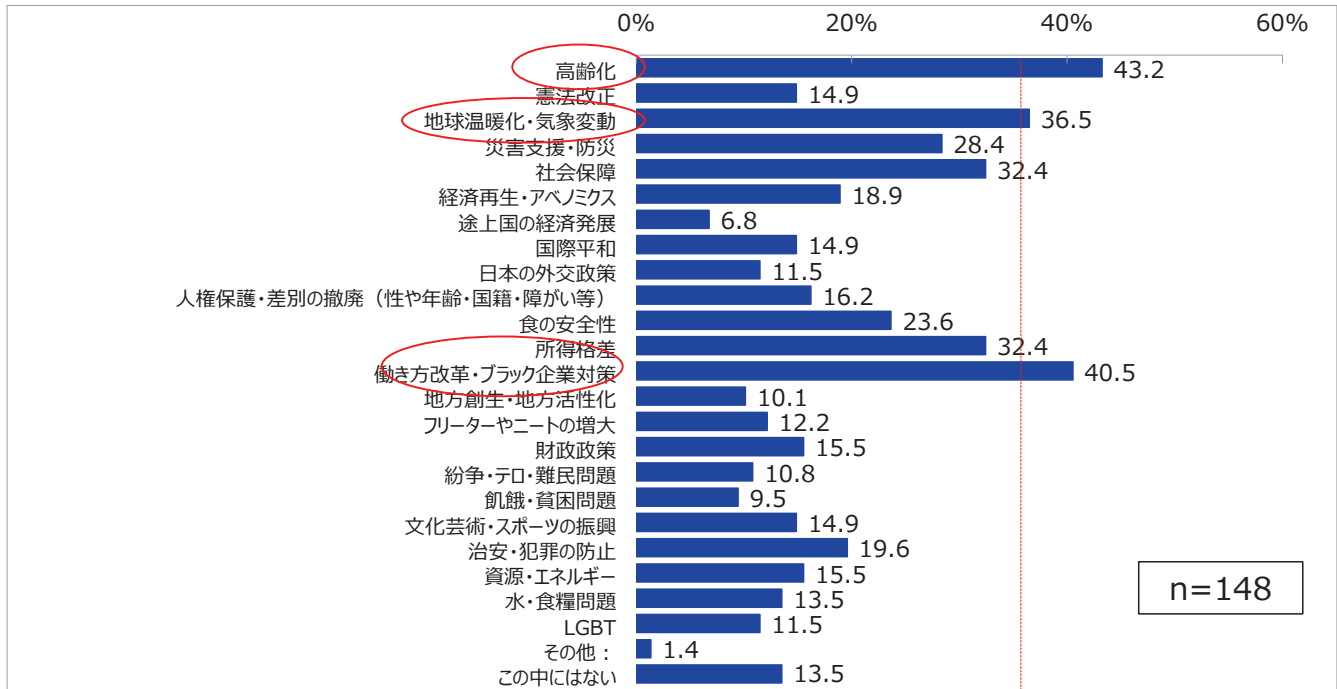


(1) 一般府民向け調査 ② 18歳~29歳

◆関心のある社会課題・時事問題

○社会課題として、「高齢化」、「地球温暖化・気象変動」、「働き方改革・ブラック企業対策」に対する関心が高い。

Qあなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

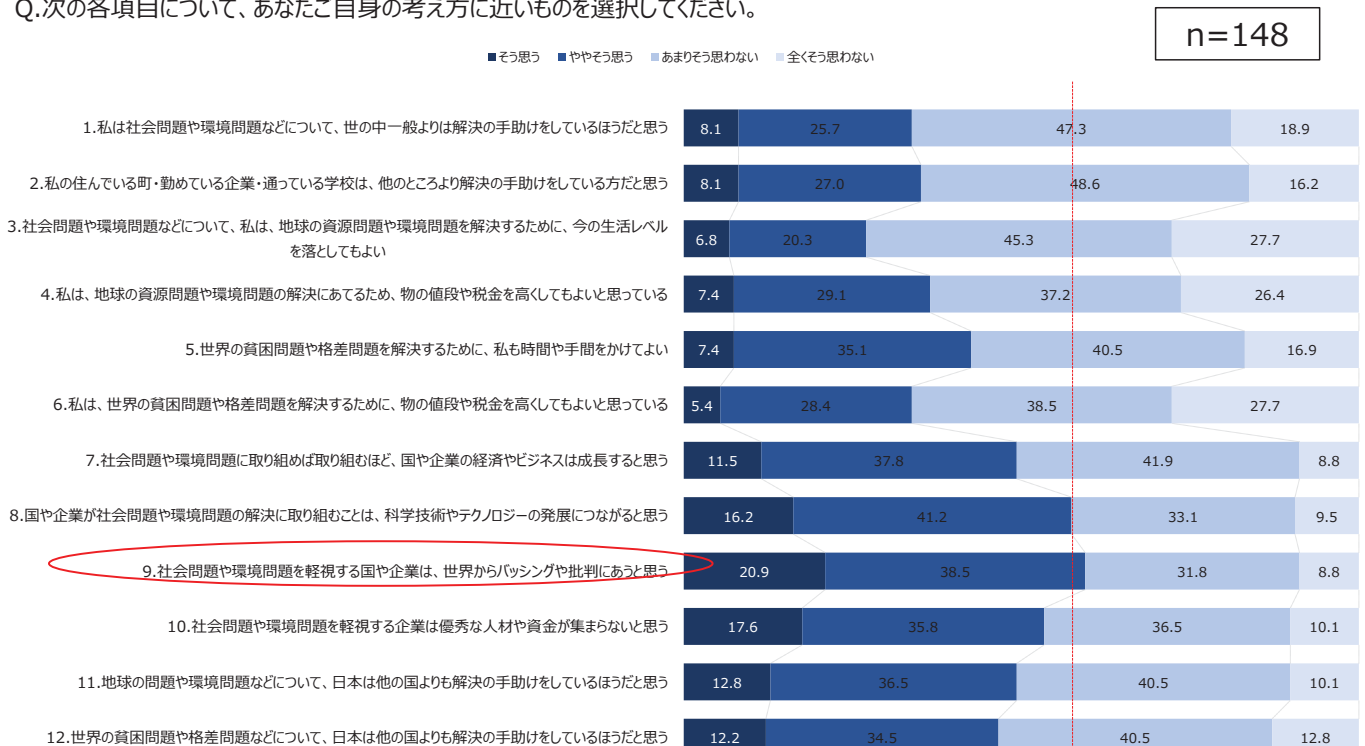


(1) 一般府民向け調査 ② 18歳~29歳

◆社会問題、環境問題に関する認識

○「社会問題や環境問題を軽視する国や企業は、世界からバッシングや批判にあう」と考える人が多い。

Q.次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。



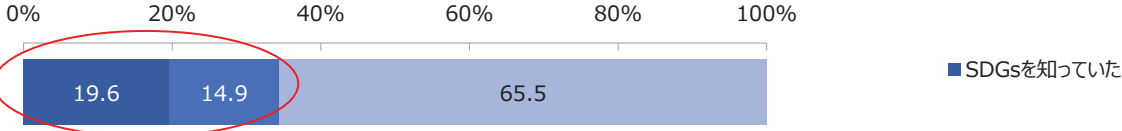
(1) 一般府民向け調査 ② 18歳~29歳

◆SDGsの認知度

- SDGsの認知度は34.5%。
- SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。
- SDGsを知ったきっかけとして、「職場・学校で聞いた」、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌」が多い。

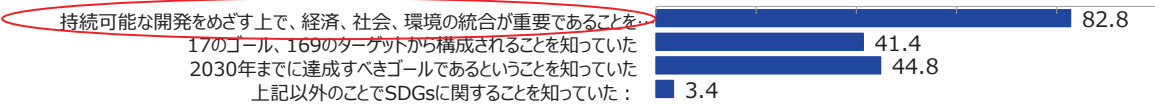
Q.あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

n=148



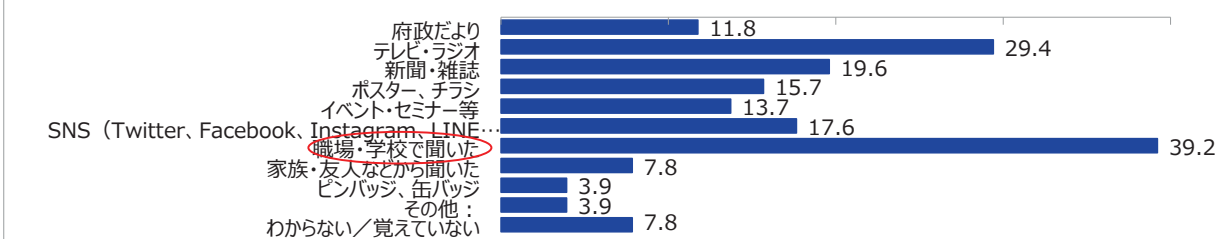
Q.（前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします）あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

0% 20% 40% 60% 80% 100%



Q. あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

0% 10% 20% 30% 40%



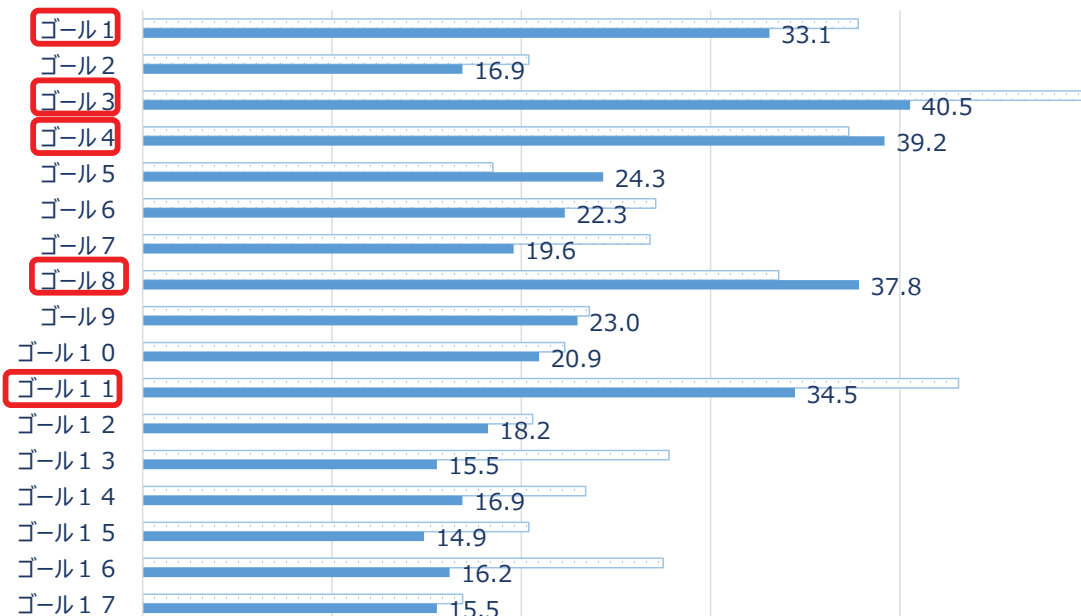
(1) 一般府民向け調査 ② 18歳~29歳

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

- 関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール3（健康）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0



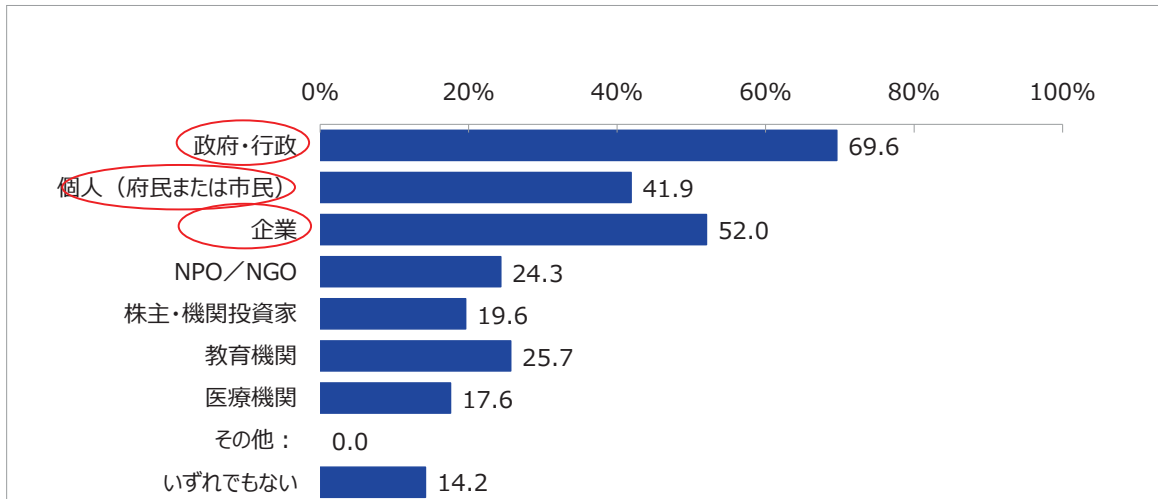
n=148

□全体 ■18~29才

(1) 一般府民向け調査 ② 18歳~29歳

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
○「政府・行政」、「企業」、「個人」の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

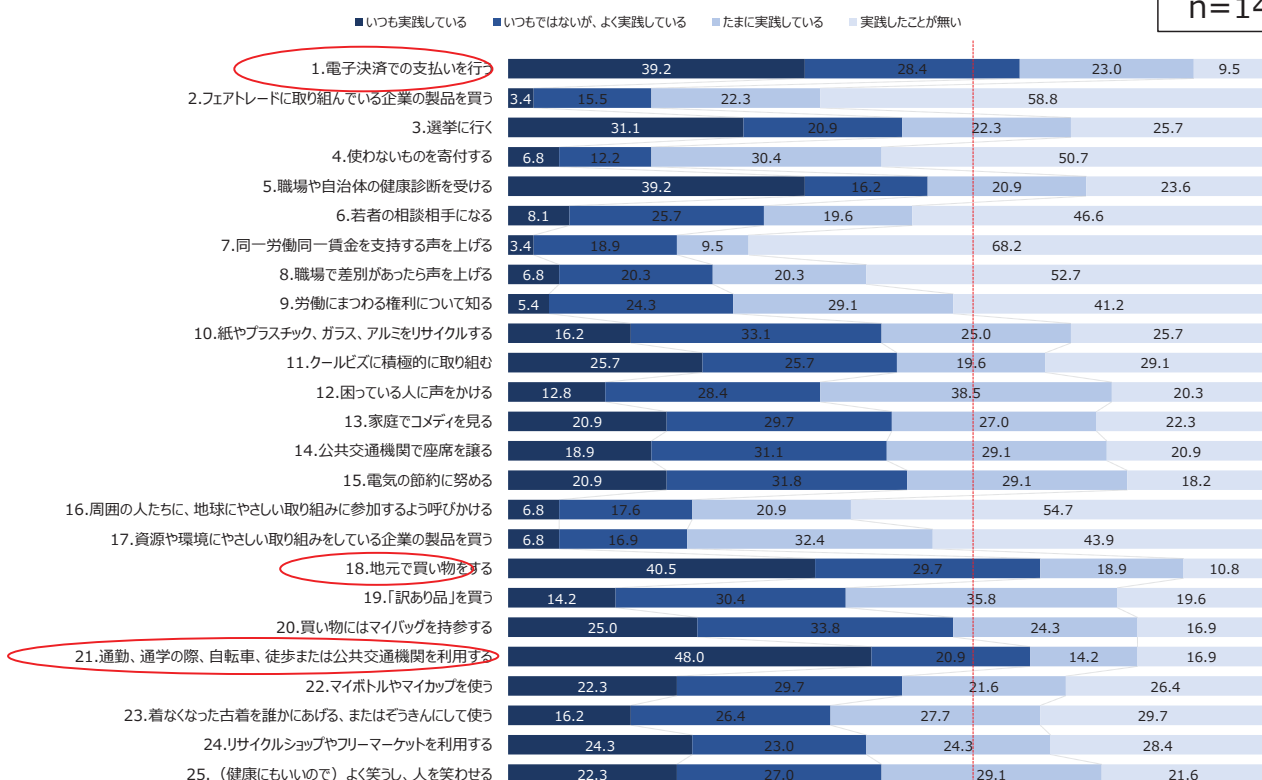


n=148

(1) 一般府民向け調査 ② 18歳~29歳

◆日常生活で実践していること

○「地元で買い物をする」、「通勤・通学の際、自転車、徒歩または公共交通機関を利用」、「電子決済での支払いを行う」、をよく実践している人が多い。



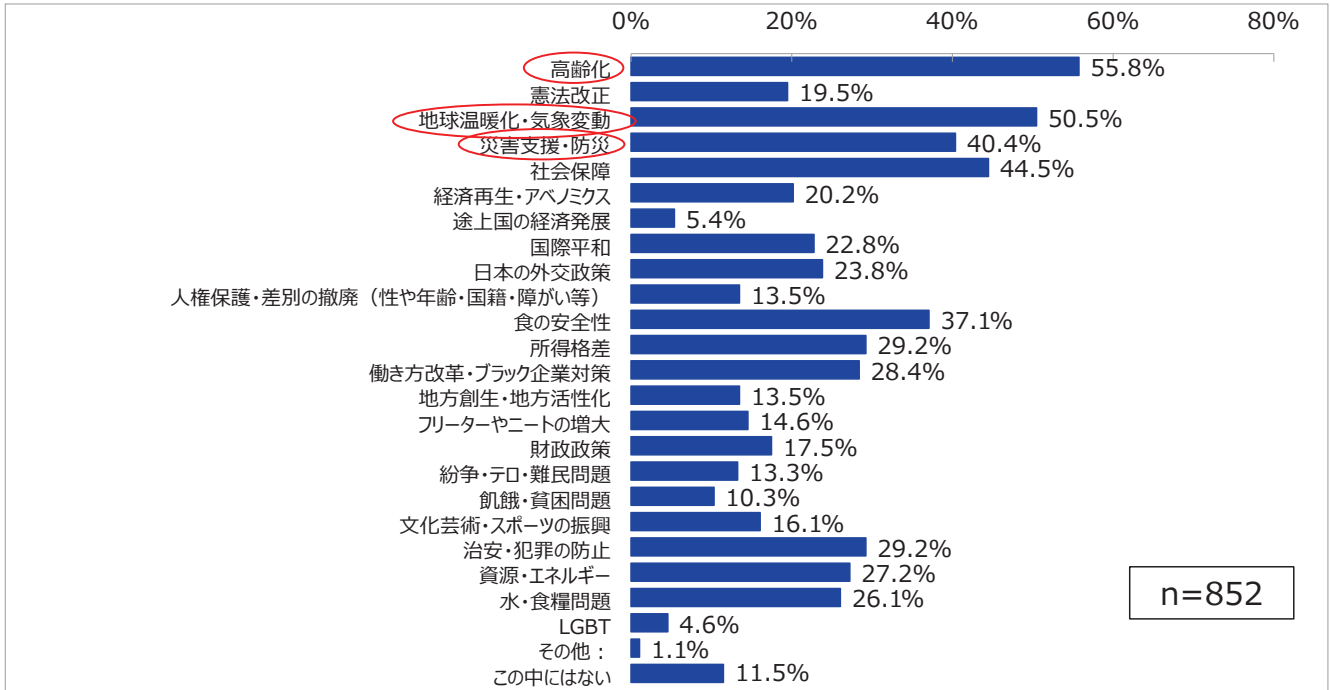
n=148

(1) 一般府民向け調査 ③ 30歳以上

◆ 関心のある社会課題・時事問題

○ 社会課題として、「高齢化」、「地球温暖化・気象変動」、「働き方改革・ブラック企業対策」に対する関心が高い。

Q あなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

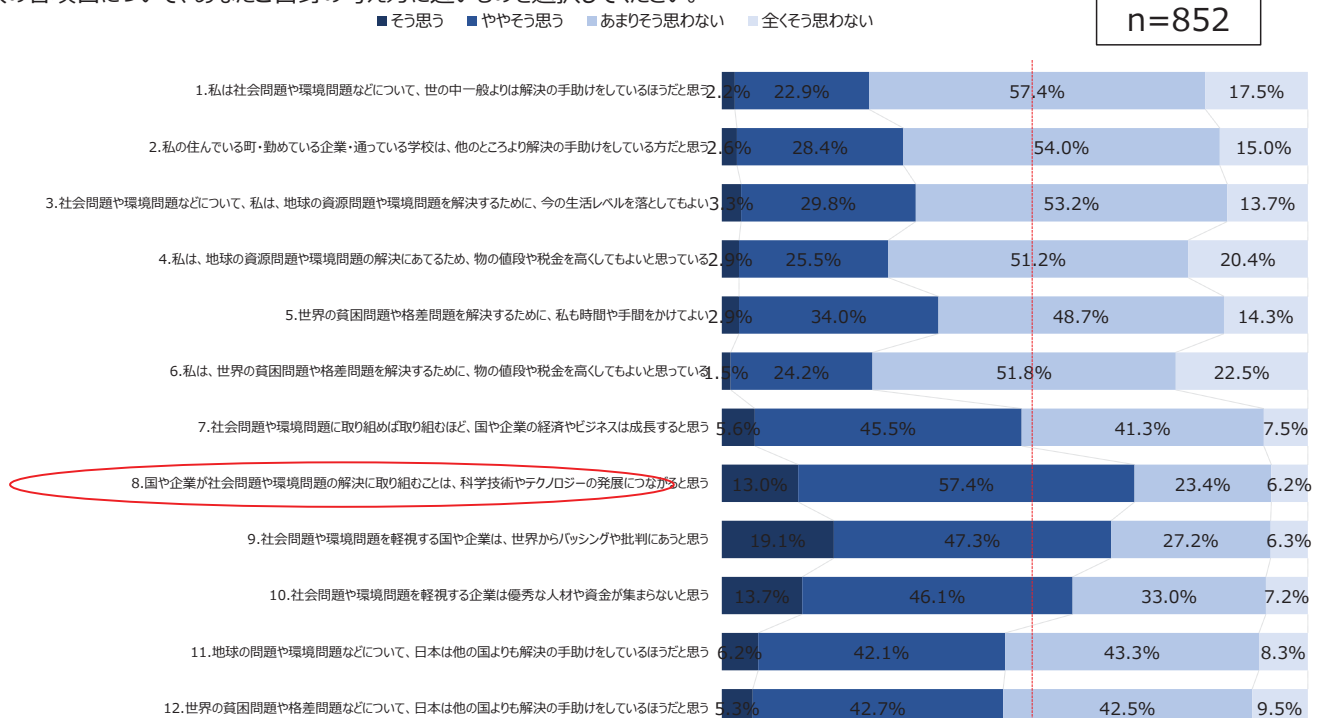


(1) 一般府民向け調査 ③ 30歳以上

◆ 社会問題、環境問題に関する認識

○ 「国や企業が社会問題や環境問題の解決に取り組むことは、科学技術やテクノロジーの発展につながる」と考える人が多い。

Q. 次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。



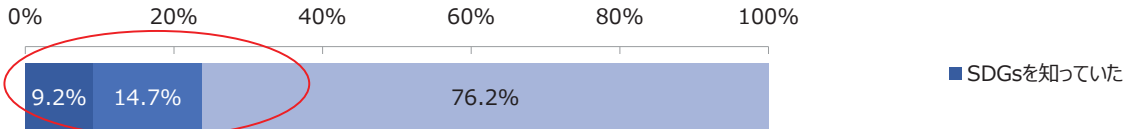
(1) 一般府民向け調査 ③ 30歳以上

◆SDGsの認知度

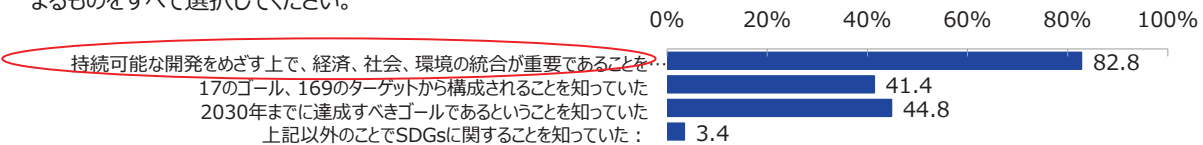
- SDGsの認知度は23.9%。
- SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。
- SDGsを知ったきっかけとして、「新聞・雑誌」、「テレビ・ラジオ」、「職場・学校で聞いた」、が多い。

Q.あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

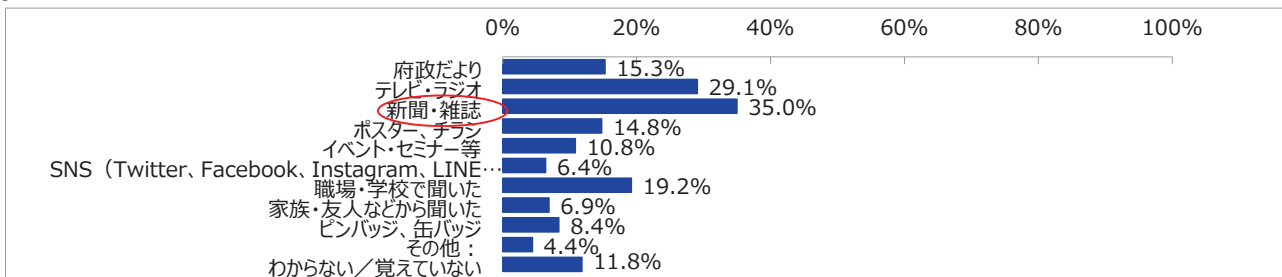
n=852



Q.（前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします）あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



Q. あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

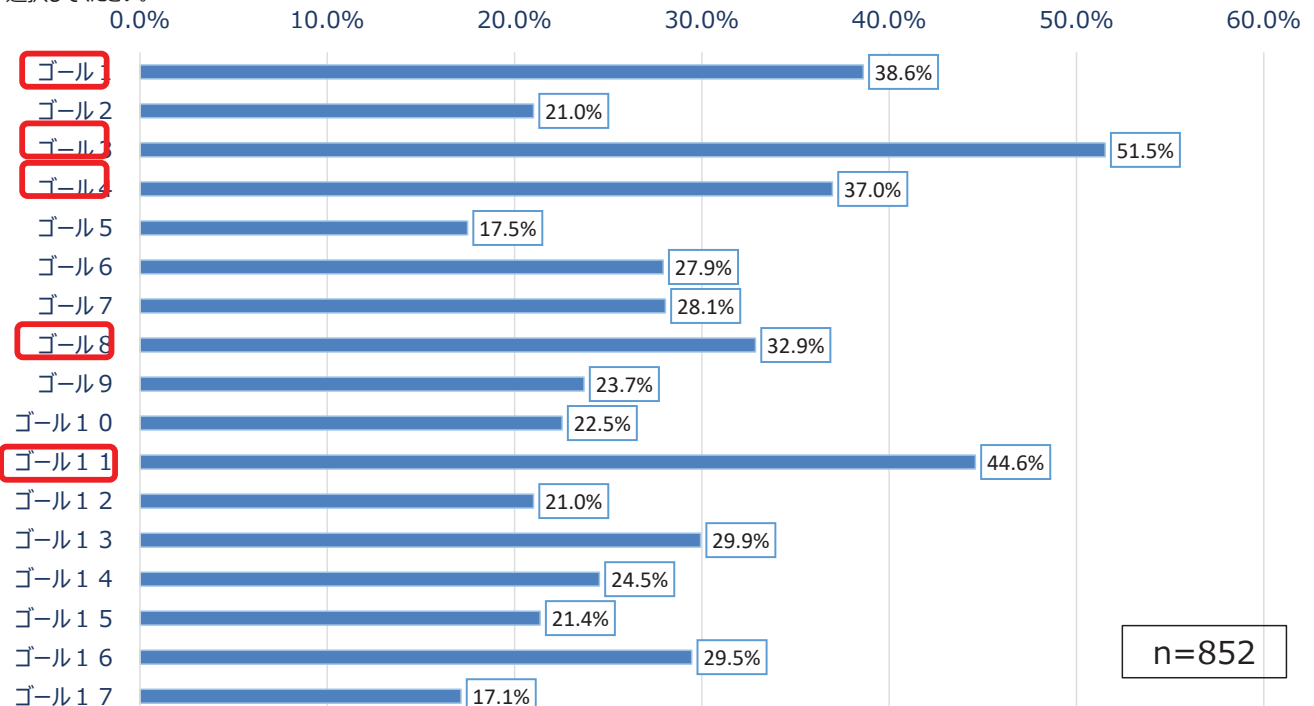


(1) 一般府民向け調査 ③ 30歳以上

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

- 関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

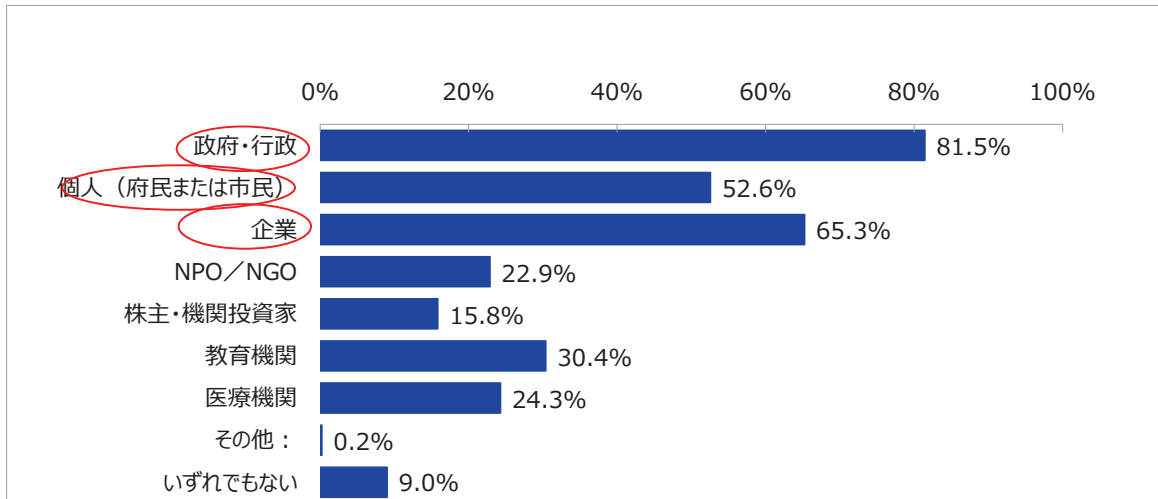


n=852

(1) 一般府民向け調査 ③ 30歳以上

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
○「政府・行政」、「企業」、「個人」の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

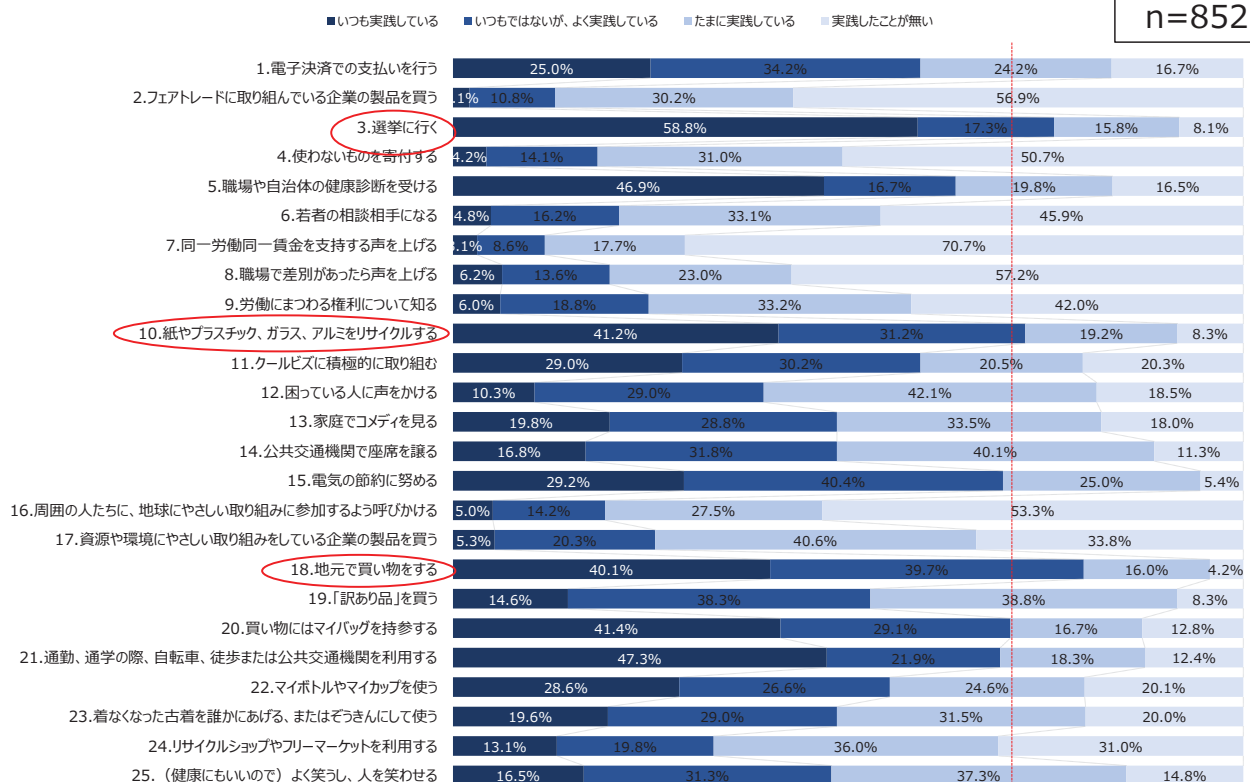


n=852

(1) 一般府民向け調査 ③ 30歳以上

◆日常生活で実践していること

○「地元で買い物をする」、「選挙に行く」、「紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルする」、をよく実践している人が多い。



n=852

(2) 若者（学生）向け調査

<実施概要>

(府内4大学の授業等で実施)

- 対象：学生273人（18歳～30歳）
- 実施期間：10月21日～11月19日

◆主な調査事項

- ① 関心のある社会課題、時事問題
- ② 社会問題、環境問題に関する認識
- ③ SDGsの認知度
- ④ 大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール
- ⑤ SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
- ⑥ 日常生活で実践していること

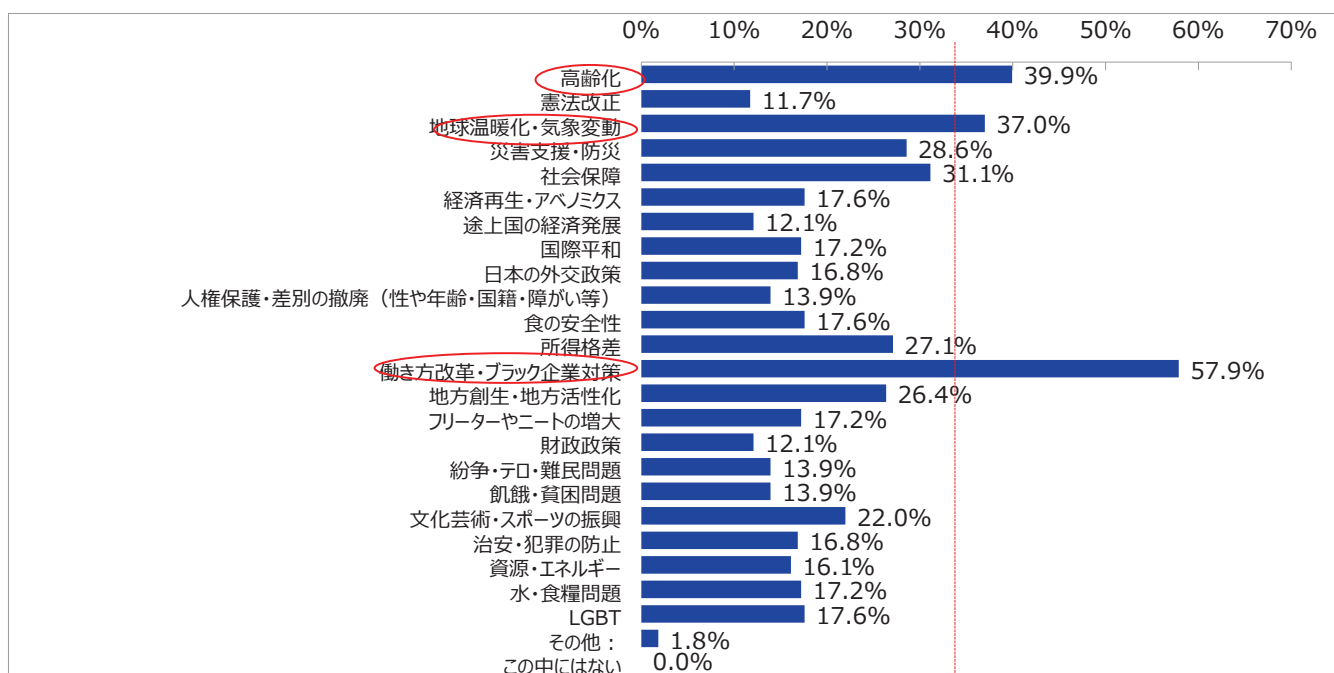
(2) 若者（学生）向け調査 ①結果概要

◆関心のある社会課題、時事問題

○社会課題として、「働き方改革・ブラック企業対策」、「地球温暖化・気象変動」、「高齢化」に対する関心が高い。

Qあなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

n=273



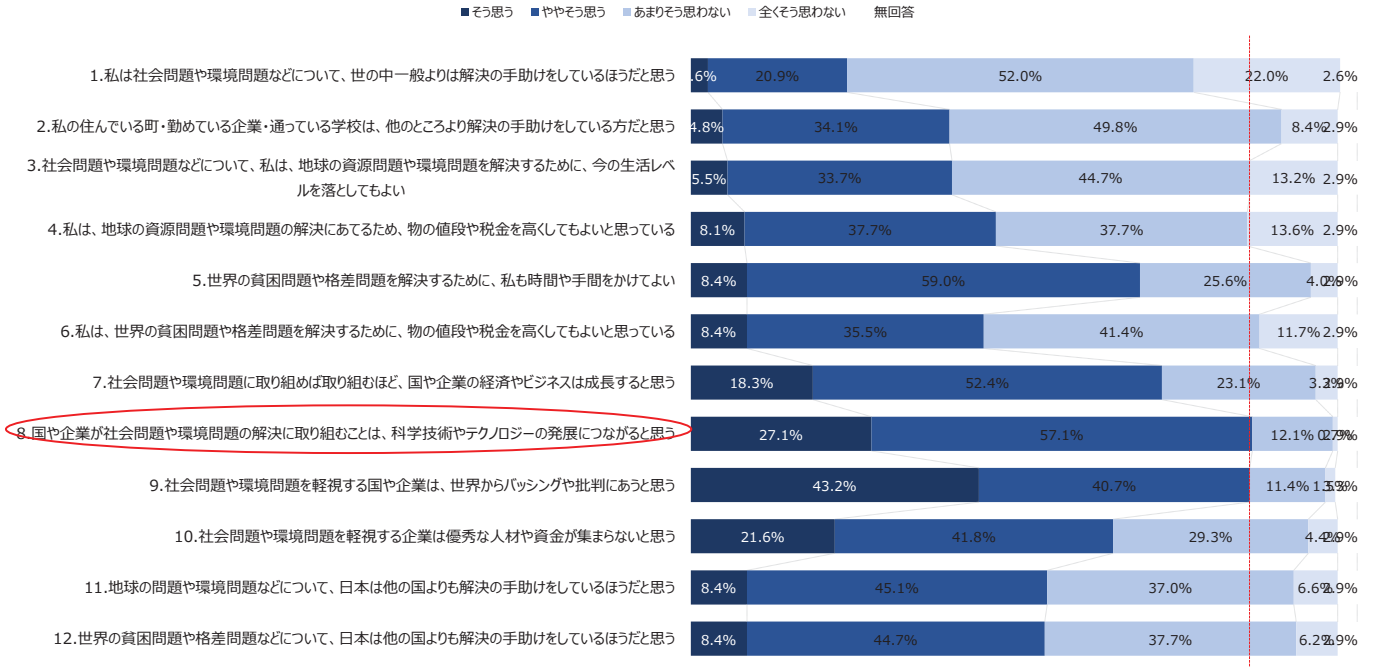
(2) 若者（学生）向け調査 ①結果概要

◆社会問題、環境問題に関する認識

○「国や企業が社会問題や環境問題の解決に取り組むことは、科学技術やテクノロジーの発展につながる」と考える人が多い。

Q. 次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。

n=273



(2) 若者（学生）向け調査 ①結果概要

◆SDGsの認知度

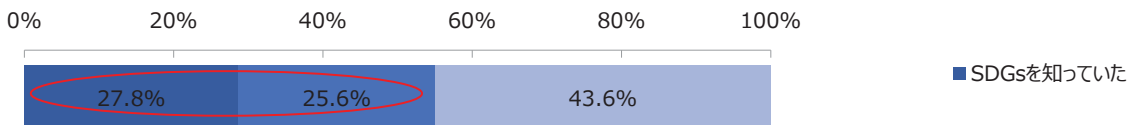
○SDGsの認知度は53.4%。

○SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。

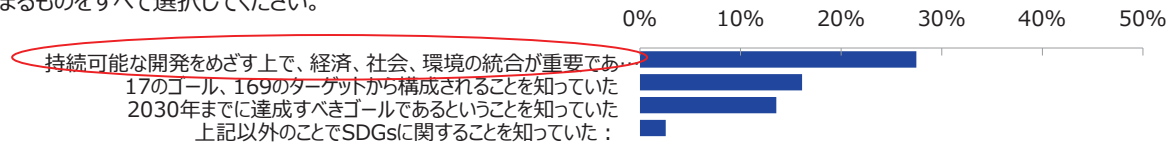
○SDGsを知ったきっかけとして、「わからない/覚えてない」、「家族・友人などから聞いた」、「職場・学校で聞いた」が多い。

Q. あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

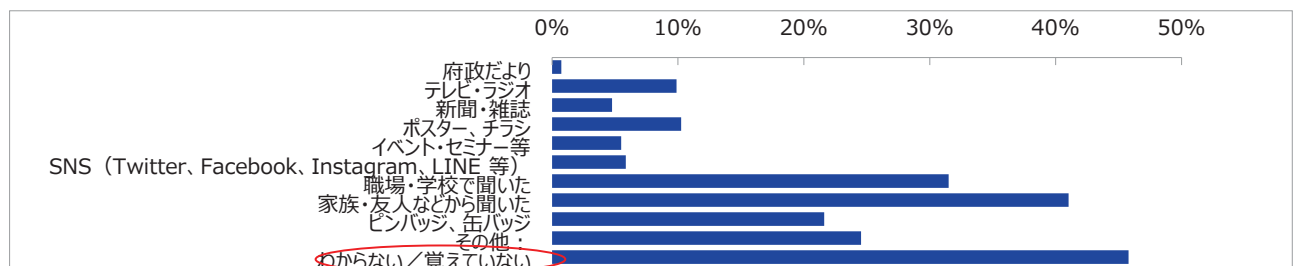
n=273



Q. (前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします) あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



Q. あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

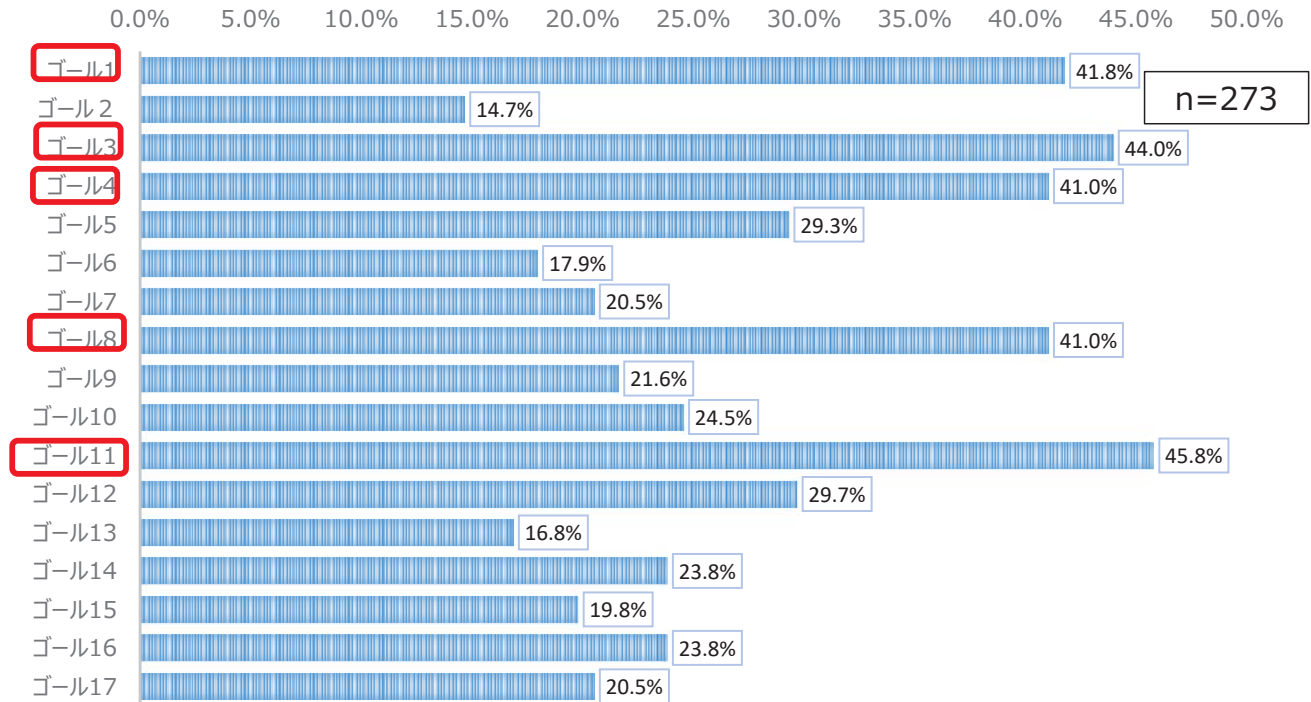


(2) 若者（学生）向け調査 ①結果概要

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

○「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール3（健康）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

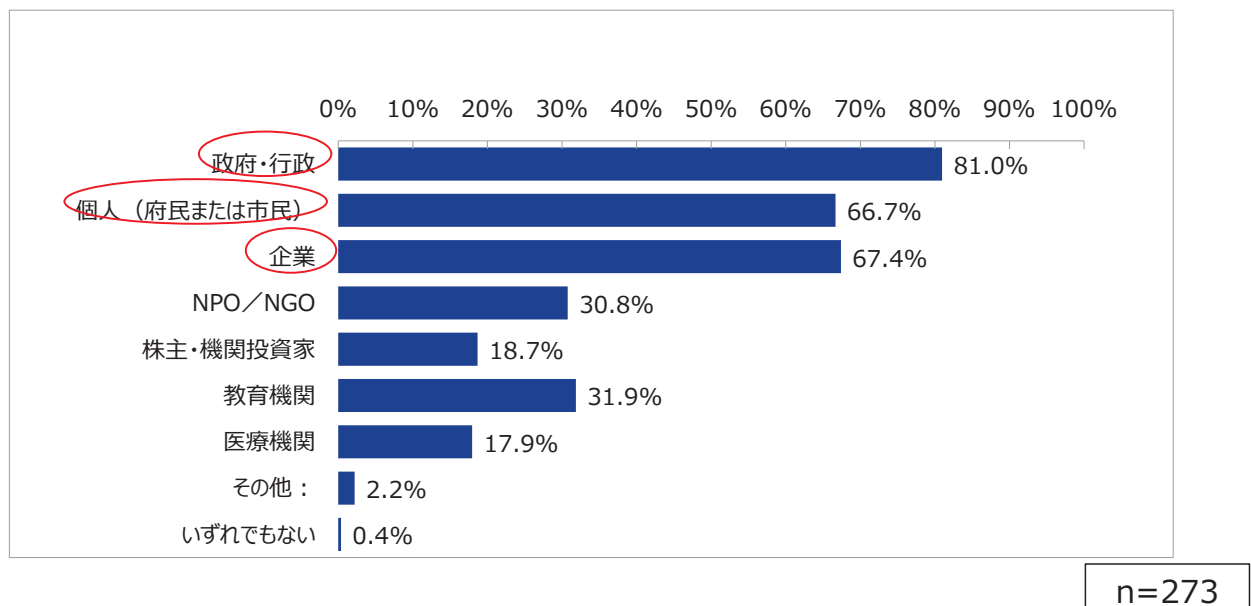


(2) 若者（学生）向け調査 ①結果概要

◆SDGsの達成や、社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー

○「政府・行政」、「企業」、「個人」の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

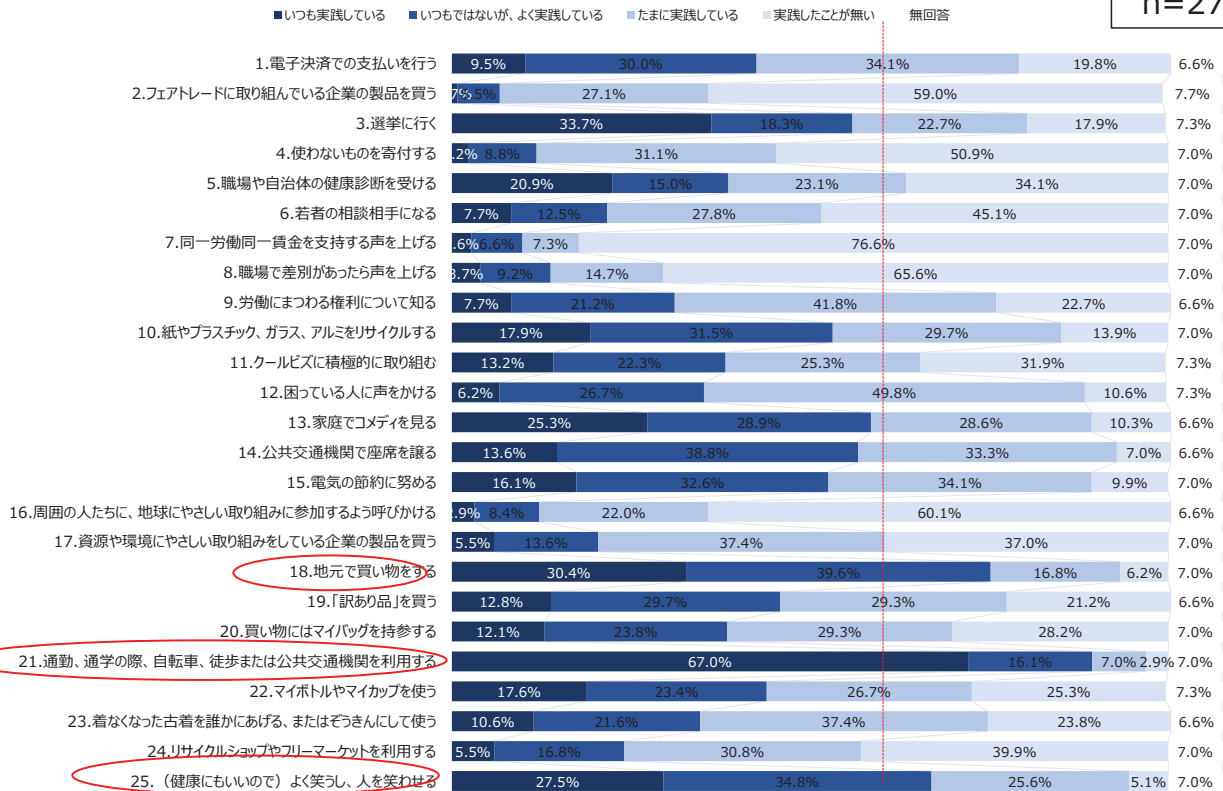


(2) 若者（学生）向け調査 ①結果概要

◆日常生活で実践していること

○「通勤・通学の際、自転車、徒歩または公共交通機関を利用」、「地元で買い物をする」、「よく笑うし、人を笑わせる」をよく実践している人が多い。

n=273



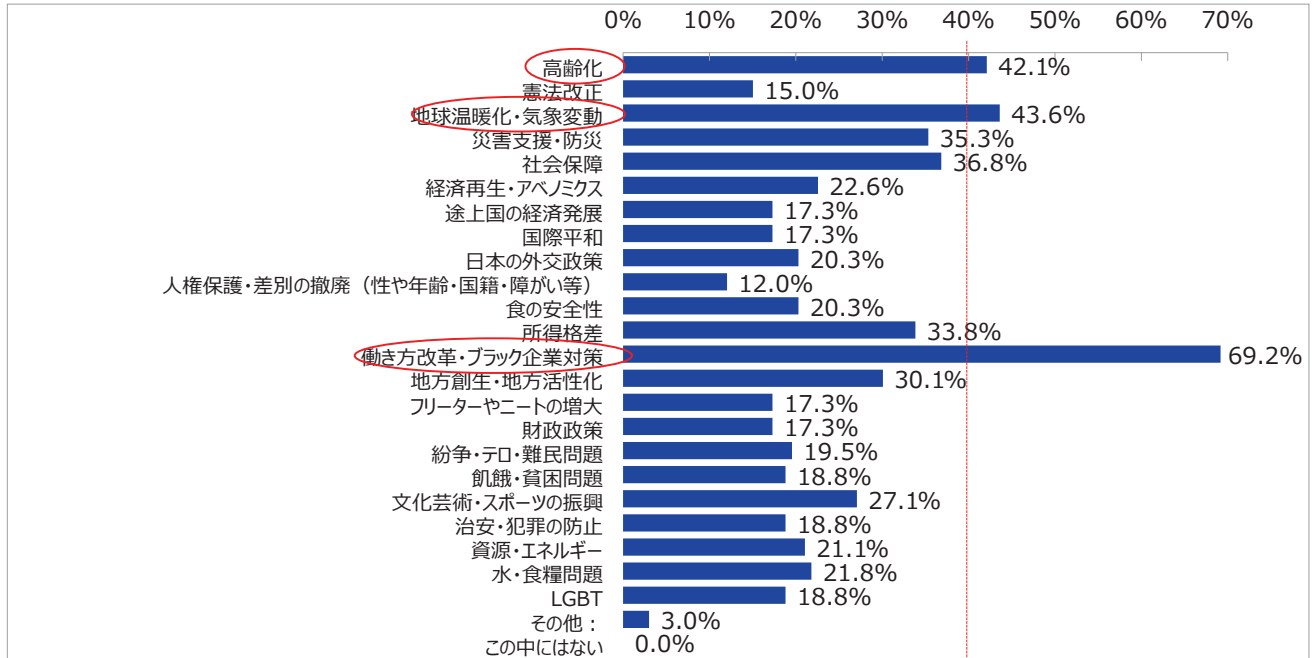
(2) 若者（学生）向け調査 ②大学別の傾向【大学A】

◆ 関心のある社会課題、時事問題

○ 社会課題として、「働き方改革・ブラック企業対策」、「地球温暖化・気象変動」、「高齢化」に対する関心が高い。

n=163

Q.あなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



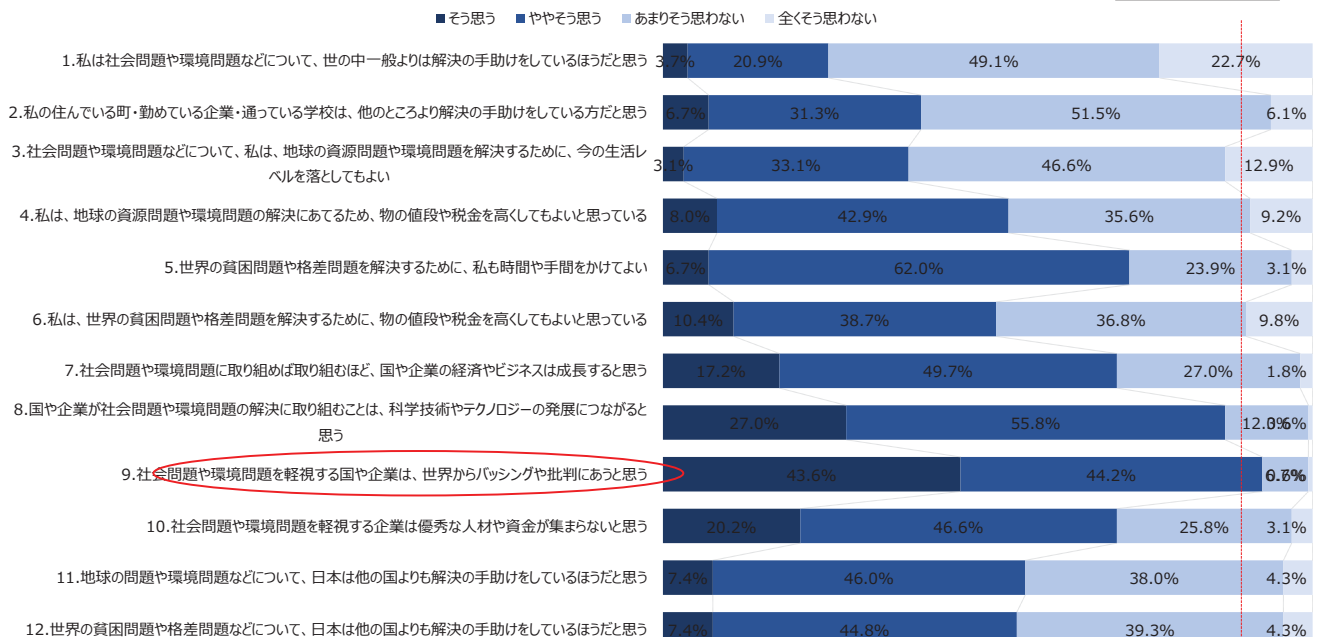
(2) 若者（学生）向け調査 ②大学別の傾向【大学A】

◆ 社会問題、環境問題に関する認識

○ 「社会問題や環境問題を軽視する国や企業や、世界からバッシングや批判に合う」と考える人が多い。

n=163

Q.次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。



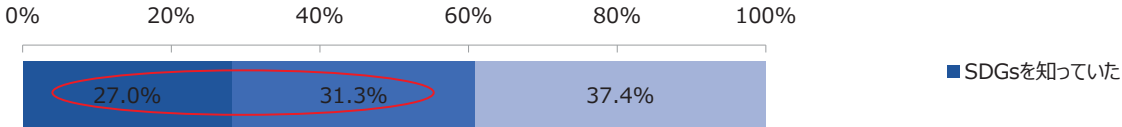
(2) 若者（学生）向け調査 ②大学別の傾向【大学A】

◆SDGsの認知度

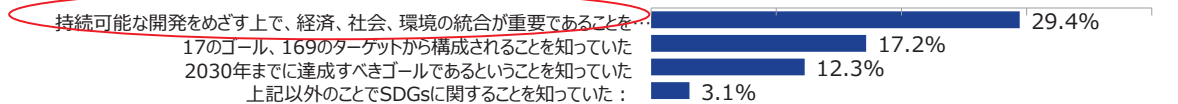
- SDGsの認知度は58.3%。
- SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。
- SDGsを知ったきっかけとして、「わからない/覚えてない」が多い。

Q.あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

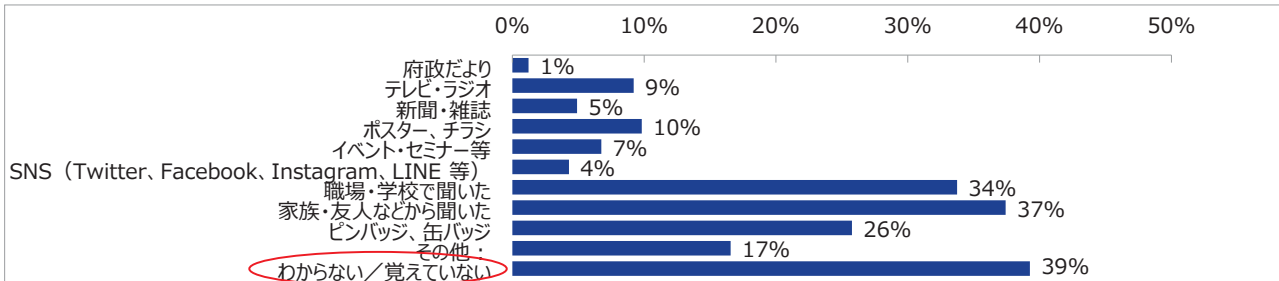
n=163



Q.（前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします）あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



Q.あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

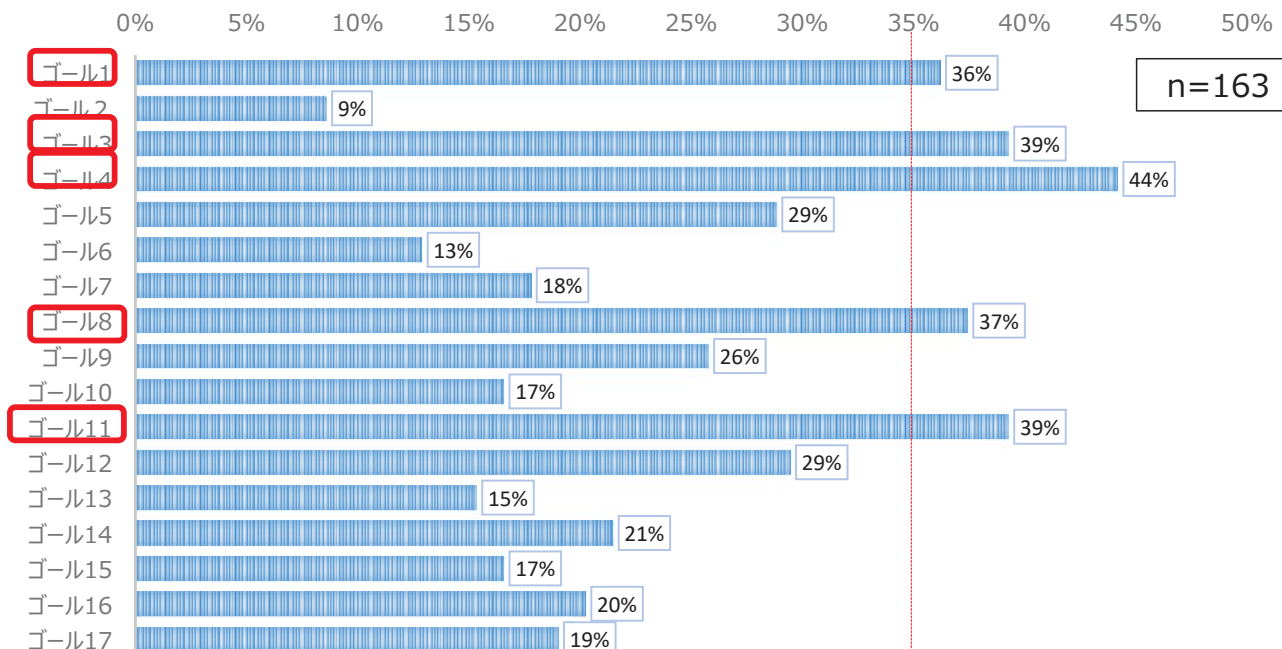


(2) 若者（学生）向け調査 ②大学別の傾向【大学A】

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

- 関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール4（教育）」、「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール1（貧困）」が多い。

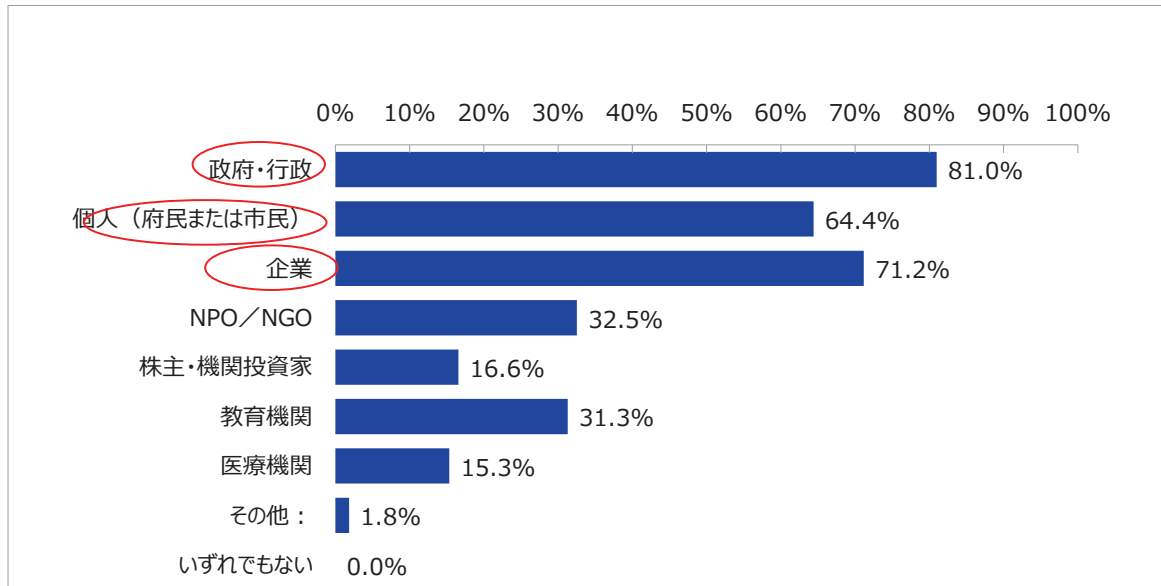
Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



(2) 若者（学生）向け調査 ②大学別の傾向[大学A]

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
○「政府・行政」、「企業」、「個人」の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

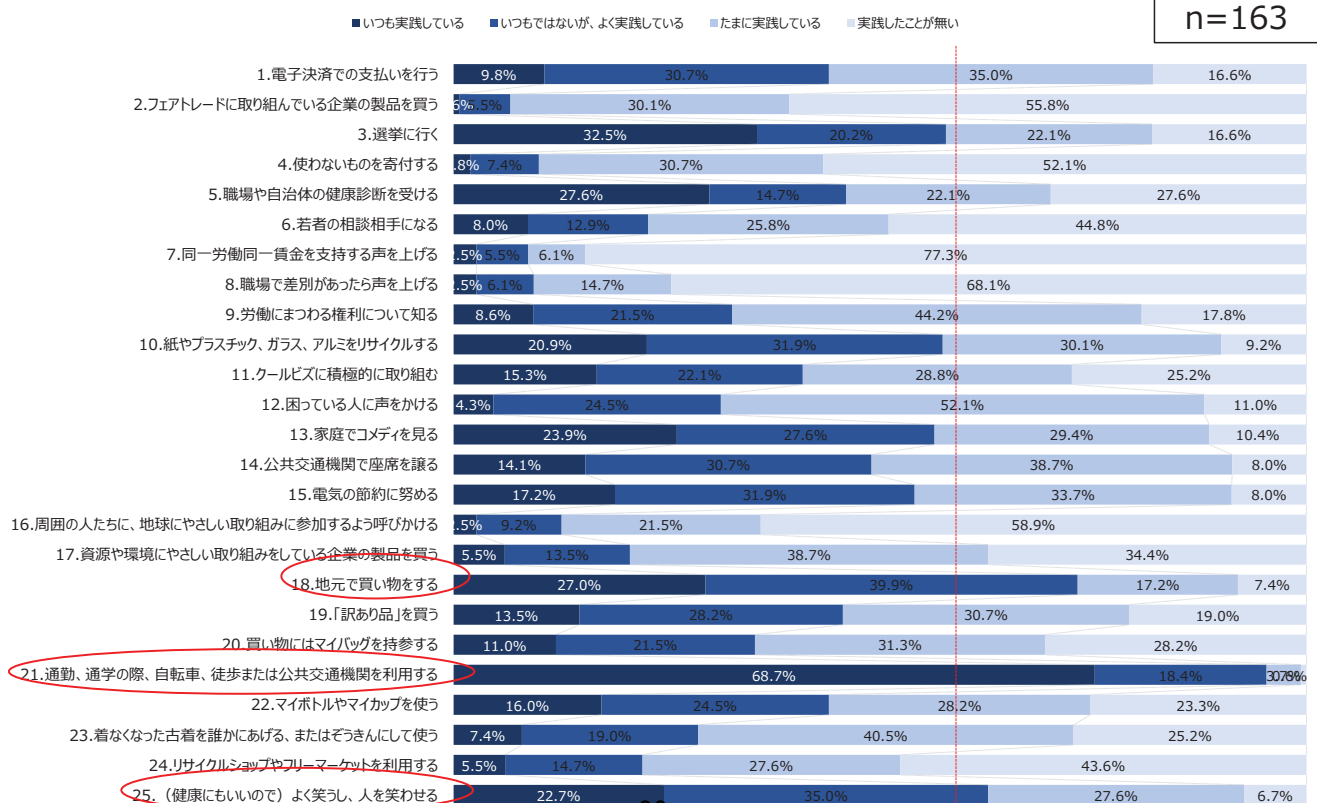


n=163

(2) 若者（学生）向け調査 ②大学別の傾向[大学A]

◆日常生活で実践していること

○「通勤・通学の際、自転車、徒歩または公共交通機関を利用」、「地元で買い物をする」、「よく笑うし、人を笑わせる」をよく実践している人が多い。



n=163

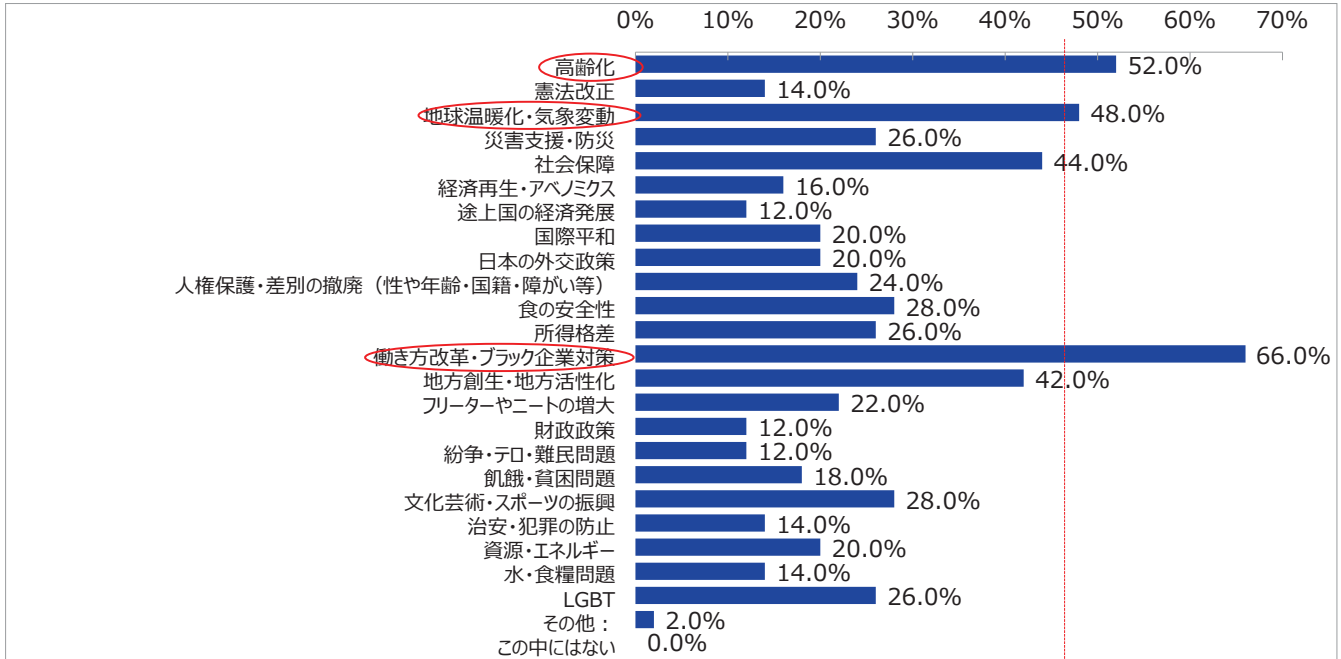
(2) 若者（学生）向け調査 ③大学別の傾向【大学B】

◆関心のある社会課題、時事問題

○社会課題として、「働き方改革・ブラック企業対策」、「高齢化」、「地球温暖化・気象変動」に対する関心が高い。

Qあなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

n=50



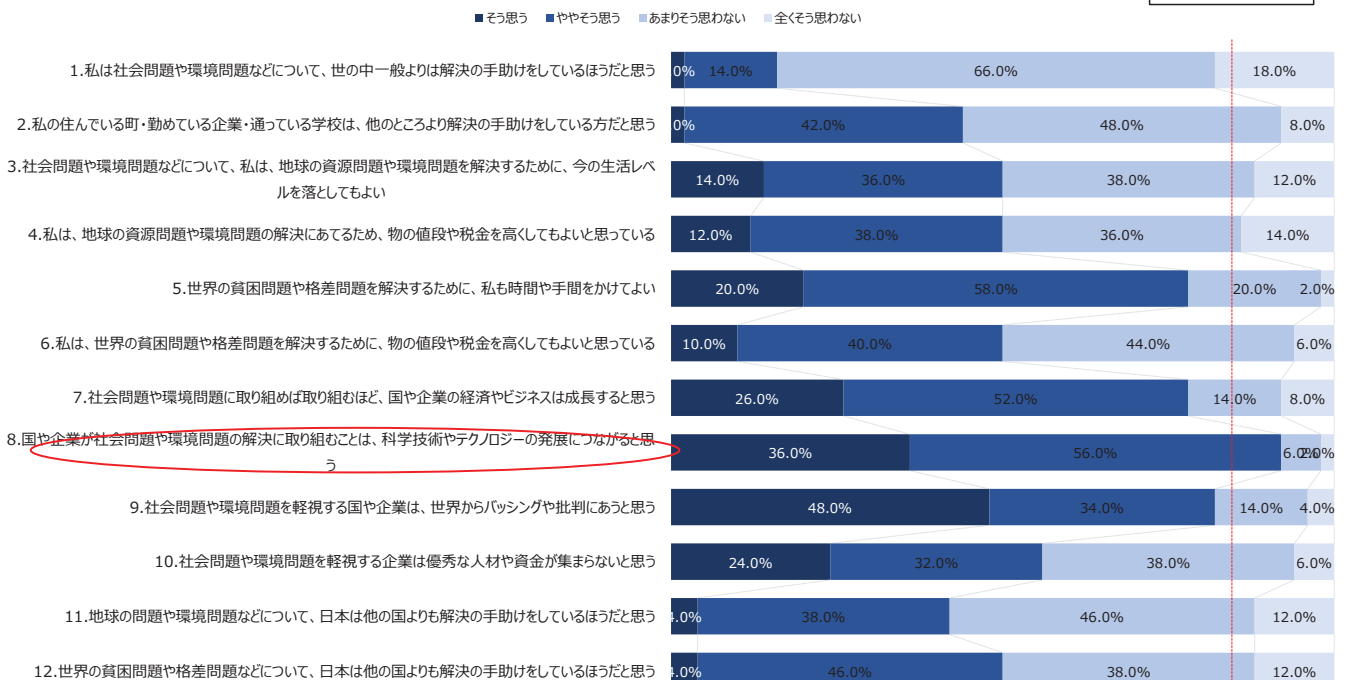
(2) 若者（学生）向け調査 ③大学別の傾向【大学B】

◆社会問題、環境問題に関する認識

○「国や企業が社会問題や環境問題の解決に取り組むことは、科学技術やテクノロジーの発展につながる」と考える人が多い。

Q.次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。

n=50



(2) 若者（学生）向け調査 ③大学別の傾向【大学B】

◆SDGsの認知度

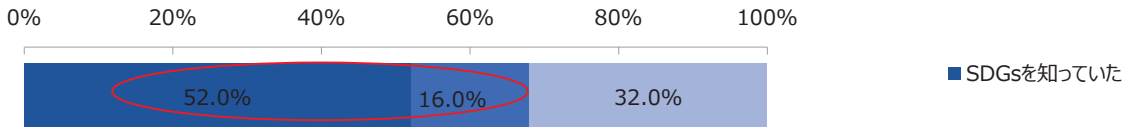
○SDGsの認知度は68.0%。

○SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。

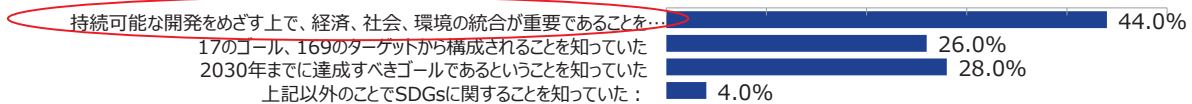
○SDGsを知ったきっかけとして、「職場・学校で聞いた」、「ポスター・チラシ」が多い。

Q.あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

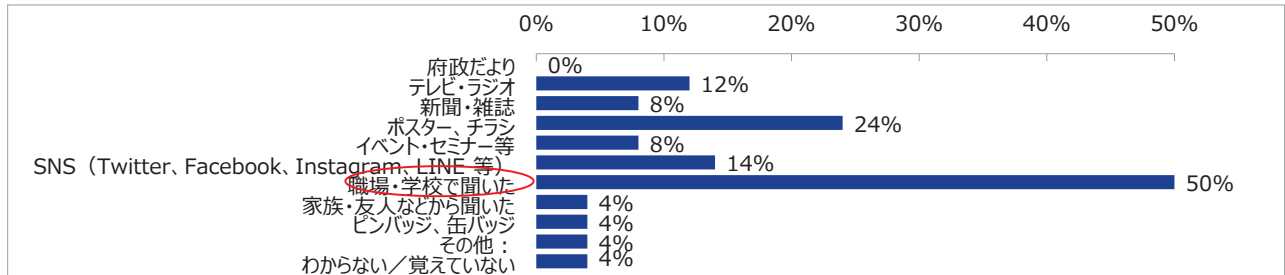
n=50



Q.（前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします）あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



Q.あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

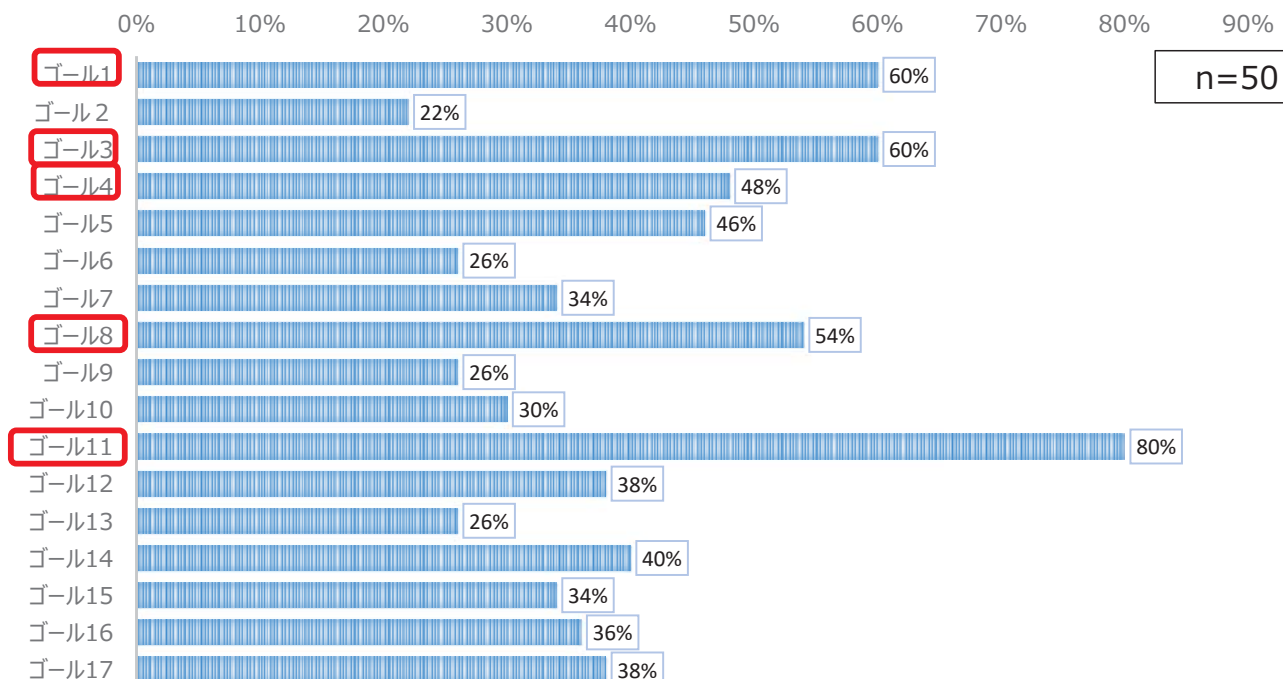


(2) 若者（学生）向け調査 ③大学別の傾向【大学B】

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

○関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール3（健康）」、「ゴール1（貧困）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール4（教育）」が多い。

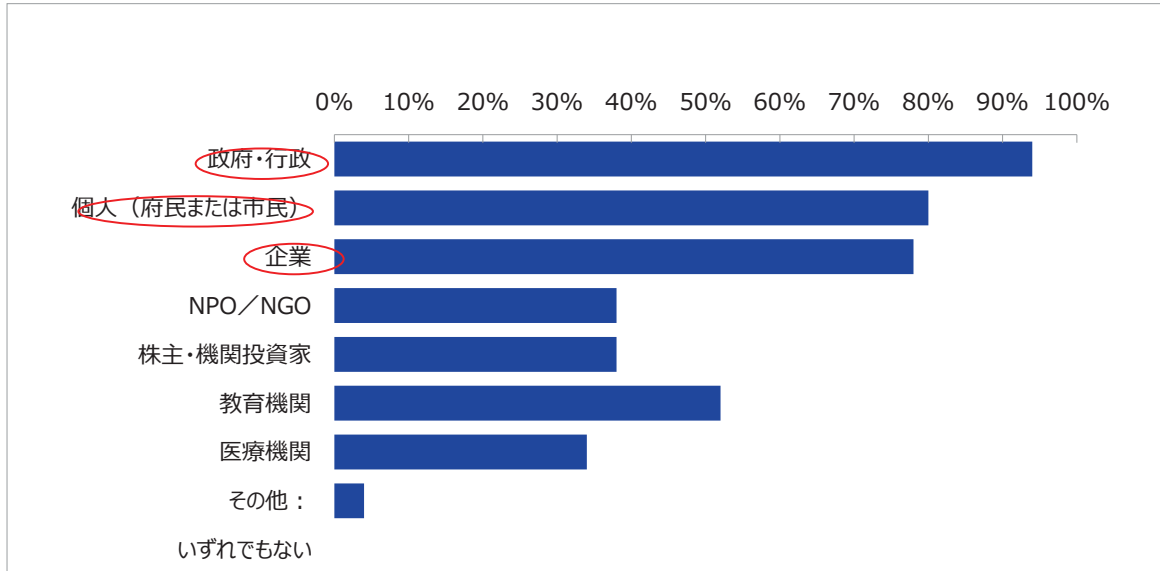
Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



(2) 若者（学生）向け調査 ③大学別の傾向【大学B】

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
○「政府・行政」、「個人」、「企業」、の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。



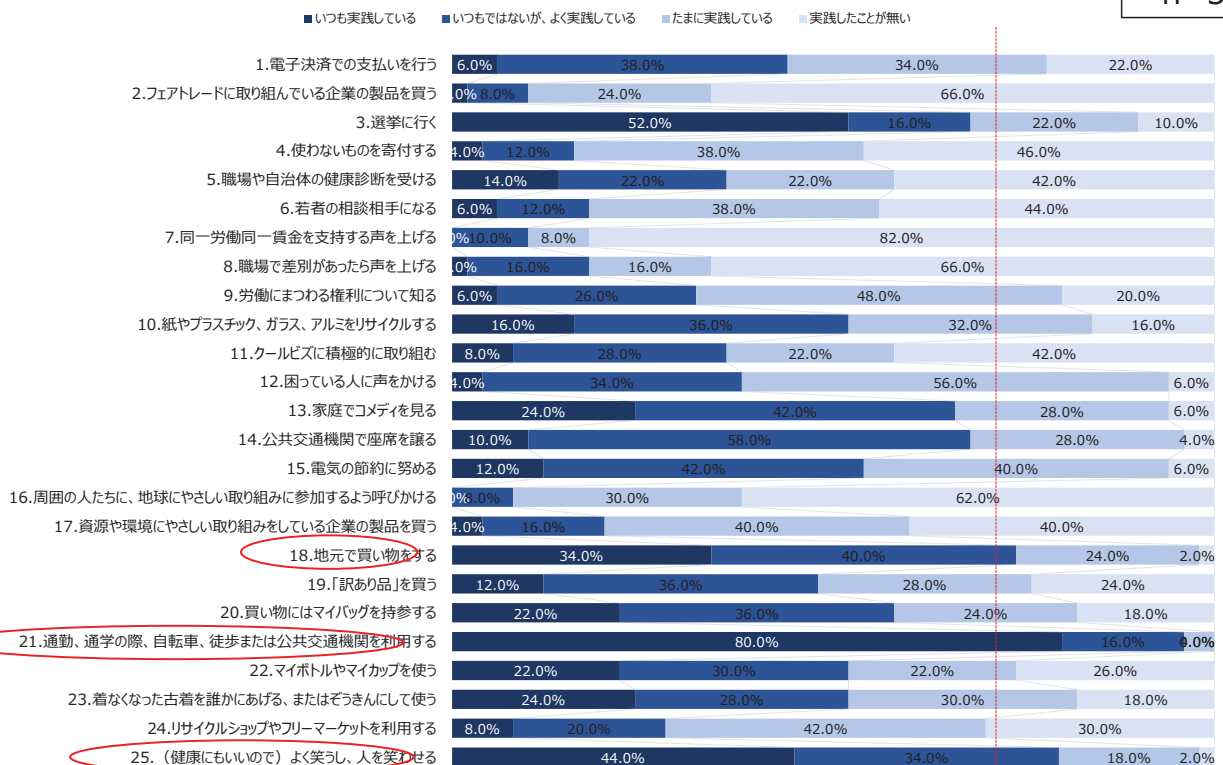
n=50

(2) 若者（学生）向け調査 ③大学別の傾向【大学B】

◆日常生活で実践していること

○「通勤・通学の際、自転車、徒歩または公共交通機関を利用」、「よく笑うし、人を笑わせる」、「地元で買い物をする」をよく実践している人が多い。

n=50



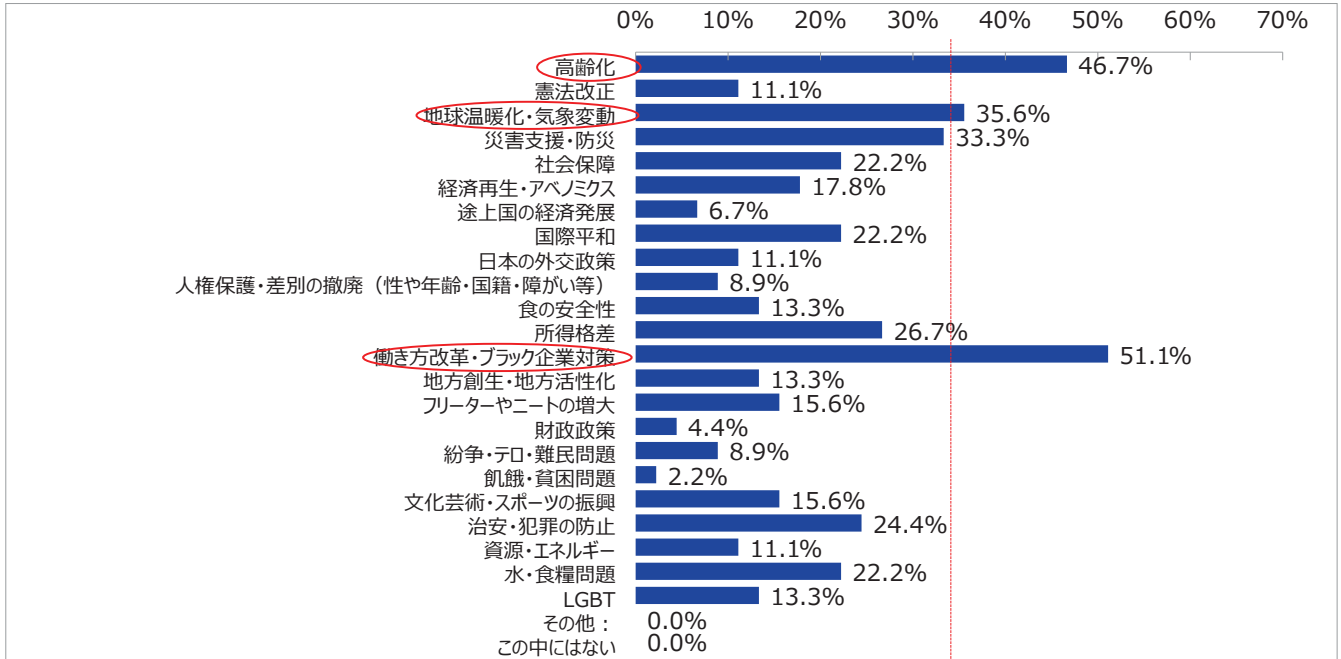
(2) 若者（学生）向け調査 ④大学別の傾向【大学C】

◆関心のある社会課題、時事問題

○社会課題として、「働き方改革・ブラック企業対策」、「高齢化」、「地球温暖化・気象変動」に対する関心が高い。

Qあなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

n=45



(2) 若者（学生）向け調査 ④大学別の傾向【大学C】

◆社会問題、環境問題に関する認識

○「国や企業が社会問題や環境問題の解決に取り組むことは、科学技術やテクノロジーの発展につながる」と考える人が多い。

Q.次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。

n=45



(2) 若者（学生）向け調査 ④大学別の傾向【大学C】

◆SDGsの認知度

- SDGsの認知度は11.1%。
- SDGsを知ったきっかけとしては、「テレビ・ラジオ」が多い。

Q.あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

n=45

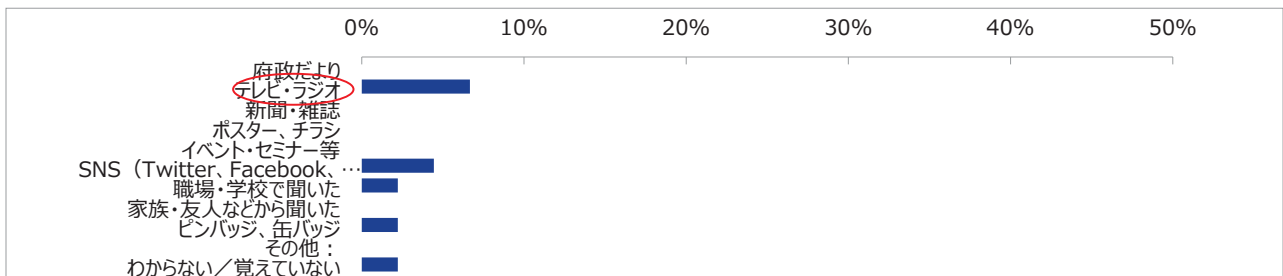


Q.（前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします）あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

0% 10% 20% 30% 40% 50%

- 持続可能な開発をめざす上で、経済、社会、環境の統合が重要で…
- 17のゴール、169のターゲットから構成されることを知っていた
- 2030年までに達成すべきゴールであるということを知っていた
- 上記以外のことでSDGsに関する知識を知っていた：

Q.あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



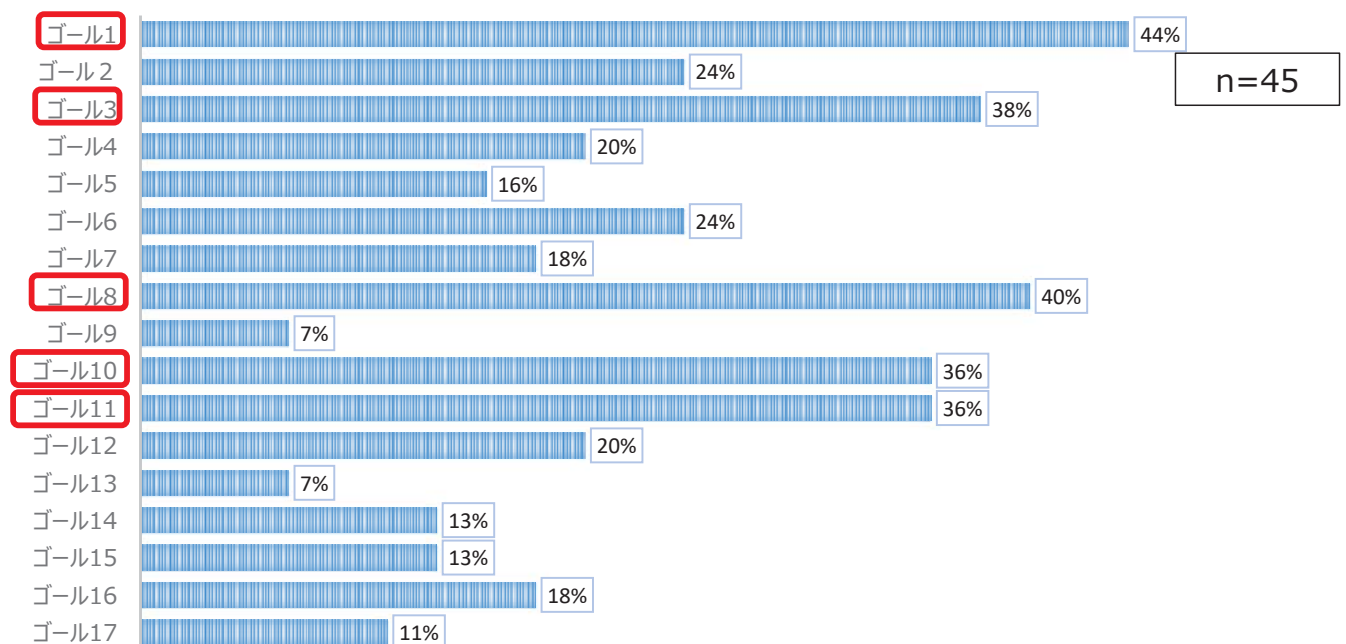
(2) 若者（学生）向け調査 ④大学別の傾向【大学C】

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

- 関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール1（貧困）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール3（健康）」、「ゴール10（不平等）」、「ゴール11（持続可能都市）」が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

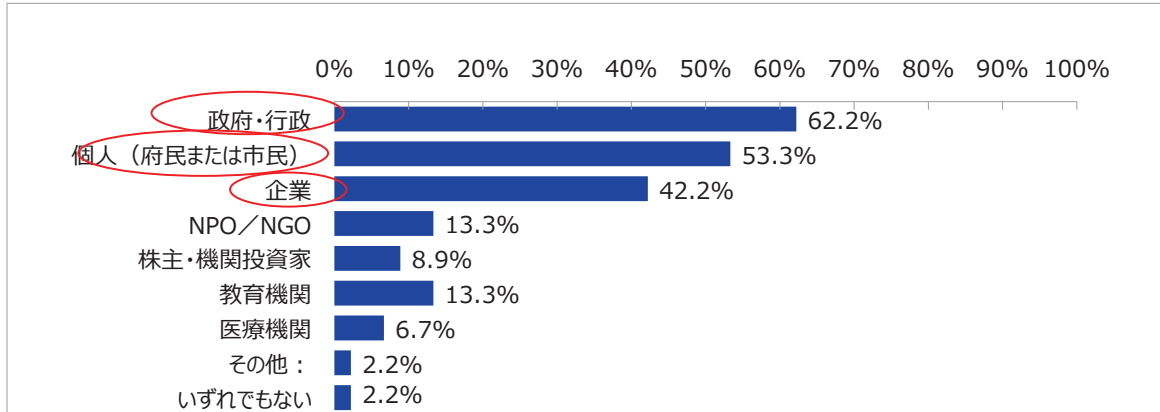
0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40% 45% 50%



(2) 若者（学生）向け調査 ④大学別の傾向[大学C]

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
○「政府・行政」、「個人」、「企業」、の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。

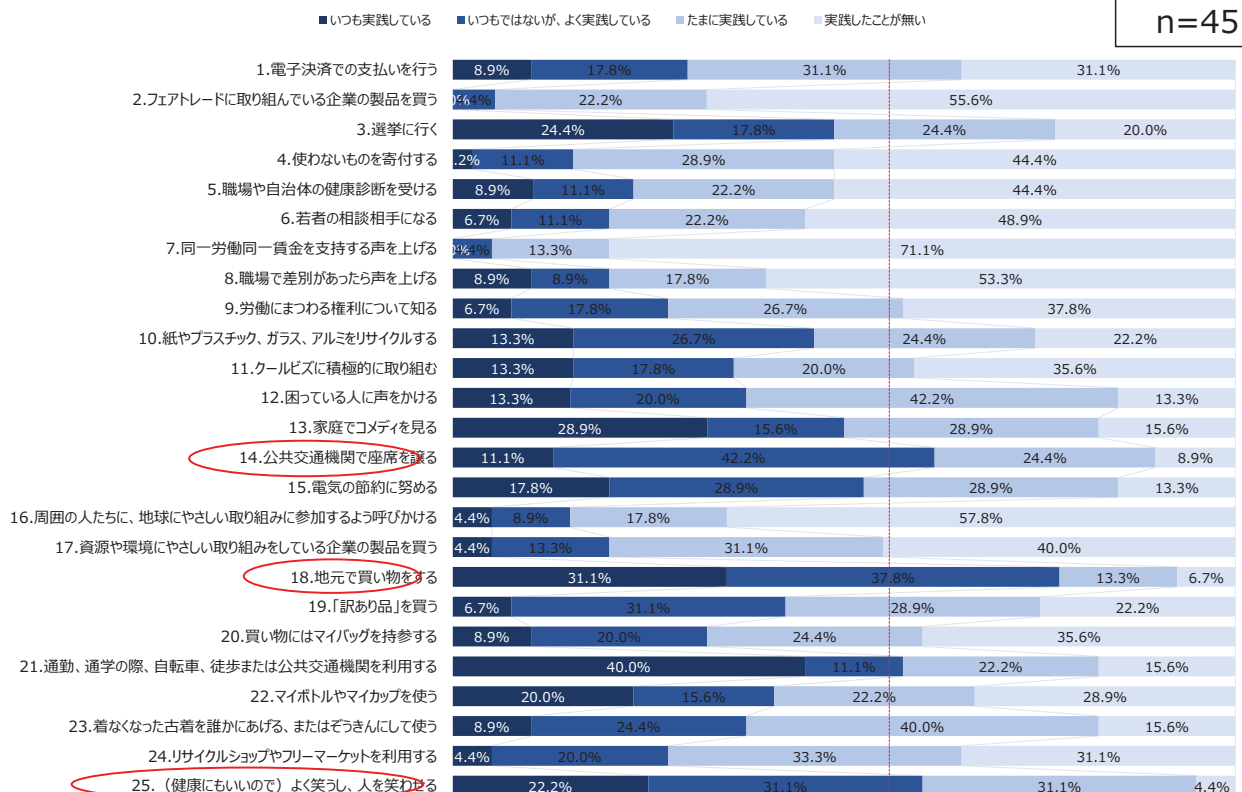


n=45

(2) 若者（学生）向け調査 ④大学別の傾向[大学C]

◆日常生活で実践していること

○「地元で買い物をする」、「公共交通機関で座席を譲る」、「よく笑うし、人を笑わせる」、をよく実践している人が多い。



n=45

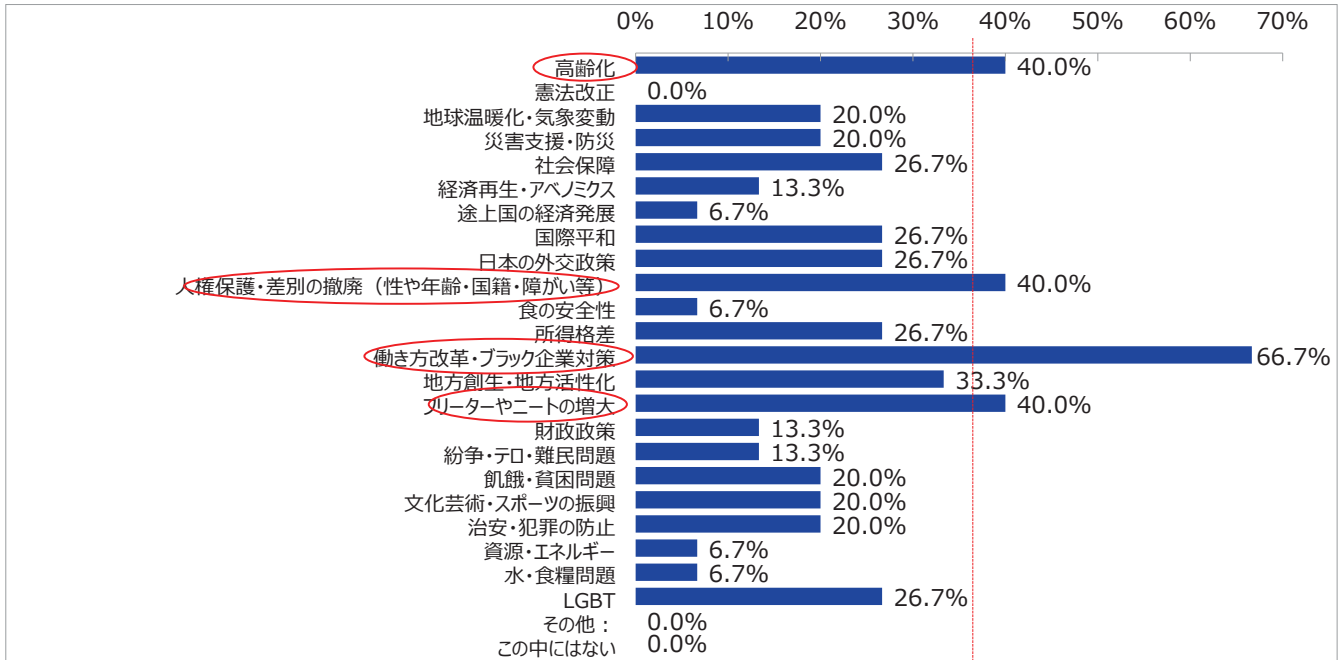
(2) 若者（学生）向け調査 ⑤大学別の傾向【大学D】

◆関心のある社会課題、時事問題

○社会課題として、「働き方改革・ブラック企業対策」、「高齢化」、「人種保護・差別の撤廃」、「フリーターやニートの増大」に対する関心が高い。

Qあなたが関心のある社会課題・時事問題について、次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

n=15



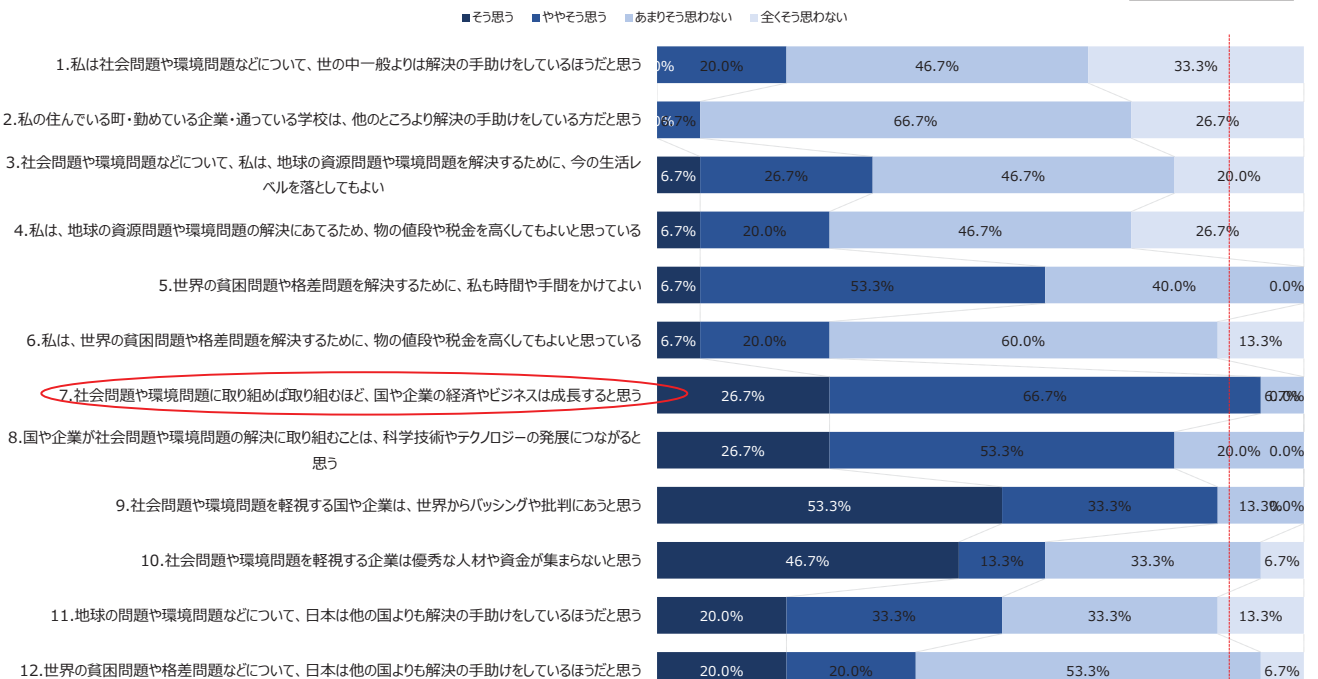
(2) 若者（学生）向け調査 ⑤大学別の傾向【大学D】

◆社会問題、環境問題に関する認識

○「社会問題や環境問題に取り組めば取り組むほど、国や企業の経済やビジネスは成長する」と考える人が多い。

Q.次の各項目について、あなたご自身の考え方に近いものを選択してください。

n=15



(2) 若者（学生）向け調査 ⑤大学別の傾向【大学D】

◆SDGsの認知度

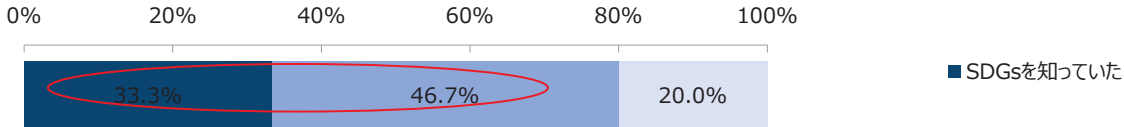
○SDGsの認知度は80.0%。

○SDGsについて認知している人は、持続可能な開発をめざすうえで、経済・社会・環境の統合が重要であることを理解している人の割合が高い。

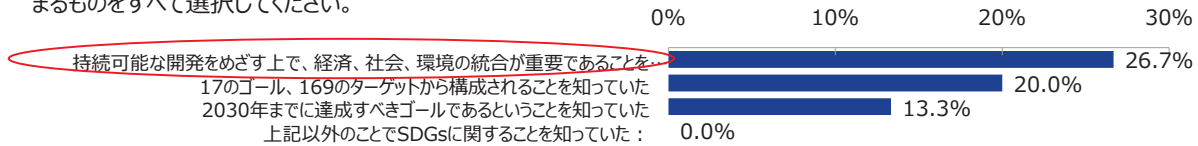
○SDGを知ったきっかけとしては、「職場・学校で聞いた」が多い。

Q.あなたは、「SDGs」を知っていましたか。次の中からあてはまるものを一つ選択してください。

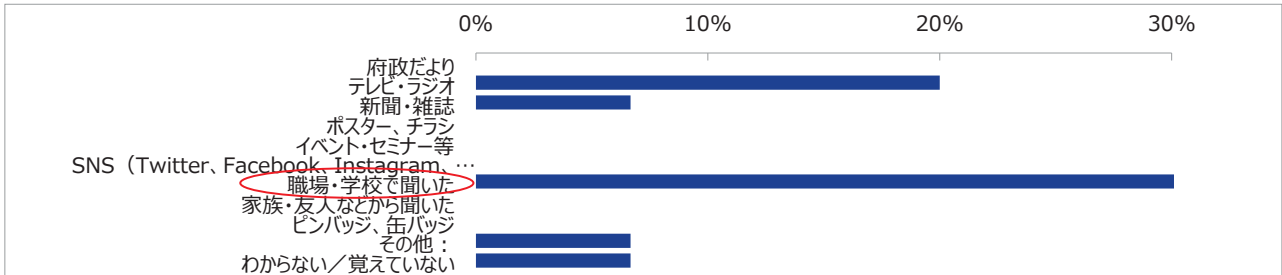
n=15



Q.（前問で「SDGsを知っていた」と答えた方にお伺いします）あなたは、SDGsについて、どんなことを知っていましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



Q.あなたは、どこで（何で）SDGsを知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

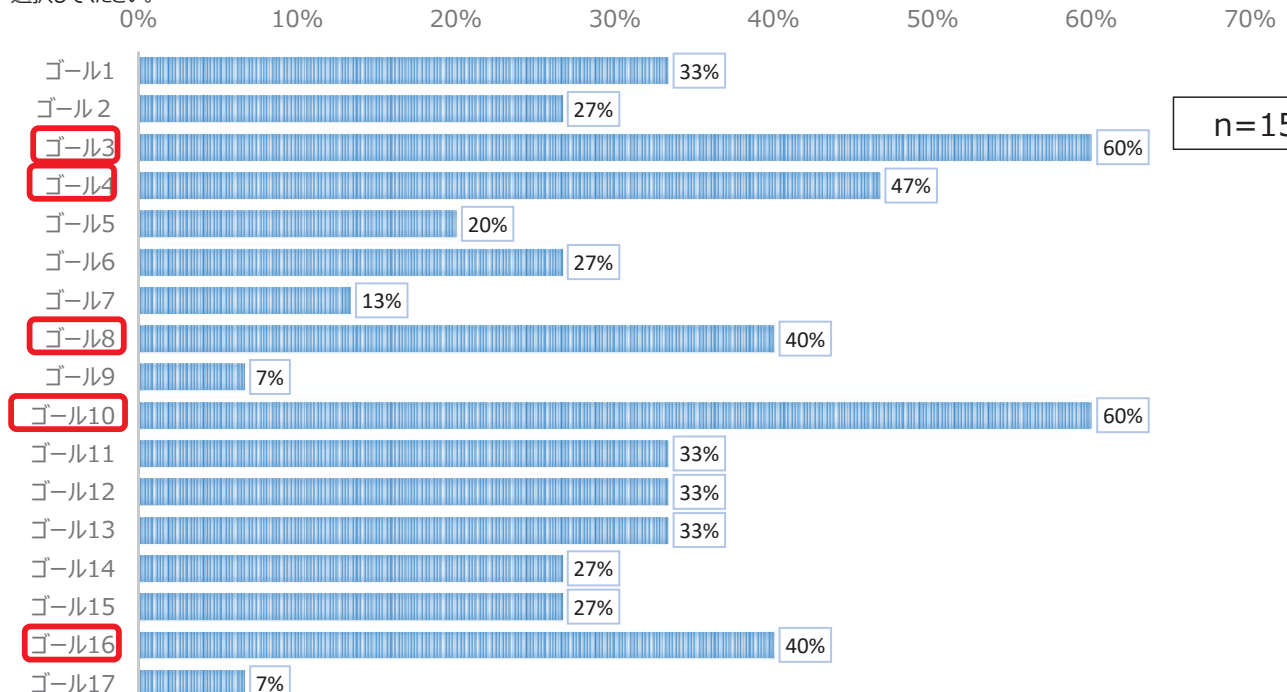


(2) 若者（学生）向け調査 ⑤大学別の傾向【大学D】

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール

○関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール3（健康）」、「ゴール10（不平等）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール16（平和）」が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

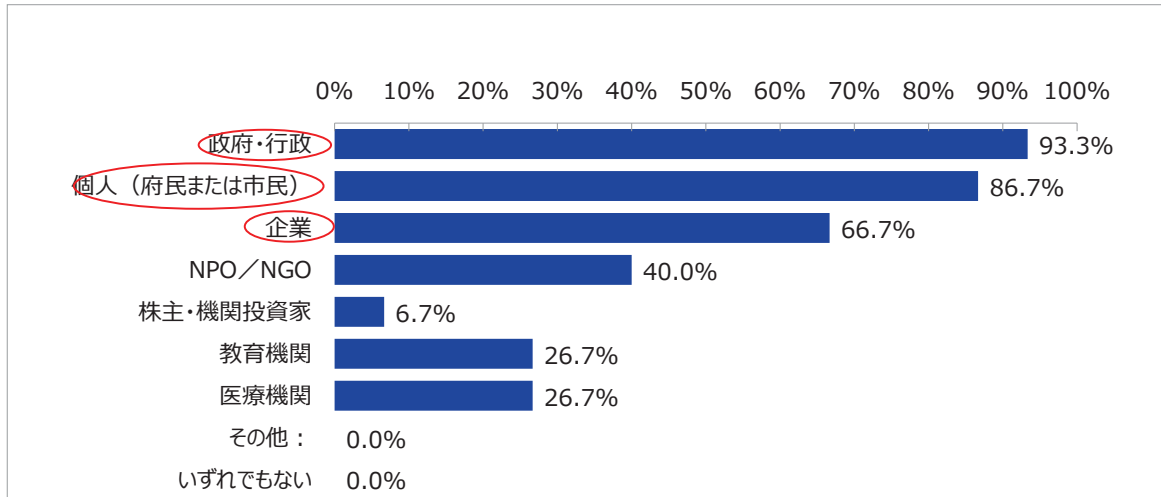


n=15

(2) 若者（学生）向け調査 ⑤大学別の傾向【大学D】

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
○「政府・行政」、「個人」、「企業」、の割合が高い。

Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。



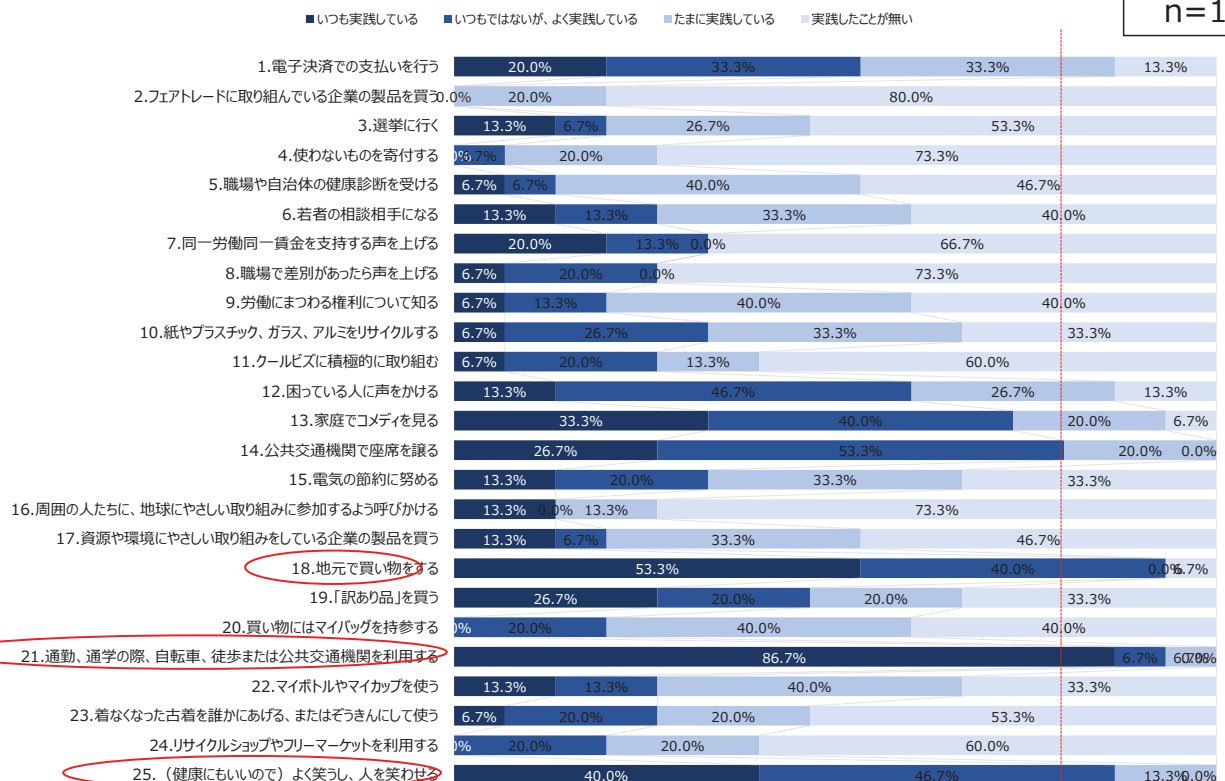
n=15

(2) 若者（学生）向け調査 ⑤大学別の傾向【大学D】

◆日常生活で実践していること

○「通勤・通学の際、自転車、徒歩または公共交通機関を利用」、「地元で買い物をする」、「よく笑うし、人を笑わせる」をよく実践している人が多い。

n=15



(3) 企業向け調査

<実施概要>

(「関西SDGsフォーラム」で実施)

- 対象：企業等に属する府内外居住者135人 ⇒ うち府内居住者68人
- 実施期間：2019年11月18日

◆主な調査事項

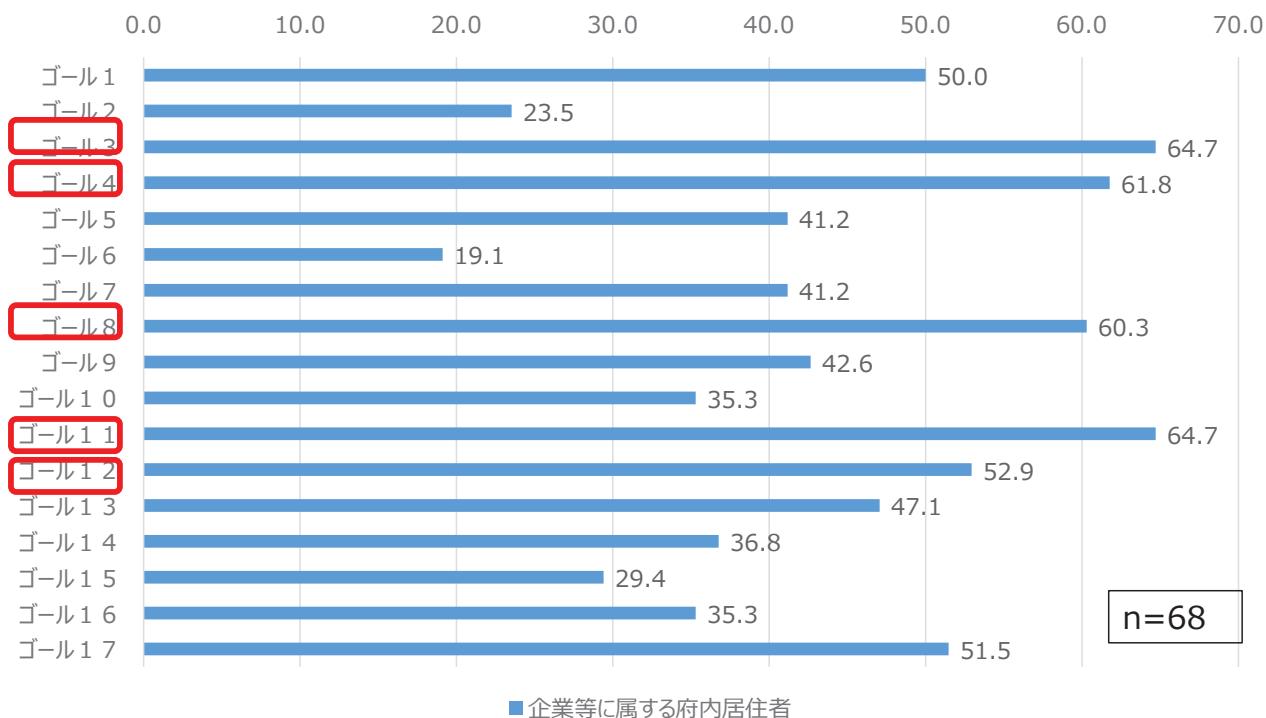
- ①大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール
- ②SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー
- ③日常生活で実践していること

(3) 企業向け調査

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（企業等に属する府内居住者）

○関心のあるSDGsのゴールは、「ゴール3（健康）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール12（生産・消費）」が多い。

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。



(3) 企業向け調査

◆大阪でSDGs社会を実現するために重要と考えるゴール（府外居住者、府内外の居住者全体）

○企業等に属する府外居住者

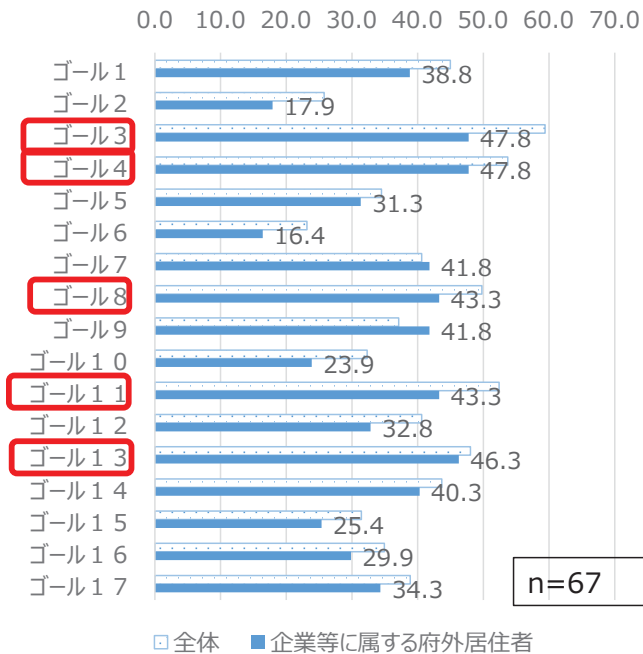
「ゴール3（健康）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール13（気候変動）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール11（持続可能都市）」

○企業等に属する人

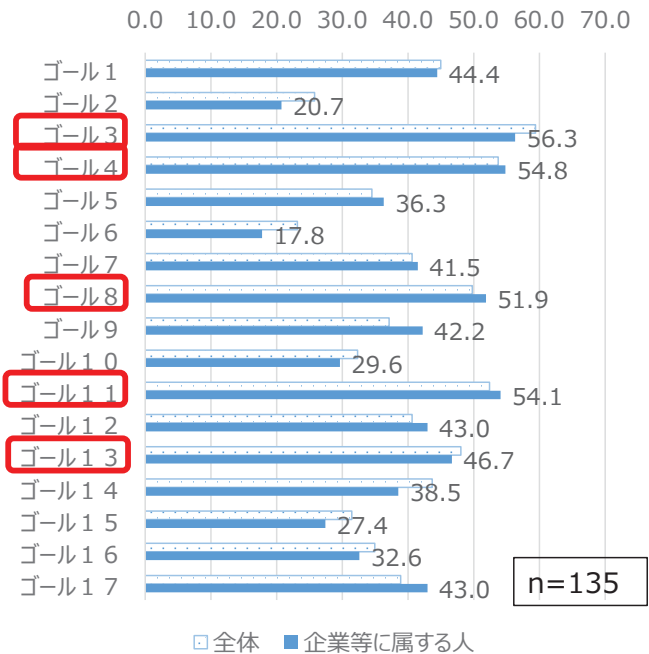
「ゴール3（健康）」、「ゴール4（教育）」、「ゴール11（持続可能都市）」、「ゴール8（経済成長・雇用）」、「ゴール13（気候変動）」

Q.SDGs17のゴールのうち、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を実現するために大阪で重要なゴールは何だと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選択してください。

企業等に属する府外居住者



企業等に属する人

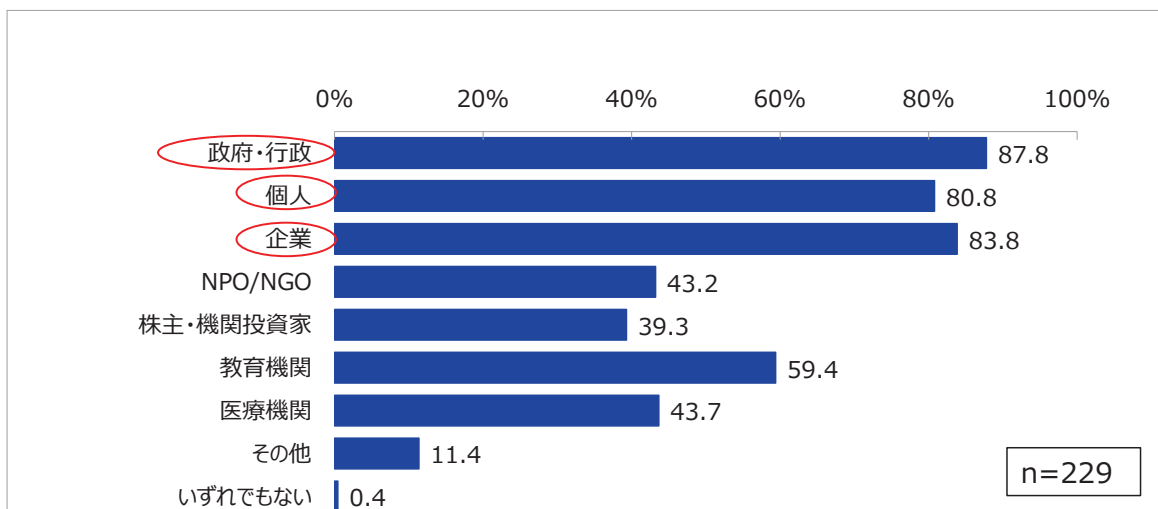


(3) 企業向け調査

◆SDGsの達成や社会課題の解決に向け、行動すべきステークホルダー

○「政府・行政」、「企業」、「個人」の割合が高い。

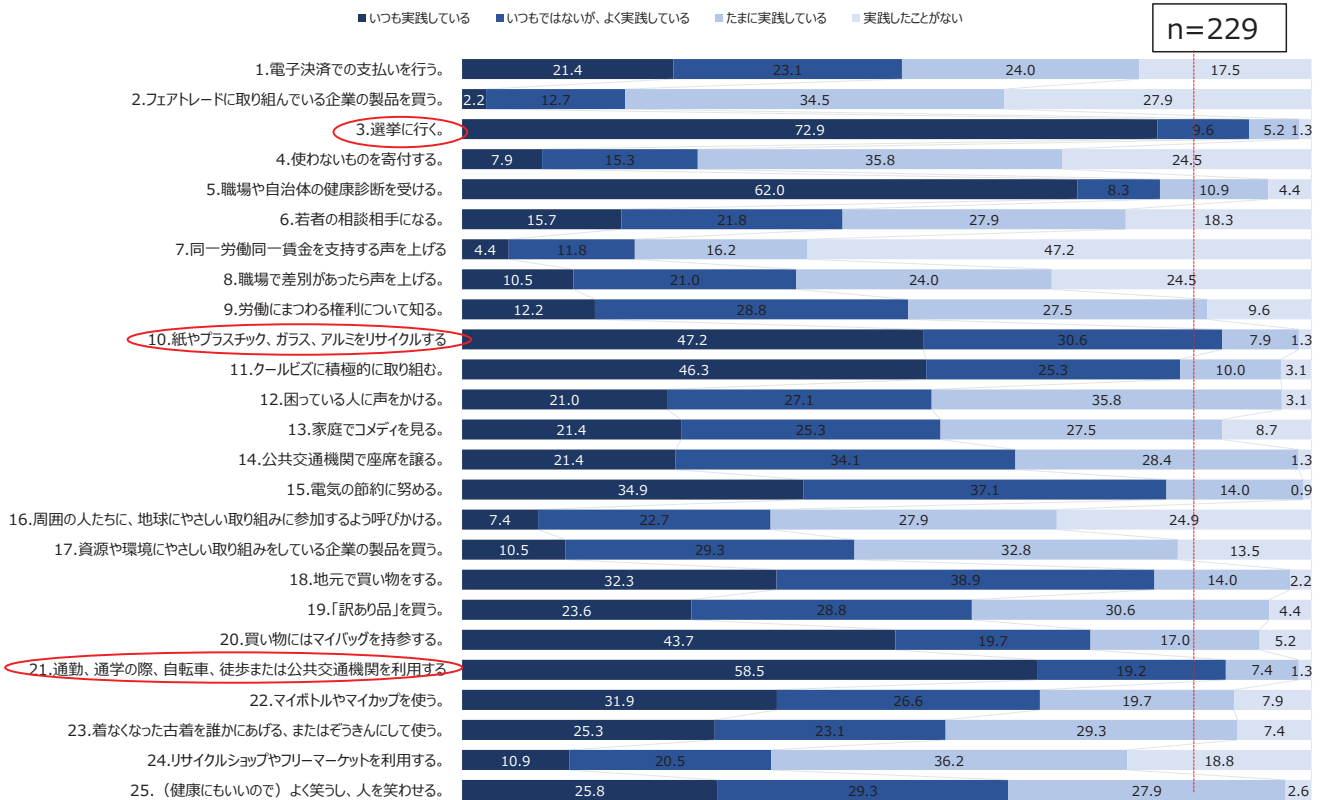
Q.「SDGsの達成」や国内外の「社会的課題」の解決に向けて、誰が行動すべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選択してください。



(3) 企業向け調査

◆日常生活で実践していること

○「選挙に行く」、「リサイクルする」、「通勤・通学の際、自転車、徒歩または公共機関を利用する」、をよく実践している人が多い。



最後に ～みんなでSDGsを進めるために～

SDGsは、一人ひとりが自律的に、それぞれの強みや課題意識の中で、17のゴールの達成をめざしていくということに、大きな意味があります。そうした中、本ビジョンでは、公表されている様々な指標や、府民、若者、企業の声、また、これまでの府の施策や世界の動きなどを踏まえ、大阪において、とりわけ、課題を克服すべきゴールや世界に貢献できるゴールを「重点ゴール」として示しています。

17ゴール全ての達成をめざすことと、重点ゴールを設定することには、一見矛盾があるようにも思えますが、SDGsは相互に関連しているため、例えば、重点ゴールの1つである「ゴール3 健康と福祉」と国際社会全体の課題である気候変動、それぞれに貢献する取組みとして、「少しの距離なら車やバスを使わずに歩く」といったような行動が広がれば、重点ゴールが底上げされ、世界のトップランナーに近づくことができるのではないかと考えています。重点ゴールを意識して行動することが、その他のゴールに波及し、17ゴール全ての達成につながり、その逆に、重点ゴール以外のゴールを意識して行動することが、課題のある重点ゴールの押し上げにつながるのです。

また、SDGsの取組みを真に持続可能なものとするためには、一人ひとりがメリットを享受する取組みであることも重要な要素です。大阪人は富を重視し、利益を追求するといった気質である一方、「三方よし」に代表される社会貢献、公利公益を重んじる精神も有しています。こうした大阪の特性をうまく活かし、府民も企業も、ちゃんとメリットも享受しながら、「どうせやったら良えことしよや」、「しゃーないな、いっちょやったらか」という、大阪人の良い意味でのおせっかいの気持ちを、地球や自然を守るために、また、子どもや孫など次の世代に豊かな暮らし、安心と安心を引き継ぐために、振り向けていくことで、大阪のあらゆる場所でSDGsを体現した行動がなされている姿を世界に向けて発信できると確信しています。

本ビジョンが、みんなでSDGsを考える一つの拠り所となり、大阪らしい「SDGs先進都市」が実現してほしいと願っています。



大阪府政策企画部企画室

〒540-8570 大阪府大阪市中央区大手前2丁目

電話：06-6944-6205 / FAX：06-6944-6207

email:osaka_SDGs@gbox.pref.osaka.lg.jp